

# 村アリ

末 日 聖 徒 イ エ ス ・ キ リ ス ト 教 会 ・ 1 9 9 9 年 9 月 号



# ホ ホ ホ ホ ホ



### 表紙

表紙——「嵐を静める」テッド・ヘニング画。裏表紙——「嵐の中、眠られるイエス」ジェームズ・ジャック・ジョセフ・ティン画。

### フレンド

写真/マリリン・アンドリュース

## 一般

- 2 大管長会メッセージ——すばらしい生き方を求めて  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 14 贖罪はどのように離婚から立ち直す助けとなったか
- 24 グレープフルーツ症候群 ローラ・B・ウォルターズ
- 25 家庭訪問メッセージ——逆境のときに救い主に心を向ける
- 32 神殿のガーメント「内なる決意の表れ」  
七十人第一定会名誉会員 カーロス・E・エイシー
- 40 オールド・デゼレト・ビレッジ
- 48 御霊により高められる エバニール・カルドン

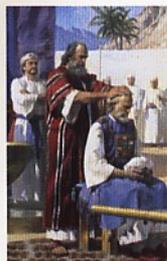
## 青少年

- 9 モルモンメッセージ——地球はあなたの第2の故郷
- 10 彼らは前もって備えていました F・オンエブエズ・メリベ
- 20 走っても疲れることなく アン・ピリングズ
- 26 質疑応答——どうすればうわさ話を避けられるでしょうか
- 30 福音を中心とした活動のタペ
- 44 チャレンジを受け入れる 十二使徒定例会 L・トム・ペリー



## フレンド

- 2 分かち合いの時間——わたしたちは、イエス・キリストとふくいんについて  
あかしすることができます シドニー・S・レイノルズ
- 4 主を信頼する ロビン・B・ランバート
- 8 イエス・キリストをあかしする人たち
- 10 友達になろう——ベルギー、ワテルローに住む  
バプロ・バレーラとウーゴ・バレーラ ジュリー・ウォーデル
- 13 証 ゴードン・B・ヒンクレー大管長
- 14 ミミのあかし ジーン・N・バーゴン作



32ページ参照



「フレンド」  
13ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。  
月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。  
隔月刊—インドネシア語、タイ語。  
季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長: ジャック・H・ゴースリンド  
顧問: ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン  
教科課程管理部責任者  
実務部長: ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ  
編集主幹: マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン  
編集副主幹: ロジャー・テリー  
編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド  
工程管理: ベス・デーリー  
出版補佐: コニー・シェークスピア

デザインスタッフ  
機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ  
アートディレクター: スコット・パン・カンペン  
デザイナー主任: シェリー・クック  
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ  
制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ジェンソン・L・マンフォード、ディーン・L・ソレンソン  
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン  
予約購読スタッフ  
ディレクター: ケイ・W・ブリッグズ  
配送部長: クリス・クリステンセン  
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、『リアホナ』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
印刷所 理工印刷株式会社  
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines September, 1999. Japanese. 99989 300

For Readers in the United States and Canada:  
September, 1999 no. 9. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

## 宝物

わたしはホンジュラスのテグシガルバ伝道部で働く宣教師です。ある日、病気の同僚の世話をしていたとき、1988年から1998年までの『リアホナ』(スペイン語版)が詰まった箱を見つけました。わたしは宝を見つけたのです。

同僚が病気から快復するまでの間、わたしは機関誌を読み、エズラ・タフト・ベンソン大管長、ハワード・W・ハンター大管長、そして現在の預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えについて多くのことを学びました。このような知識の宝を見つけたことにとても感謝しました。

この経験はわたしが伝道するうえで助けとなっています。『リアホナ』をだれかと分かち合う度に、光と知識と偉大な宝を彼らの手にもたらしっていると感じます。この力強い宝はわたしも含めて、多くの人の人生を変えました。ホンジュラス・テグシガルバ伝道部、ヴェロニカ・ソリス・ヴェラスケス姉妹

## ほかの人の経験によって高められる

わたしは落ち込むと、『リアホナ』(スペイン語版)に引き寄せられるように感じます。そして、『リアホナ』の中でわたしと同じような試練を経験した人や、福音に従った生活を送ったおかげですばらしい祝福を経験した教会員の話を読む度に、いつも心が高揚します。

わたしは1993年に改宗しました。家族で唯一の教会員です。メキシコにあるわたしの小さな故郷に、宣教師が送られる日がいつか訪れるのを待ち焦がれています。そして、その日が来たら、家族がわたしと同じように福音を受け入れてくれるよう願っています。わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会を愛して

います。神が生きておられることを知っています。なぜなら、自分の人生に神の愛と憐れみを見いだしたからです。アイダホ州リグビーステーキ、リグビー第9ワード、ルーベン・ゴメス

## 多くの方法で与えられる靈感

『リアホナ』(英語版)に採り上げられる、日々の生活に即したテーマや靈感に満ちた記事すべてに感謝しています。わたしは時間があれば『リアホナ』を読み、友人にもそうするように勧めています。この機関誌はわたしにとって、様々な意味で靈感の源となっています。わたしを慰め、生まれ変わらせ、鼓舞し、救い主にさらに近づけるように助けてくれます。

フィリピン・マスバテ地方部、マスバテ支部、ジョセフィン・パリス

## 結婚生活と家族に関する記事を募集しています

お互いの関係を強めるために、皆さんはご家族とどんなことをしていますか。どんな活動をしたときに、お互いの関係が、そして主との関係がより密接なものとなりましたか。『リアホナ』では、結婚生活ならびに家族関係を強めることをテーマにアイデア、物語、経験、証を募集しています。できれば、ご家族の写真を添えて住所、氏名、電話番号、所属のステーク/地方部、ワード/支部名を明記のうえ、下記のあて先までお送りください。氏名に関しては、記事に登場する全員のお名前をお書きください。  
Strengthening Families, International Magazine, 50 East North Temple Street, Floor 25, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA  
E-メール送信する場合のアドレスは、CUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgです。



## すばらしい生き方を求めて

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

# わ

わたしが初めて次のような言葉を読んだのは、67年前、大学の英語のクラスでのことでした。「人間とはなんたる自然の傑作か、理性は気高く、能力はかぎりなく、姿も動きも多様をきわめ、動作は適切にして優雅、直感力はまさに天使、神さながら、この世界の美の精髓、生あるものの鑑<sup>かがみ</sup>、それが人間だ。」(シェイクスピア『ハムレット』第2幕第2場303-307行、小田島雄志訳『シェイクスピア全集』白水社、462)

わたしは、ハムレットが反語的な意味でこのような言葉を言ったことは承知しています。しかし、その中に実に多くの真実が含まれていることも事実です。この言葉の中には、人がすばらしい存在となり得る偉大な可能性を秘めていることが語られているのです。もしシェイクスピアがこれ以外の言葉を残さなかったとしても、わたしは、この独白の数語だけでも、シェイクスピアは人々の記憶に長くとどまっていたらろうと考えています。この言葉は、ダビデの次の言葉と同じ内容のことを語っています。

「わたしは、あなたの指のわぎなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。

人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。



**神の御子は皆さんにとって最も偉大な模範です。わたしは、皆さん一人一人が御子を友としてくださるよう願っています。また、主の道を歩む努力をしてくださるよう願っています。慈悲を施し、苦しむ者に祝福をもたらし、利己心を抑えて生活し、ほかの人々に助けの手を差し伸べてくださるよう願っています。**

ただ少しく人を〔天の御使い〕よりも低く造って、栄えと誉とをこうむらせ……。」(詩篇8:3-5)

シェイクスピアの言葉はまた、主がつむじ風の中からヨブに向かって語られたときの言葉とも、その内容を一にしています。

「わたしが地の基をすえた時、どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え。

かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった。」(ヨブ38:4, 7)

この格調高い言葉は、人の存在のすばらしさを声高らかに宣言しています。人の存在のすばらしさを語るとき、もちろん男性か女性かは関係ありません。わたしたちは皆、神の子どもであり、一人一人が何かしら神の特質を受け継いでいるのです。わたしたちは、地上のどこかに住む、だれかとだれかの間に生まれた息子、娘以上の存在です。わたしたちは神の家族の一員なのです。わたしたちには、すばらしい存在になることのできる、実に豊かな可能性があります。平凡な存在とすばらしい存在との差は、ほんの紙一重だと言うことができます。2002年にソルトレークで冬季オリンピックが開催される時、そうした差がわずか10分の1秒単位で争われるということを再び実感することでしょう。わたしたちの積み重ねるほんのわずかの努力の差が大きな違いを生み出すのです。

わたしは、最近、幹部の兄弟の一人が刑務所を訪問したときの話を聞く機会がありました。そこで、兄弟は一人の青年と出会ったのですが、その青年は外見も立派で、話し方も知性を感じさせる人物でした。

その幹部の兄弟は、刑務所の職員にこう尋ねました。「あの青年は一体どういうことでここに服役しているのですか。」

その回答はこうです。ある晩、この青年は母親の車を勝手に持ち出し、あらかじめ入手しておいたビールを飲み、そのために抑えが利かなくなってしまう、車を運転して歩道に乗り上げ、二人の女の子をひき殺してしまったというのです。

わたしは、この青年がこれからどれくらいの期間懲役に服さなければならないのか、分かりません。分かっていることは、この青年は自分を刑務所へ送り込む原因となった行いについて、いつまでたっても自分の気持ちを完全に克服することはできないということです。実に、このような小さなちようつがいの働きで、わたしたちの人生の様々な扉が開いていきます。小さな過ちは、最初は取るに足りないものに見えたとしても、わたしたちが永遠の道をどう進むかを、決めていくのです。

わたしは、わたしたちが皆、より気高いすばらしい生き方を求めて歩むよう、心から願っています。最近のことで



挿し絵／フローレンス・ナイチンゲールの肖像画 © SUPERSTOCK

すが、わたしは1冊の古い本を取り出して読んでみました。リットン・ストレイチーの『フローレンス・ナイチンゲールの生涯』(Life of Florence Nightingale)です。今ではこのようなたぐいの本はあまり読まれなくなっているのかもしれませんが。この本については、わたし自身はかなり昔に一度読んだ記憶がありました。しかし、この伝記を再読してみると、あの時代にあって大きな違いを生み出したイギリスの偉大な若き女性について、改めて称賛と尊敬の念がわき起こってきたのです。

ナイチンゲールは、上流階級の生まれでした。パーティーや舞踏会へ行ったり、競馬に出かけたり、社交界で華を競ったりできる階級でした。しかし、彼女はそのような生活はまったく望みませんでした。その気持ちは、彼女の両親でさえ理解することはできませんでした。彼女が心の底からひたすら願ったことといえば、苦しみや痛みを軽減すること、治療を速やかに行うこと、そして当時の病院の悲惨な状況を少しでも改善することでした。一度も結婚を



「慈悲の業：スキュタリで負傷者を受け入れるフローレンス・ナイチンゲール」ジェリー・バレット画 イギリス・ロンドン、国立肖像画美術館。

することのなかった彼女は、看護にその生涯をささげ、当時としては受けられる限りの訓練を経て、その道の専門家となったのです。

イギリスがクリミア戦争に巻き込まれたとき、彼女は政府の中枢にいた友人に申し出て、ひたすら説得し、ついに、彼女をスキュタリにある病院の長に指名してもらうことに成功しました。スキュタリには、何千という戦争犠牲者が運び込まれていたのです。

しかし、このスキュタリで彼女を迎えた光景は、絶望以外の何物でもありませんでした。そこでは古い倉庫が病院に転用されていたのですが、衛生状態は最悪で、厨房も悲惨な状態でした。負傷者は大部屋に詰め込まれ、その部屋からは悪臭が漂い、苦しみにうめく声が充満していました。

このか弱い若き女性は、同行してもらうために自分自身で集めた仲間とともに、仕事に取りかかりました。彼女たちは政府の規制により生じていた様々な障壁を次々に打ち

**恐らくは、世界の歴史の中で、  
フローレンス・ナイチンゲールほど、  
人類の苦痛を軽減するために  
貢献した女性はいないと思われます。  
19世紀の中ごろに、  
スキュタリの広大な病棟を歩き回り、  
苦痛に打ち震える人々に  
活力と慰めを与え、  
信仰と希望とを与え続けてきたのです。  
彼女は実にすばらしい生き方を貫いて、  
生涯を送りました。**

崩していったのです。ここで、ストレイチー氏の言葉を引用しておきましょう。「彼女は不屈の勇氣と揺るぎない決意とをもって、日夜ベッドからベッドへと動きまわり、寝なくても疲れを知らぬ人のように、病人たちの看護に当たった。そういう彼女を見ている人たちには、自分がどんなにひたすら献身的に働いて力を集中しても、その看護の仕事だけでさえ彼女のようにやりつくせないように思えた。だだっ広い病室において苦しみがいちばんひどく、助けがいちばん必要なところに、魔法のように必ずナイチンゲール女史がいた。」(『ナイチンゲール伝』橋口稔訳、岩波文庫、36-37)

苦しむ人々を収容するベッドは、長さ6キロにわたって、延々と置かれており、2台のベッドの間を歩く透き間もないほどでした。しかし、何とか6か月の間に、「病室に逼迫した混乱はなくなっていた。病室を、秩序と清潔が支配していた。物品は速やかに、豊富に供給されていた。不可欠な衛生上の処置はちゃんと取られていた。ある数字の比較一つで、並々ならぬ変化が明らかとなろう。治療した患者の死亡率が、100人に42人から、1,000人に22人に下がったのだ。」(同上、45-46)

彼女は間違いなく奇跡を起こしたのです。何千という人々の生命が救われました。苦痛も和らげられました。彼女の助けなしには、あの暗く恐ろしい場所で命を落としていたであろう人々に、活力と温かさと光とがもたらされたのです。

戦争は終わりを告げました。彼女は英雄としてロンドンへ帰還することもできました。メディアは彼女の働きを賞賛する声であふれかえっていたからです。彼女の名前を知らない者はだれ一人いません。しかし、彼女は、本来受けるはずの賞賛を避けるように、人知れず帰還したのでした。

彼女はそれから50年以上、仕事を続けます。そして、軍隊の病院にも民間の病院にも大きな変革をもたらしたのです。彼女は晩年、しばらくの間寝たきりになりましたが、高齢で亡くなるまで、苦しむ人々の環境改善のために働き続けたのでした。

恐らくは、世界の歴史の中で、この灯火を手にした貴婦人ほど、人類の苦痛を軽減するために貢献した人はいないと思われます。19世紀の中ごろに、スキュタリの広大な病棟を歩き回り、苦痛に打ち震える人々に活力と慰めを与え、信仰と希望とを与え続けてきたのです。彼女は実にすばらしい生き方を貫いて、生涯を送りました。

わたしの妻は、ある一人の友人の話を好んで聞かせてくれます。その友人は、まだ幼いころに孤児になりました。母親のことはほとんど知りません。大きくなるにつれ、彼女は自分の母親について興味をわいてきました。自分の母親はどんな女の子だったのだろうかとか、どんな女性だ

ったのだろうか、といったことです。

ある日、彼女は偶然母親の古い通知表を見つけます。その通知表には、教師のコメントが次のように書かれてありました。「この生徒はあらゆる面ですばらしい。」

この一文を読んだとき、彼女の人生は完全に変わりました。自分の母親がすばらしい女性であったことを知ったからです。彼女の生き方そのものにも大きな変化が現れました。すばらしい母親の影響に完全に染まり、自らも実にすばらしい女性になったのです。彼女はある男性と結婚しましたが、その男性も社会で広くその働きを認められている人物ですし、また子供たちもすばらしさという点で、実に優れた人物となっています。

わたしはここでもう少し努力をする必要があると申し上げます。もう少し自分を訓練し、もう少し自分をささげる努力をし、すばらしい生き方を目指したいものだと考えます。

現在は、わたしたち一人一人にとって大いなる決断の時代です。多くの人々にとって、生涯にわたって続けていくことのできる何かを始めるときです。皆さんにお願いします。つまらない存在にはならないでください。霊的にも精神的にも肉体的にもすばらしいレベルを目指して立ち上がってください。皆さんならそれができます。皆さんは天才ではないかもしれませんが、何らかの技能に欠けたものがあるかもしれません。しかし、わたしたちの大部分は、現在自分でやっている以上のことを成し遂げることができるのです。わたしたちはこの偉大な教会の会員であり、今ではこの教会の影響が世界中の至る所で感じられています。わたしたちは現在を歩み、将来に向かって歩んでいる民なのです。皆さんに与えられている機会を無駄にしないでください。すばらしい存在となってください。

皆さんの中でまだ結婚していない人々は、ほかの何よ



りも、まず伴侶を見つけたいと望んでいることでしょう。わたしがそういう皆さんのために心から願うことは、良い結婚をしていただきたい、幸福な結婚をしていただきたい、そして、麗しく満足のいくものを備えた生活の中で、実りある結婚生活を送っていただきたいということです。それ以上の願いはありません。皆さんの結婚生活が、もし口論で弱まるようなことがあれば、あるいは互いに尊敬し合えないような要素で満ちていたとしたら、そしてまたお互いに忠誠を尽くし深い愛情で結ばれるという点で欠けたところがあるとすれば、それはすばらしい結婚生活とはなりません。皆さんの伴侶を、人生の最大の宝として大切にしてください。そしていつもそのような思いで接してください。自分の伴侶のためにより多くの幸福と慰めをもたらし、絶えず目標としていてください。自分の愛情や尊敬、誠意を互いに示さなくてもいいなどは決して思わないでください。あらゆる面ですばらしい者となってく

**預言者モロナイは  
こう宣言しています。**

**「神は、御子を送ることによって  
もっとすばらしい方法を  
備えられた。」  
もう一段、努力を  
積み重ねてください。そうすれば、  
今より幸福になることができます。  
心の中に新しい満足感を覚え、  
新しい喜びを味わうこと  
になるでしょう。**

「キリストと金持ちの若い役人」ハインリッヒ・ホフマン画  
挿入画「わたしの言葉を得るであろう」ジュディス・メアー画



ださい。

神の御子は皆さんにとって最も偉大な模範です。わたしは、皆さん一人一人が御子を友としてくださるよう願っています。また、主の道を歩む努力をしてくださるよう願っています。慈悲を施し、苦しむ者に祝福をもたらし、利己心を抑えて生活し、ほかの人々に助けの手を差し伸べてくださるよう願っています。

主は、世界のあらゆるものの中で、すばらしさに関して最も偉大な模範を示してくださっています。主は、最も質素な環境の下でこの世に生まれてくることをへりくだって受け入れられました。そして、大工のヨセフの息子として成長し、誘惑の山では悪魔と戦われました。主は、世の人々に教えるために、輝きと華麗さと壮麗さを携えてこの世においでになりました。業を進められた期間は短くとも、それまでこの地上に生を受けたどの人よりも多くの真理と希望、慈悲と愛をもたらしてくださったのです。主はカルバリの丘の上でわたしたち一人一人のためにその命をささげられました。そして、3日後に「眠っている者の初穂として」(1コリント15:20)よみがえられ、全人類に復活の約束をもたらし、そして主の教えに従順に歩もうとする者たちすべてに、昇栄の希望をもたらしてくださったのです。主は義の大いなる模範であり、地上に生を受けた者の中で、唯一の完全な御方でした。主の示された模範こそ、わたしたちがすばらしい生き方を永遠に求めて歩んで行くときに、わたしたち一人一人の生活の指針となる、実に優れた模範だったのです。

預言者モロナイは次のように宣言しています。「神は、御子を送ることによってもっとすばらしい方法を備えられた。」(エテル12:11)皆さんにはその信仰の証拠があります。皆さんにはその信仰の証があります。皆さんにその信仰の模範があるのです。皆こぞって、もう少し高い所に立ち、もう少し高き道を目指し、もう少し良い人間になるうではありませんか。もう一段、努力を積み重ねてください。そうすれば、今より幸福になることができます。そうすれば、心の中に新しい満足感を覚え、新しい喜びを味わうことになるでしょう。

イエスはこう言われました。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)これは、いわばすばらしさの極致とも言える偉大な模範です。わたしたち一人一人が、その方向を目指して、豊かですばらしい生活を送ることができますように。わたしたちは一朝一夕で完全な者となるわけではありません。また、生涯かけても、その目標に到達できるわけではありません。しかし、わたしたちはその努力を続けることはできます。この生涯で前進を続けていくとき、まずだれの目にも明らかなたたしみの弱点の把握

から始めて、それを少しずつ強さに変えていこうではありませんか。

「神に頼って生きるようにしなさい。」(アルマ37:47)神の前にひざまずいて、祈り求めてください。神は必ず皆さんを助けてくださいます。皆さんを祝福し、慰め、支えてくださいます。そこには進歩があります。成長があります。発達があります。そして、幸福がはるかに増し加えられるのです。

もし過去に何か過ちがあったとしても、あるいは罪を犯したことがあったとしても、あるいはまた、怠惰だったことがあるとしても、必ずやそれを克服することができるのです。

皆さんに与えられている機会は実にすばらしいもので、期待されている富や世俗の成功をはるかにしのぐものです。ただし、そうした機会の重要性は、多少目立たないところにあるのかもしれない。例えば、人を励まし、強めること、苦しみを和らげてあげること、世界を少しでも良い場所にするために援助すること、世界中にある苦痛にうめく人々の病棟を歩くとき、フローレンス・ナイチンゲールの点じた灯火を掲げ、持ち歩くこと、などがそれだからです。

造り主については、「よい働きをしながら……巡回されました」(使徒10:38)と書かれています。その過程で、造り主は完全な者となる至高の模範を示されたのでした。

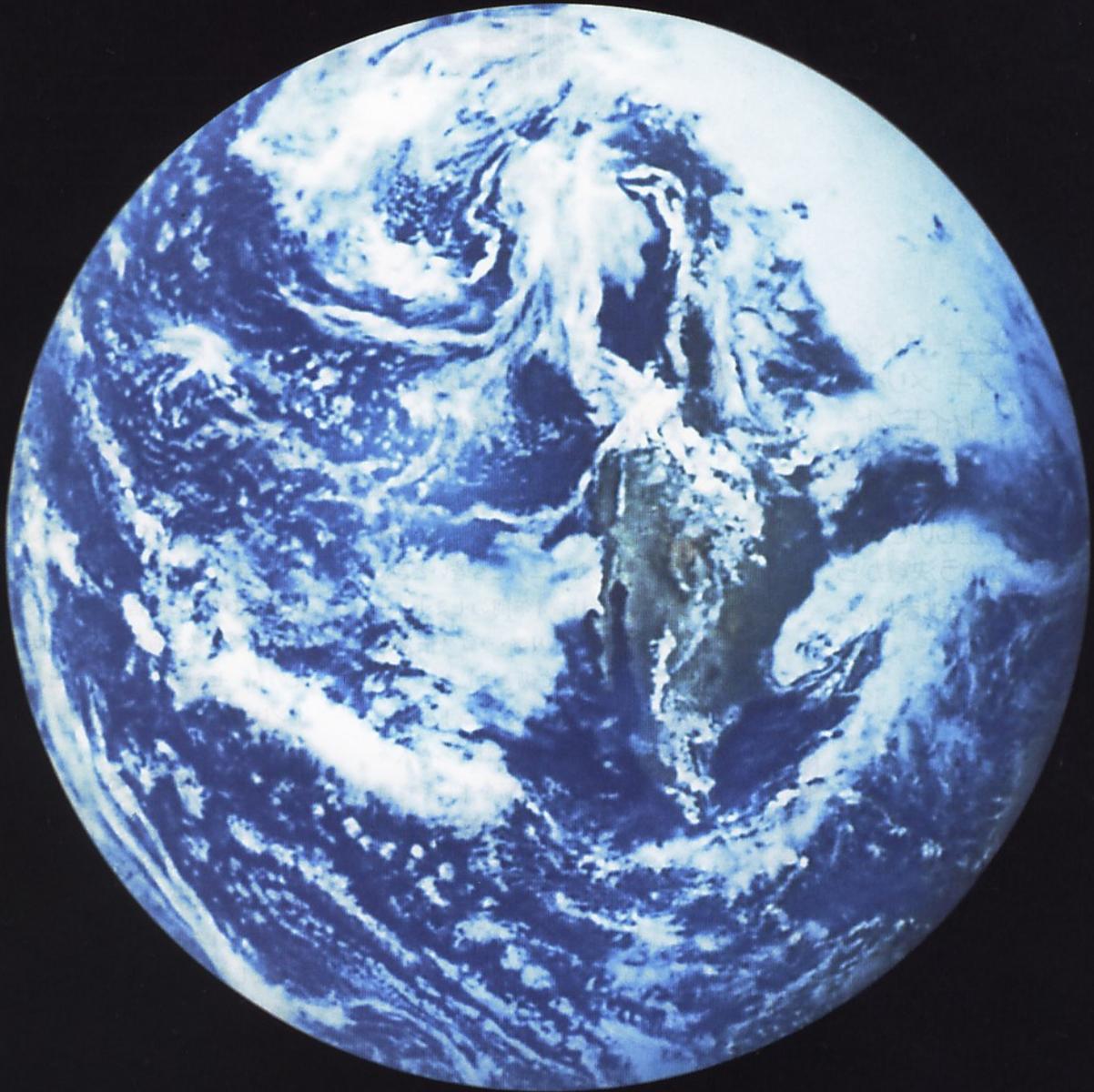
わたしたちが主の求められた完全な者となる道を、希望と信仰と「キリストの純粋な愛」である(モロナイ7:47)慈愛をもって歩むとき、主がわたしたち一人一人を祝福してくださいよう、心から祈っています。□

#### ホームティーチャーへの提案

1. わたしたちは神の家族の一員であり、すばらしい存在になることのできる、実に豊かな可能性を持っています。
2. わたしたちは、もう少し努力をし、もう少し自己訓練をし、そして、より気高いすばらしい生き方を求めて歩むよう、求められています。
3. フローレンス・ナイチンゲールは、すばらしい生き方を求める人の模範となりました。
4. わたしたち一人一人にとって、今は大いなる決断の時代です。霊的にも精神的にも肉体的にも高いレベルを目指して立ち上がりましょう。
5. すばらしい生き方をしようとするわたしたちの最も偉大な模範は、神の御子の中に見いだすことができます。
6. わたしたちが自分を高めようと努力するときには、神の前にひざまずいて、祈り求めましょう。そうすれば、神は必ずわたしたちを助け、支えてくださいます。

モルモンメッセージ

地球はあなたの  
**第2の故郷**



「あそこに空間があるので、わたしたちは降って行こう。  
そして、……これらの者が住む地を造ろう。」  
(アブラハム3:24)

# 彼らは 前もって 備えていました

F・オンエブエズ・メリベ

写真/作者の厚意により掲載

ヒューストン・  
チンウェオキ・メリベと  
レイモンド・  
イディオ・エグボには、  
多くの共通点があります。  
彼らは、正しいことを  
選ぶという決意から  
祝福を受けました。

**ヒ**ューストン・チンウェオキ・メリベとレイモンド・イディオ・エグボには、多くの共通点があります。伝道に出るまでは、互いに知り合って友情をはぐくむ機会はありませんでしたが、二人とも母国ナイジェリアで教会に改宗しました。二人とも若いときにバプテスマを受け、4年間のセミナーを修了し、ナイジェリア・ラゴス伝道部で専任宣教師として働きました。ラゴス伝道部では、約80パーセントの宣教師が、ナイジェリアで生まれ育った人々でした。二人とも全時間を主にささげて働き、チャレンジと困難に直面しましたが、前もってよく備え、正しいことを選ぶと決心していたので、祝福を受けました。

## セミナーでの準備

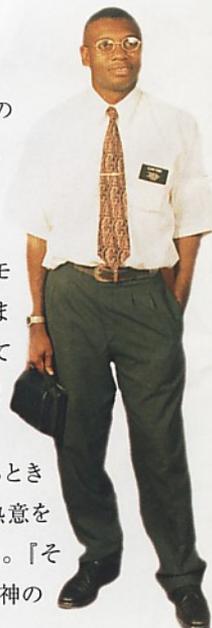
ヒューストンとレイモンドは、ナイジェリアで火曜日から金曜日の夕方に開かれたセミナーに出席し、卒業しました。そのことが、正しい選択を行うための助けになったのです。「わたしが最初に伝道に出たいという望みを持ったのは、

セミナーを通してでした」とレイモンドは当時を振り返って語ります。

「セミナーにより、わたしが伝道中に教える福音の原則と教義を簡単に理解できるようになりました。セミナーは、生徒が原則を理解できるように分かりやすく教えてくれます。また、福音が真実であると確信を持たせてくれたのも、人々を教えられるように助けてくれたのも、セミナーでした」と、ヒューストンは言います。

## 聖文により強められる

セミナーはさらに、この二人の若者が聖文を研究することを学び、聖文から力が得られるように助けてくれました。「わたしは、モルモン書から力を得ています」と、レイモンドは述べています。「モーサヤ書第2章41節のベニヤミン王の言葉は、大きな障害があるときでも、伝道を続けていく熱意をわたしに与えてくれました。「そしてさらにあなたがたは、神の





戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。』」

ヒューストンの強さは、救い主について学び、深く考えるところから来ています。彼はこう説明しています。「宣教師として、自分はキリストに仕えるためだけでなく、キリストの模範に従うために召されたのだと考えるようにしています。困難に遭ったときはいつでも、イエス・キリストも多くの困難に遭いながらそれを克服されたことを思い出します。わたしの強さと決意は、主から来ています。だからこそ主のように、わたしも困難を乗り越えられるのです。」

### 従順と熱心な働きから祝福を受ける

この二人の若者は、伝道に出る前から、従順の重要性について理解していました。特に、伝道部の規則に対する従順です。ヒューストンはこう説明しています。「規則に従うのは、神の戒めを守るのと同じであると思っていました。伝道を始めたとき、自分が達成したいことに対する明確なビジョンを持っていました。成功するためにわたしの力でできるすべてのことをしようと思いました。また、正しいことを選ぶ強さを求めて、度々断食して祈りました。伝道を始めてすぐ熱心に働く決心をしました。」

レイモンドはこう続けます。「伝道を始めてすぐ、『熱心な働きは知性に勝る』ことを知りました。(ジェームズ・E・ファウスト「伝道に出る前に息子に知ってほしいこと」『聖徒の道』1996年7月号、48)また、モルモン書の研究を集中して行うことで、自分を霊的に高めようと思いました。わたしは伝道に出た当初から、伝道部の規則に従うとともに、聖文の研究と能力の限りを尽くして働くことで自らを備えようと決意していました。」

### 困難を乗り越えて成長する

彼らは、伝道地に着くとすぐにこれらすべての準備を活用し始めました。とはいえ、彼らの準備は、困難による苦しみから守ってくれるものではありませんでした。むしろ、伝道を続けていく強さを与えてくれました。

ヒューストンは、1994年4月にナイジェリア・ラゴス伝道部に赴任しました。彼の最初の伝道地であるアゲゲは、非常に広い地域でした。いちばん近い支部はオグバにありましたが、アゲゲから4キロも離れていました。二つの町の距離が離れていたため、求道者がバプテスマを受ける前に必要とされる、教会の集会に幾つも出席するのは困難でした。ヒューストンとその同僚は、4か月近くも絶えず熱心に働きましたが、バプテスマは一つもありませんでした。しかしさらに努力を重ねた結果、5人家族を見つけ、バプテスマに向けて備えました。

「ある土曜日の午後、わたしと同僚は、最初の改宗者のバプテスマを見届けるために車に乗ろうとして待っていました。」ヒューストンはこう回想します。「すると伝道部長補佐の長老が車を運転して来て、わたしが転任することになったと知らせました。すぐに別の長老がわたしの後任となり、わたしはベニン市へ向かいました。当初わたしは、初めての改宗者のバプテスマを見ることができないので、非常に悲しくなりました。しかしやがて、いちばん大切なのは彼らの改宗であることに気づきました。」

このベニン・シティーステーキにヒューストンが転任になって、レイモンドと会うこととなります。レイモンドは、ラゴスで宣教師としての訓練を受け、そこから直接ベニンに到着したのです。ヒューストンの転任から数日後のことで

した。こうしてヒューストンはレイモンドの同僚となり、レイモンドが赴任して来た最初の日からともに伝道しました。その日、レイモンドがレッスンを教えることへの恐れを打ち明けると、ヒューストンはこう励ましました。「長老、恐れずにやってみてください。わたしにも同じ経験があります。わたしにできたのですから、あなたにもできますよ。」レイモンドはこの言葉を今も覚えています。

レイモンドはそのときのことを思い出してこう話してくれました。「わたしは、力と自信に満たされました。そしてレッスンが終わったとき、ヒューストンはわたしのひざをたたいて、『長老、よくできましたね』と言ってくれました。このことがあって以来、彼を尊敬するようになりました。一緒に伝道し始めてから、互いに共通する部分がたくさんあると感じ、その気持ちはどんどん強まってきました。」

4か月後、レイモンドはラゴスに転任になり、そこで先輩同僚になりました。「ラゴスに着いて3か月過ぎてもバプテスマがなかったので、わたしは、先輩宣教師としての至らなさを感じました。」彼はこう言います。「わたしたちはもう少し努力する必要があったのです。伝道部長に報告すると、伝道部長は、求道者のために祈るようにと助言してくれました。」

「やがて14人の求道者のうち、7人がバプテスマの決心をしました」とレイモンドは思い出します。「バプテスマの2週間前に、伝道部長補佐の長老から転任の準備をするように知らせを受けました。」今回、バプテスマを見ることができないのは、レイモンドの方でした。「それから1か月以内に、14人すべてがバプテスマを受けました。わたしはバプ

テスマ会に出席できなかったので、残念でしたが、主の御心を受け入れました。『ある人が種を植え、別の人が水をやり、さらに別の人が刈り入れをする。でも、みんな主のぶどう園で働いているのだ』と。』

### チャレンジのために自らを強くする

主の業を行うということには、チャレンジに立ち向かうことも含まれます。しかし、レイモンドとヒューストンが学んできたように、主が道を備えてくださるのです。

「伝道部長補佐になったとき、最初は困難な責任に思われました」とヒュー

ストンは思い出します。「わたしは宣教師を訓練しなければなりませんでした。その中には、わたしよりも高い教育を受けた人もいました。わたしはふさわしくないと感じ、祈ることにしました。すると、『主が召された人について、主は、ふさわしいと認めておられる』という証を得ることができたのです。」(トーマス・S・モンソンが引用したハロルド・B・リーの言葉「神を尊ぶ者を、神は尊ばれる」『聖徒の道』1996年1月号、56)この言葉のおかげで、わたしは前進することができました。」

レイモンドにとって、忍耐力を養うのは大変なことでした。「正しい原則を教

えられ、自分のすべき責任を分かっているにもかかわらず、それが実際に実行できない人々を見るのはつらいことでした」と彼は回想します。「そういう状況に対してわたしは、『主はわたしにどんなときでも正しい選択をするよう期待しておられるのだ』と自分に言い聞かせて頑張りました。」

### 王国建設の業に携わり続ける

ヒューストン・メリベとレイモンド・エグボにとって、伝道生活で最高の瞬間は、求道者がバプテスマの儀式を通してキリストのもとに来て、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になったときです。この二人にとって、その瞬間にわき出る感情は、伝道から帰還して数年過ぎた今でもまだ残っています。

神の王国における彼らの働きは、まだ終わったとは言えません。彼らは、主に仕えるという選択に対して祝福を受け続けています。今、ヒューストン・

左下：同僚として働くメリベ長老とエグボ長老  
下：伝道部長補佐をする二人の長老  
右下：エグボ長老、スティーブン・カー伝道部長と  
夫人のエリザベス・カー姉妹、メリベ長老



チンウェオキ・メリベは、カラバー地方部カラバー第3支部の長老定員会会長として働いています。また、レイモンド・イディオ・エグボは、カラバー第2支部の伝道主任と地方部伝道部長会の第二副部長として働いています。□

# しよくばい 贖罪はどのように 離婚から立ち直る 助けとなったか

結婚生活で苦しんでいたとき、主はわたしの苦しみを理解し助けてくださる完全な能力をお持ちである、と分かるようになりました。

匿名

**夫**の手紙はこのような言葉で始まっていました。「この前の土曜日、君から、『あなたが感じていることを書いてほしい』と言われたので、書きます。」

以前から、わたしに対する夫の愛情は何かの間違っていていると、感じてはいました。しかし、不貞の告白を含む夫の痛烈な言葉は予期せぬものでした。15年間も結婚生活を続けてきた後のことです。様々な事柄に苦しみ、まったく孤独であると感じました。そこでわたしは、神殿で天の御父から力を頂こうと思いました。

日の栄えの部屋で、一人の女性が、わたしにティッシュペーパーを渡してくださり、「あなたのことが気にかかりました。何か助けられることがありますか」と言ってくださいました。わたしは「ありがとうございます。でも大丈夫です」

と答えました。しかし、わたしは心の中で叫んでいました。「わたしに希望と夢を取り戻してくれませんか。わたしに永遠を取り戻してくれませんか」と。

わたしは泣き続けました。少しして、さらに多くの人が日の栄えの部屋に入って来て、一人の男性がわたしのそばのいすに腰を下ろし、「ちょっとお伝えしたいことがあるんですが」と言いました。

わたしは、「何でしょうか」と答えました。

すると彼はこう言いました。「わたしには、幕の向こう側にいる愛する人々があなたとともにいるように感じられます。あなたの抱えている問題が何であれ、どんなときも、あなたは独りではないんですよ。」その人が立ち上がって出て行ったとき、わたしは御霊のぬくもりを感じました。

わたしは夫から拒まれましたが、救い主はわたしを放ってはおかれませんでした。「われわれの病を負い、われわれの悲しみをになった」(イザヤ53:4)御方が、わたしを力づけてくださったのです。わたしはその日、救い主の平安を感じながら神殿を後にしました。

わたしの結婚生活が崩壊し始めたとき、この救い主の憐れみ深い愛が、贖罪の力を通してわたしに及ぼされたのです。その後の4年間、わたしは贖罪のもたらす祝福をさらにはっきりと理解するようになりました。

癒される力を見いだす

結婚生活で苦しんでいたとき、驚くほど様々な重荷がわたしにのしかかってきました。しかし、それぞれの苦難を通じて、主がわたしの苦しみを理解し、わたしを助けてくださる完全な能力をお持ちであることが分かるようになりました。

わたしは結婚生活の最後の年に、謙遜にならざるを得ない数々の経験をしましたが、これらは次から次へと押し寄せるチャレンジの単なる始まりにすぎませんでした。その年の終わりまでには、わたしのプライドははぎ取られてしまいました。

写真/タイラー・バンダーソン。写真の人物は本記事の登場人物と関係ありません。絵/キャリー・ヘンリー



ました。

夫は教会宗紀評議会が行われた夜、子供たちが眠ってしまってから、家に帰って来ました。そして、そこで行われた事柄について、わたしの質問に答えてくれました。夫は少し思案した後、こう付け加えました。「ところで、わたしの友人の何人かはエイズで死んだ。でも、心配は要らない。検査を受けて陰性だった。」

夫から若いころの不道德な行為については以前に聞いていましたが、この言葉はわたしにとってショックでした。わたしはそれ以上耐えられなくなり、泣きだしてしまいました。そして、自分の部屋に行って祈りました。天の御父はわたしの失意の叫びを聞いてくださいました。そして、慰めと安らぎの力がわたしにとどまるのを感じました。こうして力づけられたわたしは、その晩、よく眠ることができました。またその後も、医者から指定された屈辱的な臨床検査に耐えることができました。

この経験やそのほかの多くの経験のおかげで、贖罪についての教えは、わたしにとって単なる言葉や概念以上のものとなりました。人生を変えざる真理となったのです。悔い改め、赦し、救い主を信じる信仰、これらの真理はわたしの人生に必要な多くの祝福をもたらす行動の原則となりました。わたしは実際の経験を通じて、「イエス・キリストの助けと癒しの力は、現実<sup>に</sup>に力を持つ」ということをさらによく理解するようになりました。

### 天の御父の御心に従う

わたしは結婚生活の最後の年に、謙遜にならざるを得ない数々の経験をし

ました。その一つ一つは苦しいものでした。伴侶の不貞を知ったこと、監督とステーク会長に自分の私生活を明かし、夫の離別の決意に対応しなければならなかったこと、離婚手続きの開始、父親がもう家庭にいないことから来る子供たちの苦しみへの対応、これらは次から次へと押し寄せるチャレンジの単なる始まりにすぎませんでした。義理の両親との間にあった親しい交わりも失いましたし、実家の両親や兄弟、ワード、州に経済的な援助を求めなければならませんでした。娘の一人に心の傷を与えたことにも苦しみました。癌<sup>がん</sup>の疑いがあると診断され、その恐怖に耐えたこともあります。大きな自動車事故にも遭いました。学士号を取得するうえでも困難が付きまとい、さらに就職難に苦しみました。こうして、その年の終わりまでには、わたしのプライドははぎ取られてしまいました。しかしわたしは、これで何の妨げもなく主の前に出られると感じました。わたしは、自分を「無力な者……と感じ」(モーサヤ4:5)、また変遷<sup>いかり</sup>の海においてわたしの唯一の錨である主を完全に頼ることによって、謙遜になれたのです。

わたしは落ち込まないで、自分の状況を、「人生において天の御父の御心が行われる機会」と思えるようになりました。逆境と霊的な精練の関係を理解し始めました。苦難の中で、しばしばこう自問しました。「この状況の中で、わたしが何を行うことを天の御父は望んでいらっしゃるだろうか」と。祈りや聖文の研究、熟考、神殿参入によって具体的な答えを探しました。探究し、神聖な導きを得るこのプロセスを通じて、わたしは忍耐を増し、天の御父を信頼

する気持ちがさらに深くなりました。

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老の次の言葉は、わたしにとって深い意味を持つものとなりました。「一点の汚れもないイエス<sup>が</sup>その身をささげられたのは、わたしたちのためです。主は自らの心を完全に御父の御心に従わせられました。もしわたしたちがイエスのみもとへ行くこうとするならば、同じように神に対して何も包み隠さず自分のすべてをささげなくてはなりません。そうすれば、すばらしい約束が待ち受けているのです。」(『悔い改め』『聖徒の道』1992年1月号、37)

### 苦々しい思いを断ち切る

わたしは靈感による導きを求め、次いで天の御父の御心に従ったとき、自分の経験がどれほど成長の機会となっているか、さらにはっきりと知るようになりました。

例えば、わたしが前の伴侶および現在の状況について抱いていた苦々しい思いは、贖罪のもとらす祝福と相いれないもののように思われました。天の御父にもっと近づこうと努力することは、この苦々しい思いを断ち切る助けとなりました。そして、神との関係を深めるのに役立ちました。わたしは、わたしたちの完全な模範者であるイエス・キリストの特質をもっとよく理解できるようになったのです。

寝室のドアに、七十人のブルース・C・ヘーフェン長老の次の言葉ははっています。それを読む度に涙を流したものです。「自分の思いを天に向かわせ、一時的であっても、日々の生活の緊張や制約を超越できれば、わたしたちは、すべてのものに打ち勝たれた御方の促

しを聞いて、約束が確かであるとの確信を得るでしょう。すなわち、わたしたちが心を尽くしてその御方を愛しさえすれば、その御方は、慈悲の行為として、わたしたちの人生の様々な状況を究極の祝福としてくださる、という約束への確信です。』(The Broken Heart[1989], 106)

### 言い訳をしない

夫は、本人しか知らない様々な理由で、しかも家族や友人にほとんど説明もしないで、結婚生活を終わらせてしまいました。夫の親族は、恐らく夫の決心を理解しようとしてのことでしょうが、わたしに何も尋ねることなく離婚を承諾しました。彼らは誤った結論を下したのです。彼らはわたしに直接言葉をかけてくれることはありませんでした。それがわたしに挫折感<sup>どせつ</sup>を覚えさせました。わたしには事実を話す機会が

わたしは何の妨げもなく主の前に出られると感じました。わたしは、自分を「無力な者……と感じ」、また変遷の海においてわたしの唯一の錨である主に完全に頼ることによって、謙遜になれました。



与えられなかったからです。人づてに聞こえてくる彼らの言葉に、わたしの心は傷つきました。そして、わたしはしばしば自分の誠意が疑われていると感じました。かつて親しい間柄であったこれらの人々は、ほんとうにわたしのことを理解してくれていたのだろうか、と考えてしまいました。

離婚して2年後、わたしは、前の夫の親戚の一人が語った言葉を聞きました。それは、わたしが前の夫を赦していないという意味の言葉でした。その言葉でわたしの心はまた痛みました。わたしは自分の汚名をすすぎたいと思いました。どれほど誤解しているかをその人に告げたいと思ったのです。そこで監督に相談することにしました。そして、大切なことに気づきました。わたしと前の夫との間の事実関係や結婚生活でのわたしの献身を、天の御父もわたし自身も知っているということです。すると突然、わたしは心の安らぎを覚えました。しようと思えば、その親戚の人の誤解を正すことができることにも気づきました。でも、それはもう、わたしにとって大したことはなくなりました。贖罪のおかげで、わたしの傷ついた気持ちは晴れたのです。わたしを批判するその人やほかの人の言葉にも、苦しむ必要がなくなったのです。

### 信頼を取り戻す

離婚の調停の日が近づいたとき、わたしたちの結婚生活について述べた16ページに及ぶ手紙が夫から送られてきました。反論するようにとの神権者の助言もあったのですが、わたしは、結婚生活での問題がわたしの落ち度によるものであり、彼の不貞の原因さえわたしにあ

るという夫の主張を信じ込むようになりました。

わたしは、疑念に心を引き裂かれ、聖典を開きました。そして、救い主の言葉の中に希望と理解を見いだしたのです。救い主の言葉からすでにどれほどの祝福を頂き、心を高められたことでしょうか。そして、日記にこう記しました。「自己憐憫、自責の念、自己破壊の波がわたしの心の岸に打ち寄せている。ところが、わたしの心の岸にはいつも救い主がおられて、わたしを支え、攻撃から守り、わたしが価値のある存在であることを告げ、自分自身を信じるようにわたしに語りかけてくださる。救い主の御声こそ、わたしが聞きたい声、わたしが注意を払わなければならない声なのだ。」

わたしは自分自身を信頼する心を再び取り戻す機会に恵まれました。神権者による助言と祝福によって、神聖な慰めを頂きました。救い主の深い愛によって、強さと勇気を取り戻したのです。

### 思いやりを持つ

わたしは自分の数々の経験から、人々の心を高められた救い主に倣いたいと思うようになりました。わたしが離婚の手続きを始めたとき、何人かから、子どもたちの前で決して夫の悪口を言わないようにと助言されました。夫の品位を落とすような出来事がしばしば起こったため、わたしは、この助言が賢明であったことをほとんど毎日のように感じました。わたしは批判を抑え、彼の良い点を強調する力を頂けるように、心から祈りました。

初めはとても大変なことでした。彼から受けたわたしの心の傷は深く、また彼が重大な過ちを犯していたからです。

しかし、子供たちに父親がほんとうはどんなにすばらしい人物なのかを理解させるように努めたところ、次第に力がわいてくるのを覚えました。誠実に、また真心から夫を高める言葉を使う度に、救い主を身近に感じました。子供たちが父親に対して優しい気持ちを持つようにさせ、そう促すようにしました。家族の祈りの中で夫のために祈るよう御霊に促されたとき、わたしは思いやりをもってそうすることができました。

彼が教会員としての資格を完全に回復されたとき、一人の友人から今どんな気持ちか、と尋ねられました。そこで正直にこう答えました。「うれしいわ。それに、ほっとした。天の御父に心から感謝しているの。」

すると友人は言いました。「そんな気持ちでいられるなんて普通じゃないわ。」

でも、普通ではないとは思いませんでした。確かにそう感じたのです。うれしく思いました。

自分ではどうしようもない所から受けた傷に苦しんでいたわたしを、その逆境は強くしてくれました。贖罪についての理解が増す中で、わたしは、悔い改めて自分の性質を清める必要があることを知るようになりました。逆境が、ほかの方法では得られない成長の機会をもたらしてくれたのです。以前には気がつかず、理解もしていなかった、贖罪の持つ様々な側面が分かるようになりました。確かに、わたしはそれまで多くのことを学んできました。しかし、救い主は御自分の贖罪を通じて、わたしの努力と天の御父の完全な標準との差を埋めてくださることが、分かってきたのです。

わたしは、救い主が天の御父の御心

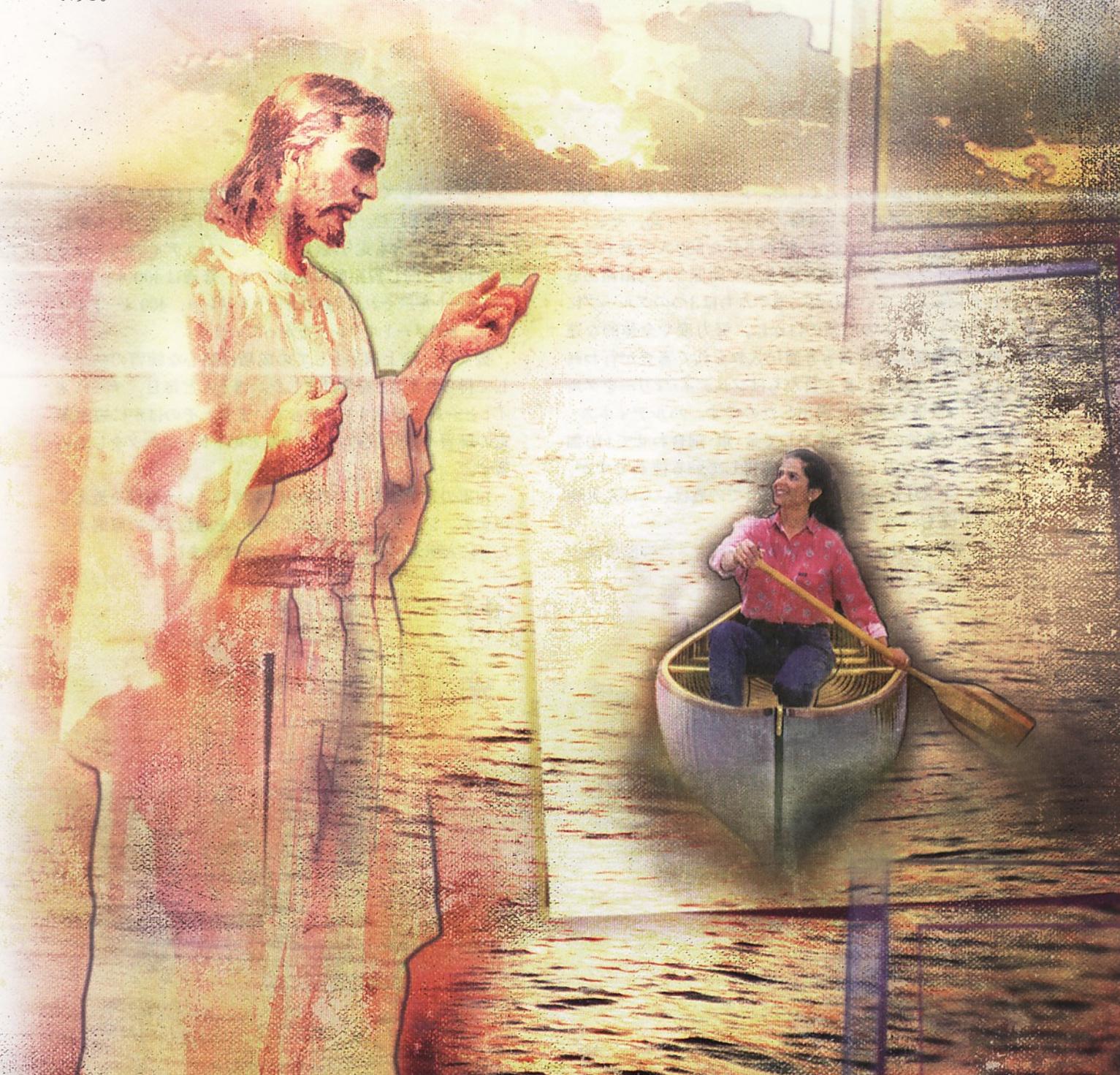
に完全に従われたことを永遠に感謝します。「神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉にお

いて知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7: 11-12)

まさにこれは、救い主がわたしたちのために行ってくださったことなのです。

□



ジュディ・マリー・ガズマン・ペレズはプエルトリコのポンセー市に住む17歳の高校生で、陸上競技の花形選手です。人の前を走ることにに関しては経験豊富ですし、それを証明するメダルもたくさん持っています。しかし、ジュディ・マリーのリーダーシップは単に走ることにとどまりません。末日聖徒イエス・キリスト教会の知名度が低い地域に住むジュディ・マリーは信仰を分かち合い、ほかの若者たちの模範となる生き方をしているからです。

# 走っても 疲れることがなく

アン・ピリングズ

1998年2月28日のことでした。ジュディ・マリー・ガズマン・ペレズは、プエルトリコ島、セント・クロイ島、セント・トーマス島の3島200校から招待された800人の選手に交じって、インターアメリカーナ大学で開催された由緒ある競技会に参加していました。選手たちは3つのグループに分けられ、レースの成績のほかに、努力度や全体的な達成度などの個人的特質も考慮に入れられて審査が行われました。その結果、審査員たちはジュディ・マリーをグループ中の最優秀選手に選出したのです。ハルディネス・デ・ボンセ高校の陸上選手として金・銀・銅合わせて110個のメダルと6つのトロフィーを獲得している彼女ですが、インターアメリカーナ大学の競技会での盾はいちばん大切にしているものの一つだと言います。

ジュディ・マリーに大きな影響を与えてきたのは母親の

ジュディ・ペレズ・コイヤドです。彼女は14歳のときから走り続けてきました。1966年のパンアメリカン大会にも参加しましたし、今も走り続けています。ジュディ・マリーはそんな母親と同じ短距離の走者です。普通は400メートル、200メートル、それに1,600メートルリレー、400メートルリレー、800メートルリレーを走っています。

彼女は、陸上選手としての成功は熱心な練習の結果として得られることを学びました。ほとんど毎日、チームメイトと一緒に最低3キロ走っています。そのほかに短距離走の練習や、階段の上り下りなどのトレーニングをしています。

知恵の言葉は人に肉体を大切にするという原則を教えています。ジュディ・マリーはスポーツを通してこの原則がどんなに大切なか、よく理解することができました。





左端：400メートル走の準備をするジュディ・マリイ。  
左：たくさんのメダルの一つを首にかけて。  
上：ジュディ・マリイとハルディネス・デ・ボンセ高校の  
チームメイト。

### 主に思いを向ける

才能に恵まれ努力を怠らないジュディ・マリイでも、大事な競技会の前には緊張することがあります。彼女はレースの前に、「天のお父様、わたしや友達がけがをせずに競技を楽しみ、全力を尽くすことができるようにお助けください」と祈ります。彼女は祈りが効果的だと考えています。「祈るときに心が喜びに満たされます。御霊がともにいてくださると実感できるんです。」

レースに勝てたとき、ジュディ・マリイは神の助けがあったことを感謝します。でも、たとえ勝てなくても落胆しすぎることはありません。「全部のレースに勝てないことは分かっていますから」と彼女は言います。「それに、競走相手の中にはとても速い人たちがいるものです。」レースに負けて非常に感情的になる選手たちを目にすることもあります。「『話しかけないで。あっちに行つてよ』などと言う人もいます。」しかし、ジュディ・マリイは怒ったりするのが好きではありません。彼女は、勝っても負けても、祈りがレース後の精神状態を安らかに保つ助けになることを知りました。「わたしはこう祈るんです。「神様、助けてください。いつもわたしとともにいてください」って。」

教会でジュディ・マリイの監督を務めるプエルトリコ・ボンセステーク、ボンセ第2ワードのコンセプション・モリナ兄弟は、地域の別の高校で体育の教師をしています。「ジュディ・マリイに初めて会ったのは監督としてではなく、仕事を通してでした。彼女が母校を代表して競技会に出ているのを見かけたのです。」監督は以前からジュディ・マリイの選手としての能力を高く評価していましたが、同じくらい

感心しているのは、これほど多くの榮譽を受けているのに少しも高慢にならないことです。「彼女は教会に入る前からまったく変わらず、謙遜で物静かな子です。」

### 「天の御父はわたしの祈りにこたえられた」

1996年、二人の宣教師がジュディ・マリーの家のドアをたたいたとき、家族は謙遜で福音に耳を傾ける備えができていました。「宣教師たちは福音や預言者ジョセフ・スミス、モルモン書について話してくれました」と彼女は言います。母親、それに13歳の弟ハバエールと12歳の妹マリー・カリダと一緒に福音を学んだのですが、ジュディ・マリーにとって改宗は非常に個人的な体験でした。「祈ったとき、天の御父はわたしの祈りにこたえてくださったのです」と彼女は言います。「すばらしい気持ちが出て、御霊をととても強く感じました。」

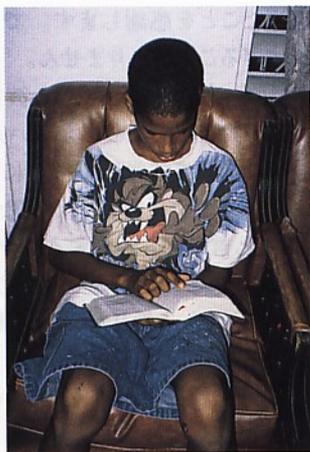
ジュディ・マリーは自分の改宗を第一ニーファイ第8章にある命の木の物語になぞらえます。「宣教師が福音を教えたとき、彼らはわたしたちに命の木の実を見せ、暗黒の霧から導き出してくれたのです。ジョシュア・カーター長老がわたしにバプテスマを授け、ジョシュア・スミス長

老が確認の儀式を施してくれたとき、精神的にも霊的にも生まれ変わったと感じたのを覚えています。今、わたしは神の娘なのだ実感しています。」

### 「信仰について話しています」

ローレルクラスの会長をしているジュディ・マリーは、神の娘であるということがどういうことなのか、ほかの若い女性が理解できるように助ける努力をしています。また、あまり活発でないローレルクラスの会員も歓迎されていると感じられるように心を配っています。「教会に入って日が浅いし、彼女たちをよく知らないで、難しいことも時々あります。でも、教師の姉妹がよく助けてくれます。一緒に電話したり、訪問したりしてくれるんです。」

教会員の友達と交わることでジュディ・マリーは強めら



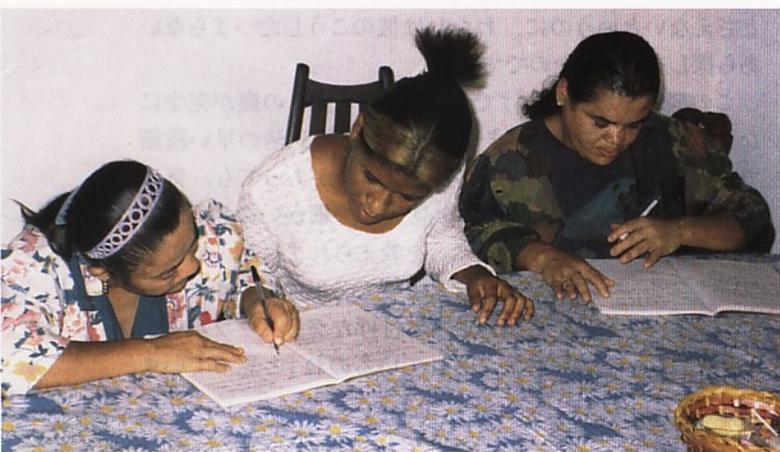
左から：ジュディ・マリーの妹マリー・カリダ；  
弟ハバエール；自分の2枚の盾を持つジュディ・マリーの母；  
グロリアとエルバと一緒にいるジュディ・マリー。



れています。「みんな、わたしの親友なんです」と彼女は言います。彼女たちは映画を見たり、ピザやアイスクリームを食べるのが好きです。一緒に聖文を勉強したり助言し合って、互いのよい支えになっています。ジュディ・マリーはほかの何人かと毎朝6時のセミナーにも出席しています。

しかし、ジュディ・マリーには教会についてほとんど何も知らない友達もいます。ステーク宣教師も務める彼女は、友達としてよい模範を示す責任を感じています。「彼女は活発で社交的だし、思いやりがあります。それに、学校の青少年のよい模範となっています」とモリナ監督は言います。

ジュディ・マリーは、教会についての自分の思いを人に話すのが難しいこともあると認めています。彼女も含めた末日聖徒の若者にとって最大のチャレンジの一つは、教会の教えが間違っていると言う人たちに自分の信仰について説明することです。人にそんなことを言われるのは悲しいことですが、彼女の信仰は揺らぎません。「人が何と言おうと気にしません。『ノーコメントよ』と言ったり、わたしたちが信じていることを話し、それが真実であると証あかししたりします。彼らの疑いを晴らそうと努めています。」



### 家で奉仕する

友達への奉仕に時間を使っても、ジュディ・マリーは家で奉仕することも忘れません。1996年、ジュディ・マリーの両親は、障害を持つ二人の女性を養女として家庭に迎えました。35歳のグロリアと31歳のエルバです。グロリアとエルバは実の姉妹で、二人一緒に家族の中で暮らせる

ことに感謝しています。二人はジュディ・マリーの家族とともに宣教師から福音を学び、バプテスマを受けました。

二人の世話はジュディ・マリーの母親の仕事ですが、ジュディ・マリーは二人に読み書きを教える手伝いをしています。「時々、難しいこともあります」と認めますが、二人を助けたい、教えたいという望みとそれを行う能力は、御霊が彼女に与えてくれるのだと付け加えます。人を助けたいというこの願望が動機となって、ジュディ・マリーは大学に進学して看護学を勉強したいと望むようになりました。

### 「すばらしい人たち」

「福音のおかげで家族が変わりました」とジュディ・マリーは言います。「前より母の言うことを聞くようになったし、家族のきずなも強まりました。」

ワードの扶助協会書記をしている母親も、福音によって数え切れない祝福を受けてきたと言います。「前には知らなかった多くのことが分かるようになりました。今、わたしたちは天の御父がおられることを知っています。天の御父は常にともにいて、わたしたちの悩みを理解してください。願い求めれば、必要なものを与えてくださいます。わたしたちは独りぼっちではないのです。」

教会堂から数キロ離れた所に住んでいますが、ほかに方法がないときにはジュディ・マリーの家族は歩いて教会に通っています。「とても謙遜な家族ですよ」とモリナ監督は言います。「裕福ではありませんが、人に奉仕しています。教会の責任も十分に果たしています。すばらしい人たちです。」

### 体と霊の強さ

その強<sup>きょうじん</sup>靱な足でランナーとしての成功を勝ち取ってきたジュディ・マリーですが、彼女に霊的な成功と幸福をもたらしているのは、イエス・キリストの福音に対する彼女の強い証です。彼女の大好きなエズラ書第10章4節には、「立ちあがってください、この事はあなたの仕事です。われわれはあなたを助けます。心を強くしてこれを行いなさい」と書かれています。

「この聖句が好きなのは強くなるようにという言葉があるからです」とジュディ・マリーは言います。「神がわたしにくださった賜物たまものを使って、よい業を行いたいと思います。」

□

# グレープフルーツ症候群

年若い妻であったわたしは、夫の欠点を気に留めなければ結婚生活はもっとすてきなものになることを学びました。

ローラ・B・ウォルターズ

**夫**と結婚して2年ほどたったころ、夫婦はお互いの習慣や癖で不快に思うことがあれば、真心から率直に話し合うようにという記事を読みました。そして不快な思いを感じたら、怒りに発展する前に解決するようにしなさい、ということでした。

なるほどと思って、夫にそのことを話すと、彼は幾分ためらいながらもやってみることに同意してくれました。

わたしの記憶では、不快に思う事柄をまず5つ挙げることにしました。わたしから夫の気に入らない点を述べ始めました。それから50年以上の歳月が流れた今でも、わたしの最初の不満はグレープフルーツだったことを覚えています。夫に彼のグレープフルーツの食べ方が気に入らないことを話したのです。夫はグレープフルーツを横半分に切ってスプーンで食べないで、皮をむいて中身を一房ごと口に入れて食べていました。わたしの知り合いには、だれもグレープフルーツをそんなふう食べる人

はいません。「この人がそんなふうグレープフルーツを食べるのを眺めながら、わたしは一生を過ごすのかしら、いえきっと永遠にそうなんだわ。」そう思ったものです。よく覚えてはいませんが、わたしのほかの不満もそれと似たような程度のものでした。

今度は夫の番です。半世紀以上たってもわたしの心には、あのときの首をかしげて思案に暮れた夫の表情が浮かんできます。彼はわたしの方を見詰めて、こう言いました。「君のことで気に入らないところなんて、何も思いつかないよ。」

「ええ、何ですって。」わたしは絶句し、込み上げてくる涙をどう説明してよいか分からず、とっさに背を向けました。夫は、明らかに不快で奇妙なわたしの習慣に気づくことさえないというのに、わたしは彼のこうしたつまらないあら探しをしていたのです。

この経験をしたおかげでわたしのあら探しの癖が完全になくなったわけではありません。でも結婚生活の早い段階で、伴侶との習慣や個性の小さな違いがあっても、気に留めることなく、常に全体を見通し、細かいことは通常無視する必要があることを教えられました。結婚した夫婦の気性が合わないという話を聞く度に、「きっと彼らもわたしの名付けたグレープフルーツ症候群に悩まされているのね」と思っています。□



## 逆境のときに救い主に心を向ける

**わ**たしたちは前世にいたとき、地上に来ることができるという期待感で、喜び呼ばわれました。地上で、肉体を得て、経験を積み、試しを受けることになっていたので。この試しの経験の中には、肉体や霊の苦しみも含まれていることを、わたしたちは承知していました。

人は皆、逆境と戦います。病気、事故、愛する者との死別、そしてあらゆる種類の試練といったものがあることを考えると、わたしたちにはそれに耐え抜くだけの強さがあるのだろうかといふかしく思うこともあります。しかしながら、ブリガム・ヤング大管長は次のように断言しています。「わたしたちが人生で経験するすべての浮き沈みは経験と模範として必要であり、忠実な者に与えられる報い（きり）を享受する準備として必要です。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』288）

### 主を求める

わたしたちは、理解と助けを求めて天を見上げるとき、わたしたちが必要とするときに愛に満ちた天の御父は決してわたしたちを一人残されるようなことはないと言って、慰めを得ることができます（教義と聖約24：8参照）。十二使徒定員会会員のロバート・D・ヘイルズ長老は、1998年10月の総大会で、バイパス手術を受けることになった3度目の心臓発作について触れ、その後の経験やその後の思いについて語りました。長老は、病院で病床に伏せていたとき、そして自宅で療養していたとき、生命と永遠の意味について深く思いを巡らせました。肉体的な苦痛に耐えている間、長老は同時に、より深い魂の痛みや苦悩について

考えたのです。そして、癒しの過程で実に多くの人々が自分の介護にかかわってくれたことの重要性を認識するようになりました。医師、看護婦、治療専門家、愛する伴侶、両親、子供たち、友人といった人々です。それらを振り返って、長老はこのように語っています。「主は究極の介護者であられます。わたしたちは主に身をゆだねなければなりません。そのためには苦痛をもたらすものを皆捨て、すべてを主にゆだねる必要があります。」（『霊と肉体の癒し』『リアホナ』1999年1月号、16）

主に身をゆだねるに当たって、わたしたちは主の助けを積極的に求める必要があります。祈りや断食、聖文の研究、神殿への参入、神権や祝福師の祝福、ホームティーチャーや訪問教師からの助け、両親や神権指導者の勧告といったものは、イエス・キリストを信じる信仰を実践し、主の御心について学び、そして、主の祝福を受けるためには、皆、効果的な方法です。わたしたちが主の助けを求めるとき、主はいつもわたした

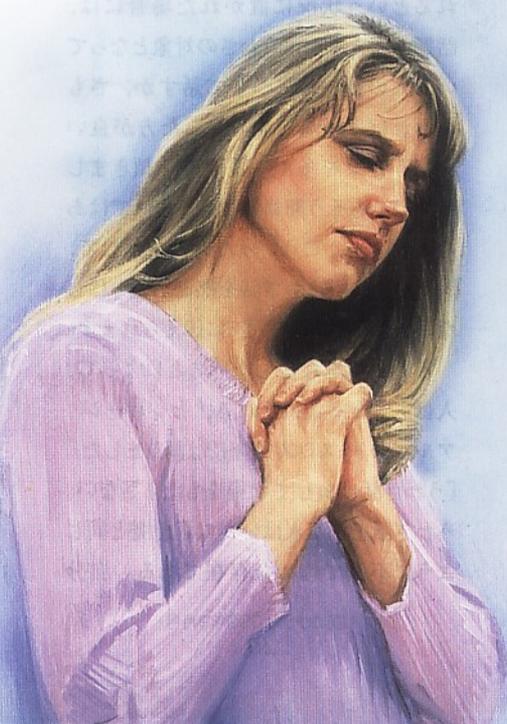
ちの受ける試練を取り除いてくださるとは限らないということを認識しておく必要があります。しかしながら、主はいつも、わたしたちがそうした試練に耐えるための強さを見いだす助けをしてくださるのです。

### あがな 贖いの力

最も荘厳な愛の表現として、救い主はわたしたちの罪と弱さという重荷をその身に引き受けてくださいました。その結果、わたしたちは、その贖いの力によって、癒しや幸福を見つけ出すことができます。

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は次のように言っています。「安全、平安、喜び、そして安心といったものは、全能の神の御子であるイエス・キリストの生涯と使命の中でのみ、見いだすことのできるものです。

とは言うものの、これは、苦痛も個人的な問題も病気も家族の問題も就業の困難さも皆、解消されるということでしょうか。決してそうではありません。むしろ、もしわたしたちの信仰がキリストの証に深く根付いているとしたら、わたしたちの進む道にどのような逆境が出現しようとも、うまく対処していくことができるという意味なのです。……わたしたちが信仰の目の焦点を常にキリストに（ばか）合わせていたら、わたしたちの視野も広がり、永遠の観点から物事を見ることができるようになります。そして、それによって、わたしたちは、天の御父がすべての子どもたちのために用意された永遠の計画を十分に踏まえたうえで、逆境の意味を理解できるようになるのです。」（“When Shall These Things Be?” Ensign, December 1996, 61）□





写真/ジェド・クラーク

## 質疑応答

# どうすればうわさ話を避けられるでしょうか。

聖典には、うわさ話をしないようにとの警告が記されています。でも、もしだれかがうわさ話を始めたり、自分についてのうわさ話をほかの人々に広めたりした場合、どうすればよいのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 回答

詩篇の著者は簡潔にこう語っています。「あなたの舌をおさえて悪を言わず、あなたのくちびるをおさえて偽りを言わずな。」(詩篇34:13) 救い主もうわさ話という邪悪な行為を避けるよう戒められました。回復された教会の律法を定めるに当たって、救い主はこう言われました。「あなたは隣人の悪口を言ったり、隣人に害を与えたりしてはならない。」(教義と聖約42:27) 誇張や偽りであるか否かは別として、無益な会話もうわさ話の中に含まれます。うわさ話は詮索の対象となっている人の評判だけでなく、詮索している人自身の評判も傷つけます。

スペンサー・W・キンボール長老はこう記しています。「信望を落とすうそと陰口は子どもが空高く持ち上げたタンポポの種のように、どの方向から吹いて来る風によってでも散らされるものである。風に散らされたタンポポの種は言うに及ばず、いったん口に出した陰口を集めることはできない。そして陰口によって傷つく程度と範囲は測り知れないほどである。」(『救しの奇跡』59)

ジョン・テラー大管長は以前にこう

語りました。「わたしたちの隣人や教会員の信望は、わたしたち自身の信望と同じくらい大切である。したがって、わたしたちは自分がされたくないようなこと、自分が言われたくないようなことを、ほかの人にしたり、ほかの人に言ったりしないよう注意すべきである。」(in James R. Clark, compiler, Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 6 volumes [1965-75], 3:84)

もし本意ながらもうわさ話を聞かされるという状況に置かれた場合には、話題を変えるか、うわさの対象となっている人の良い点について話すか、さなければその場を立ち去った方が良いという提案を多くの読者から頂きました。いつもそう簡単にできるわけではありませんが、こういった行為を通して、わたしたちがうわさ話を黙認したりはしないことを、ほかの人々に伝えられます。

うわさ話を黙認しないことによって、人はもっと幸福になれる、とジョージ・アルバート・スミス大管長は語りました。「うわさ話は決して幸福をもたらさない。うわさ話をする人はいつでも悪魔と同じように不幸で惨めな存在である。自分

の隣人のうわさ話をするような人は、明らかにサタンの仲間である。」(“Conference Report”, April 1944, 29) わたしたちも、うわさ話に参加するとき、サタンの影響下に置かれるのです。

時として、うわさ話を避けることより大変なのは、うわさ話の標的になることを避けるということです。自分について否定的なことや時には真実でないことまで言われると、怒りや報復したいと思うことがしばしばあります。しかし、このような対処の仕方は主の方法ではありません。イエス・キリストはこうおっしゃいました。「あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈りなさい。」(3ニーファイ12:44。マタイ5:44も参照) イエス・キリストの教えに従って生活するときに、わたしたちは自分について流布されているうわさ話が真実でないということを仲間たちに悟らせることができます。

いかなる状況にあっても、わたしたちは助けと導きを天の御父に願い求めるべきです。天の御父の導きによって、わたしたちは加害者に語りかけ、真実

を理解してもらうことができます。わたしたちは赦しの精神をもってこのことを行うべきです。使徒パウロも記したように、わたしたちは「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、……互にゆるし合」うべきです(エペソ4:32)。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、こう述べました。「偽りの言葉、人種差別的な発言、憎悪の言葉、悪意に満ちたうわさ話、意地悪で陰湿なうわさの流布、こういった行為は決してわたしたちの中にあってはならない。」(Teachings of Gordon B. Hinckley [1997], 664) わたしたちは、うわさ話を避け、うわさ話が始まった時点で阻止し、自分のことでだれかにうわさ話をされても気に留めないことで、ほかの人々に模範を示すことができます。また、このような行為によって、わたしたちは「心を一つにし、思いを一つ」にする民となり(モーセ7:18)、天の御父のもとに帰り、ともに生活するふさわしさを備えた個人となることのできるのです。

### 読者からの提案

うわさ話は口論や分裂の原因になり、最終的には個人の背教につながります。もしわたしのことでうわさ話をする人がいたとしたら、自制心やほかの人々と調和するための強さを与えてくださるよう祈ります。

コートジボアール・アビジャンステーク、  
コウーマシワード、  
グボロガン・ココウ

ほかの人のことを話すときに、3つの質問を自分自身に問いかけます。それ

は真実か。それは良いことか。それは役に立つことか。ほかの人が自分の前でうわさ話を始めたら、話題を変えるか、うわさ話をやめるよう頼みます。それから槍玉<sup>やりだま</sup>に挙げられている人について何か肯定的なことを言います。

ドイツ・ベルリンステーク、  
エーベルスバルデ支部、  
日曜学校クラスー同

本人に面と向かって言うのが恥ずかしいと思うようなことなら、それらはすべてうわさ話だと思います。

フィンランド・タンペレステーク  
ユベスキュレワード、  
オスカー・オリッツ

わたしたちをうわさ話に巻き込もうとする人々のために、わたしたちは祈ることができます。イエス・キリストは、わたしたちを不当に扱い、わたしたちに敵対して事実と違うことを話す人々のために祈るよう望んでおられます。わたしたちが敵に対して愛と友情を示すよう望んでおられるのです(マタイ5:44参照)。

メキシコ・プエルト・エスコンティド地方部、  
ポチュートラ支部  
ロリナ・ベラスケス・リビヤ

だれかについて何か悪いことを話す代わりに、その人について長所を5つ探す方が良いということを、わたしは伝道部長から学びました。ほかの人の持つ良い点を強調するのは、その人について語られている悪い点を帳消しにする良い方法の一つです。

ブラジル・クリティバ伝道部、  
セルソ・ダニエル・ムーノス・  
レフファティ長老



グボロガン・ココウ



オスカー・オリッツ



ロリナ・ベラスケス・リビヤ



セルソ・ダニエル・  
ムーノス・レフファティ長老



シムズン ミ  
沈順美



スゼット・  
サトウサティン



シューチャンクン イ  
許陳靜儀



エリサベータ・  
マランゴン



F・タリバカオラ長老



ネストル・ファビアン・  
ロドリゲス



ルイス・ラモン・  
クレト・ムエセス



マーティン・アポロ



グレース・アルミン



アンドレリ・  
フェルナンデス・  
リベイロ・ピアナ



マララティアン・N・  
ランドリアンアリデル

わたしたちは、うわさ話に耳を傾けて  
いるうちに、ほかの人を批判し、肯定  
的な面ではなく否定的な面を探そうとす  
るようになります。わたしたちはほかの  
人の意見を理解しようと努力する必要  
があります。わたしたちは自分を傷つけ  
る人々のために断食し、祈り、わたし  
たちの関心を伝える必要があります。

クワンジュ  
韓国光州ステーキ、  
フンビン  
豊郷ワード、  
シムズン ミ  
沈順美

言葉の持つ力を過小評価しないよう  
にすることです。天の御父の子どもとし  
て、わたしたちは自分の霊あるいはほ  
かの人の霊を不潔な言葉で傷つけては  
なりません。わたしたちは、ワードを  
「秩序の家」「神の家」(教義と聖約88:  
119)とするために、うわさ話が広がら  
ないよう阻止するだけでなく、ワードの会  
員に愛をもって接するべきです。

台湾台南ステーキ、  
台南第2ワード、  
シューチャンクン イ  
許陳靜儀

わたしたちは、うわさ話をするときに、  
うわさ話の対象となっている人をけなす  
ことで、自分を高めようとします。この  
ような行為をするとき、キリストの愛は  
わたしたちの内にありません。

わたしたちは、ほかの人が自分のう  
わさ話をしているのを聞いたときに、穏  
やかな態度を持ち続けるべきです。も  
し、わたしたちが感情の赴くままに行動  
すれば、行動によってうわさ話の真実  
性が証明されると主張する口実を、う  
わさ話をしている人に提供することにな  
るからです。もし、何の反応も示さな  
ければ、わたしたちのその態度で、う

わさは真実ではなかったということをは  
ほかの人々も知ることでしょう。そして、  
心の内に平安を感じられるでしょう。

トンガ・ヌクアロファ伝道部、  
F・タリバカオラ長老

わたしたちは周囲で起こることをいつ  
でもすべてコントロールできるとは限り  
ませんが、もしうわさ話を避けることが  
できるなら、わたしたちはもっと幸せに  
なり、ほかの人を強めることができます。  
わたしたちが清く、徳高い言葉を口に  
するときに、主は喜ばれます。必要な  
らば、わたしたちの沈黙が、うわさ話  
に承認や同意を表していると誤解され  
ないように、反対の気持ちを表現する  
こともできます。

ドミニコ共和国サント・ドミンゴステーキ、  
ルベロン第1ワード、  
ルイス・ラモン・クレト・ムエセス

わたしは絶対にほかの人の秘密を明  
かしたりしないこと、まただれかがほか  
の人の欠点を話題にしても絶対に  
耳を傾けないと決心しました。聖文を  
読むと、御霊のささやきに敏感になるこ  
とができます。御霊がわたしたちととも  
にありと、人を清め、啓発するような話  
し方や聞き方ができるようになります。

フィリピン・ガバンスステーキ、  
ガバン第3ワード、  
グレース・アルミン

自分のことについてのうわさ話は忍耐  
したり、克服するのが大変難しいと思  
います。それでも、わたしたちは教会員  
として、自分が神の目から見て測り知  
れないほど大きな価値を持っていること  
を知るうえで役立つ不可欠な道具を与

えられています。それは祈りと教会の教えと聖文です。わたしたちはほかの人から自分のことをどう言われたとしても、決して自分の内にある光について思いをはせることを忘れてはなりません。  
マダガスカル・アンタナナリボ地方部、  
アンタナナリボ第2支部、  
マララティアン・N・ランドリアンアリデル

わたしは教会に入ってまだ日が浅いのですが、ある人々が教会から遠ざかってしまう理由の一つに会員のうわさ話が挙げられるということに気づきました。だれかがうわさ話を始めても、わたしたちは彼らにとって良い模範とならなければなりません。わたしたちは彼らを愛し続け、引き続き強めていかなければならないのです。  
フィリピン・リガオ地方部、  
リボン支部、  
スゼッテ・サトゥサティン

だれかが自分の信望を台なしにしているということを知るのはとても苦しいことです。しかし、真の友人はわたしたちに味方してくれることを忘れてはなりません。うわさを流す人に対しては優しく語りかけ、「互に悪口を言い合ってはならない」(ヤコブの手紙4:11)という教えを理解できるよう助けることができます。  
イタリア・ベニスステーク、  
トレビゾ支部、  
エリサベータ・マランゴン

キリストはニーファイ人に次のように尋ねられました。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようであれば

ならない。」(3ニーファイ27:27)うわさ話の犠牲になったとき、あるいはうわさ話を耳にしたとき、こう自問することができます。「イエス・キリストだったらどうされるだろう。」もしわたしたちに御霊があれば、イエス・キリストのように振る舞うでしょう。  
アルゼンチン・タンディル地方部、  
ピラ・アグイーレ支部、  
ネストル・ファビアン・ロドリゲス

ある日わたしは病院のロビーで一つの引用句を読みました。「ある人について否定的なことを聞いたときに、それを繰り返さないこと。真実ではないかもしれないから。そしてもし後でそのことが真実だと分かったときには、沈黙を守ることが気高い行為だということを忘れないように。」

自分のことでうわさを広める人がいたら、母から教わった言葉を思い出します。「だれかに侮辱されたとき、これ以上ないという侮辱を受けられた神の御子イエス・キリストのことを思い出さない。」  
ブラジル・カシュカベルステーク、  
フォス・ド・イグアスワード  
マーティン・アポロ

わたしは『リアホナ』(ポルトガル語版)に掲載された賛美歌の歌詞を読んで考えさせられたことがあります。それは次のような歌詞でした。「人の過ちを責めるときは、まず心に聞け。己れはいかに。」(「人の過ちを」『賛美歌』147番、1997年5月号『聖徒の道』18ページに引用)

うわさ話に参加するときに、わたしたちは一時の無益な気晴らしと数々の祝福を交換することになります。

ブラジル・イタヘティニガ地方部、  
イタヘティニガ第2支部、  
アンドレリ・フェルナンデス・  
リベイロ・ピアノ

「質疑応答」のコーナーでは、下記の質問に対する皆さんのご意見をお待ちしています。締め切りは1999年11月1日です。あて先は下記のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS,  
International Magazines,  
50 East North Temple Street,  
Floor 25, Salt Lake City, UT  
84150-3223, U.S.A.

またはEメールでCUR-Liahona-  
IMag@ldschurch.orgまでお送りください。

住所、氏名、年齢、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記のうえ、日本語でご意見をお寄せください。手書き、ワープロ、いずれでもけっこうです。手書きの場合は、かい書で読みやすい文字でお書きください。できれば写真を同封してください。ただし返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。回答が私的なものである場合、記事の中で匿名として掲載するよう要請していただいてもけっこうです。類似した答えの場合は、代表的なもの1通を採用させていただきます。

**質問**——わたしは内向的な人間で、もっと上手に人づきあいをしていく必要を感じています。よい友情関係を築くにはどうしたらいいでしょうか。



写真/メレン・ミーカム

# 福音を中心とした活動の夕べ

青少年の活動や、ワード・支部の活動の夕べに何を行おうかと、頭を悩ませることはありませんか。福音に基づいた活動を考えるための幾つかのアイデアをここに挙げてみました。これらのアイデアを活用してください。また、これらを応用して、福音の原則に基づいた楽しい活動を考えてみてください。



写真/ジエド・クラーク

## 才能や指導力を伸ばす

- 地元の図書館を訪れ、図書館を有効に利用する方法を調べる。
- エスニックフードの料理教室を開く。外国で生まれ育った人や帰還宣教師を招いて、外国のおいしい料理の作り方を教えてもらう。
- 自分たちが行ける時間に営業している企業や商店(新聞社、ラジオ局、食品店など)を訪ね、それらの職業について学ぶ。
- 救急処置の指導資格を持つ人を招いて、指導を受ける。
- 適切な人に音楽のグループ指導を依頼する。想像力を働かせて身の回り

の家庭用品で楽器を作り、オーケストラを結成する。

- 伝道活動、聖文研究、証といった重要なテーマに焦点を当てて、ワードや支部でファイヤサイドを計画する。
- 適切な人を招待し、職探しと就職について話を聞く。

## 家族の活動をより豊かにする

- 家族歴史の夕べを開く。家族歴史の調査方法を教わったり、個人史の書き方を学んだりする。
- 神殿に参入する教会員の夫婦や、夜行われる扶助協会のホームメーカーに出席する姉妹たちの子供の世話を申し出る。世話を引き受けた子供たちのためにグループ活動を計画する。
- 「手紙の夕べ」を開き、参加者それぞれが地域社会の指導者、監督、親などに手紙を書く。
- 「家庭の夕べ講座」を開き、自分たちのお気に入りの活動やレッスンについて話し合う。



写真/ジョン・ルーク



写真/ジャネット・トーマス

### 人々に奉仕する

- 地元の慈善団体や非営利団体の活動に協力する。
- ワードや支部から伝道に出ている宣教師に手紙を書く。
- 監督や支部長の家を訪問し、彼らの家族のために料理、掃除、庭仕事などの奉仕活動をする。

■孤独な人や悲しんでいる人のために歌を歌う。わたしたちは、クリスマスまで待たなくても、いつでも人を励ますことができる。

■ボランティアとして、孤児院や地元のホームレス保護施設での食事の準備や配膳を手伝う。

■地元の一角でゴミ拾いの活動をする。

■病院へ行き、入院中の子供たちに本を読んであげる。

### 証を強める

■伝道準備セミナーを計画し、地域の宣教師に指導を依頼する。

■宣教師が求道者を連れて参加できるような特別な活動を開催する。

■交代で聖典の中から選んだ物語を絵に描き、どの部分に出てくる話を皆で当てっこする。

■モルモン書の中から話を選び、初等協会の分かち合いの時間に劇として演じる計画を立てる。

### 健全な環境で友達を作る

■デートをテーマにしたパネルディスカッションをする。若い女性が若い男性に対して、デート中にうれしく感じることや嫌な気持ちになることは何かなどについて話し、若い男性も同じ事柄について話す。

■お気に入りの料理のレシピを持ち寄り、料理の本を制作する

■モルモンメッセージのブレンストーミングコンテストを行い、各自でモルモンメッセージのポスターを作成する。

■実際に皆さんの役に立った活動の夕べのアイデアを、できれば写真を添えてお送りください。あて先は以下のとおりです。

Activity Ideas, International Magazine, 50 East North Temple Street, Floor 25, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA. □





# 神殿のガーメント

「内なる決意の表れ」

**何**年か前、新任の神殿長と神殿長夫人のためのセミナーが開かれました。その折に、当時十二使徒定員会会員だったジェームズ・E・ファウスト長老は、自分が中央幹部として働く召しを受けたときのことを話ってくれました。ファウスト長老がハロルド・B・リー大管長から受けた質問はたった一つだけでした。「あなたはガーメントを正しく着用していますか。」ファウスト長老は正しく身に着けていると答えました。そして、彼はふさわしさについて質問をしないのかリー大管長に尋ねました。するとリー大管長はその必要はないと答えました。大管長のそれまでの経験から、ガーメントをどのように着用しているかによって、その人の教会と教会に関連するあらゆる事柄に対する思いが明らかになるからでした。つまり、ガーメントをどのように扱っているかが、福音に対するふさわしさと献身の物差しとなるのです。

神殿のガーメントの着用方法について、考えられるあらゆる質問の答えとなる詳しい着用基準を作ってほしいと言う人々がいます。彼らは神権指導者に対して、ガーメントの長さがどれほどでなければならないか、いつどのように着用すべきか、そして着用すべきでないかを特定し、それらの標準を少しでも外れて着用した場

合の罰を規定するよう求めているのです。このような人々は細かいところだけに目を向けて、イエス・キリストの福音の大切な部分を見失っているのです(マタイ23:23-26参照)。

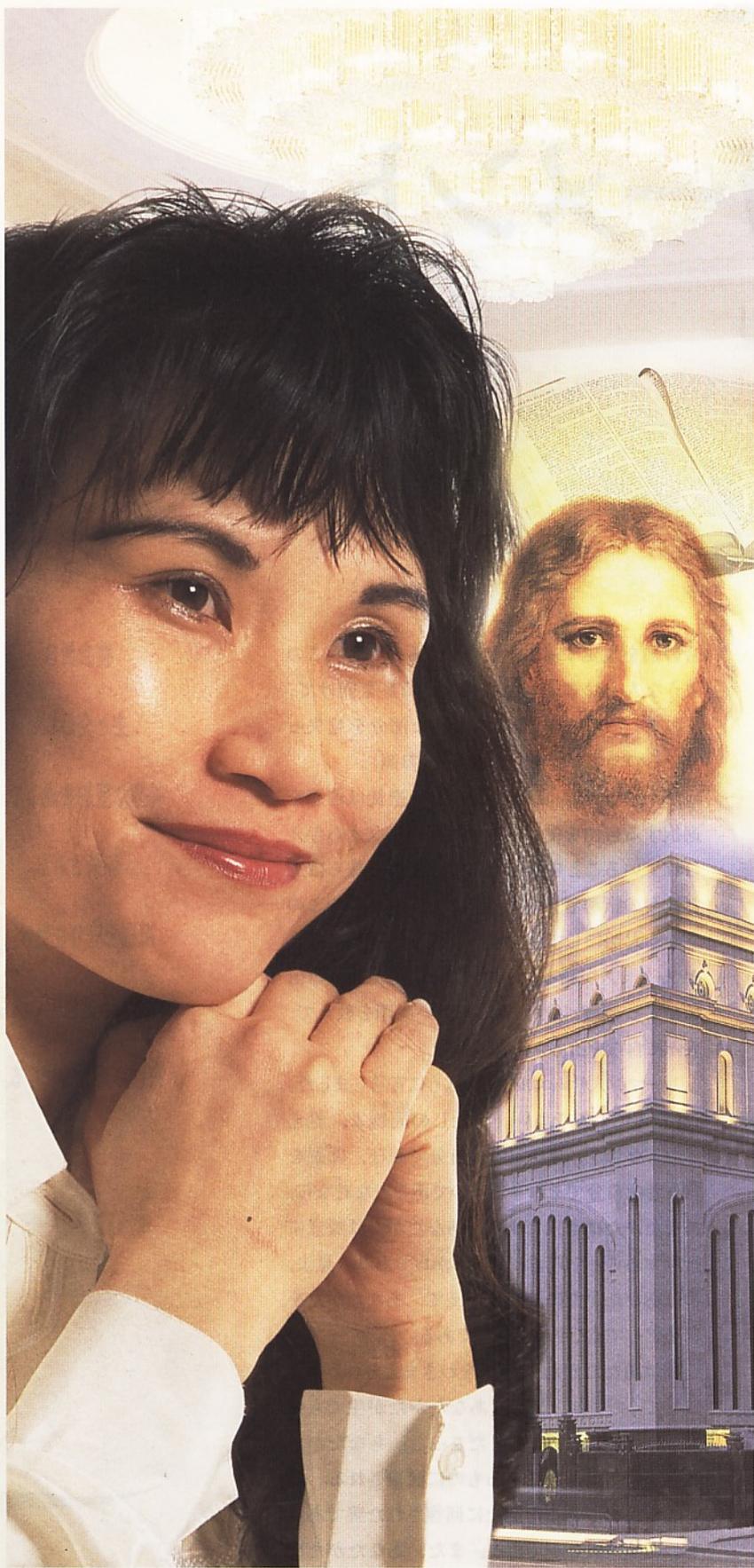
しかしながら、ほとんどの末日聖徒は善悪を選択する自由を愛にあふれる天の御父から与えられていることを喜びとしています。彼らは主と教会の指導者から寄せられている信頼をこの上なく大切にしています。つまり、預言者ジョセフ・スミスが語った次の言葉に表されている信頼です。「わたしは人々に正しい原則を教えて、人々に自らを治めさせる。」<sup>1</sup>

レーマン人サムエルはこのように宣言しました。「覚えておきなさい。わたしの同胞よ、覚えておきなさい。滅びる者は自分で滅び、罪悪を行う者は自分でそれを行うのである。なぜなら、あなたがたは自由であり、あなたがたは随意に行動することを許されているからである。見よ、神はあなたがたに知識を与えて、あなたがたを自由にしてくださったからである。

神はあなたがたが善悪をわきまえられるようにして下さり、また、あなたがたが生でも死でも選べるようにして下さった。あなたがたは善を行って、善であるものに回復される。言い換えれば、あなたがたに回復された善であるものを持つことができる。また、あなたがたは

教会員は  
主と交わした  
神聖な聖約を通して、  
約束された  
祝福と守りを受け、  
またこれらの聖約に関して  
有形の記念を受ける。





悪を行って、あなたがたに回復された悪であるものを持つこともできるのである。」(ヒラマン14:30-31)

神殿のガーメントに関連して知っておくべき非常に大切な事柄がいくつかあるとわたしは信じています。その知識を得たときに、豊かな信仰を持つ末日聖徒はガーメントを着用し、そして正しく身に着けます。だれかがそのような行動を規定したからではなく、聖なる衣が持つ価値を理解し、「善を行って、善であるものに回復される」ことを望むからです。これに対して、神殿のガーメントが持つ神聖な性質を理解していない人は、ガーメントをほかの衣類と同じように考えて、不用意に扱う傾向があります。

聖なる神権のガーメントに関連して知っておかなければならない事柄は以下の3つの範疇に分類することができるでしょう。すなわち、神の武具と歴史的背景、そして近代の預言者たちの教えです。これから紹介する見解によって聖徒たちがガーメントに対する認識を深め、喜んでまた正しく着用する決意をするようになることを願いながら、これらの分野を一つ一つ採り上げてみたいと思います。

### 神の武具

わたしたちの目の前には戦いが繰り

**主**はわたしたちが「義の武具を身に着け」なければならないことを僕たちを通して教えておられる(2ニーファイ1:23。エペソ6:13も参照)。

広げられています。わたしたちの敵は隣国から侵攻して来る軍隊でもなく、海を渡って攻めて来る外国の海軍でもありません。弾丸がわたしたちの頭上を飛び交っているわけでもなく、わたしたちの家や周辺に爆弾が落ちて来るわけでもありません。けれども霊的に壊滅させる力を持ち、わたしたちが油断していると霊的な敗北にたたき落とす能力を持つ敵と、生死をかけた戦いを展開しているのです。

もちろんわたしが言っているのは使徒パウロが述べたもろもろの支配と、権威と、闇の世の主権者、また天上にいる悪の霊との「戦い」のことです(エペソ6:12参照)。不道德や犯罪、薬物の乱用、そのほかわたしたちの社会に脅威を与えている狡猾な力による激しい襲撃のことです。これらの身近に差し迫っている影響力と切迫する危険が「悪魔の策略」(エペソ6:11)となるのです。わたしたちはこれらの「苦難の時代」(2テモテ3:1)に立ち向かわなければなりません。

パウロはこのように勧告しています。「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身に着けなさい。」(エペソ6:13)パウロは預言の力によって、現代に邪悪が蔓延する状態を予見することができたのでしよう。したがって、彼はすべての聖徒が守られるように、皆「真理の帯を腰にしめ」(エペソ6:14)、「平和の福音の備えを足にはき」(15節)、「信仰のたてを手に取り」(16節)、頭に「救のかぶとをかぶり」(17

節)、「御霊の剣、すなわち、神の言を取り」(17節)、そして常に祈る(18節)よう強く勧告しました。パウロは真理と正義、信仰、御霊、祈りという武具が、サタンとその軍勢が作り出して放つ「火の矢」(16節)から人々を守ることができると知っていました。

しかし、わたしたちが検討する価値のある武具がもう一つあります。それは神殿のガーメントあるいは聖なる神権のガーメントと呼ばれる特別な下着です。これは神殿のエンダウメントを受けた末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が着用します。昼夜を分かたず着用するこのガーメントには3つの大切な目的があります。すなわち、主の聖なる宮で主と交わした神聖な聖約を思い起こさせるものであり、体を守る覆いであり、キリストの謙遜な弟子たち全員の生活の特徴となるべき慎み深い服装と生活の象徴です。

次のように記されています。「白いガーメントは清さを象徴し、慎みを促し、神の属性を尊ぶ気持ちに向かわせ、パウロが考えていたように神の武具を身に着けていることのしるしとするまでに尊ぶ気持ちを抱かせる(エペソ6:13。教義と聖約27:15と比較)。……ガーメントには従順、真理、命、キリストの弟子であることに関する福音の原則を指し示す幾つかの簡潔なしるしが付けられている。」<sup>2</sup>

人の内面的な戦いと神の武具については語り尽くせないほど多くの事柄があります。この戦いはアダムの時代に地上で始まり、モーセの時代とイスラエルの

子らの時代を経て、時満ちる神権時代すなわち預言者ジョセフ・スミスを通して啓示が与えられたことを契機として始まった神権時代に至ってもなお続いています。したがって、サタンの火の矢に耐えるための守りとなる覆いは今後も大きな意味を持ち続けることになります。

わたしたちは使徒パウロが語り、現代の啓示によって再度確認された神の武具を身に着けなければなりません(教義と聖約27:15-18参照)。わたしたちはまた、神殿のガーメントに象徴される「義の武具を身に着け」(2ニーファイ1:23)なければなりません。これを怠るとわたしたちは戦いに破れ、そして滅ぼされてしまいます。

昔の兵士たちが身に付けていたかぶと、盾、胸当てから成る重い武具は、戦いの経験から考案されたものです。けれども、現代におけるわたしたちの人生の戦いに勝つには、霊的な武具を身に着けている必要があります。それは神を信じる信仰、自分に対する信仰、自分が心に抱いている目的を信じる信仰、指導者を信じる信仰で構成される武具です。神殿のガーメントと呼ばれる武具は体を覆う布によって安らぎとぬくもりを与えるだけでなく、これを身に着けている人に誘惑を退ける力、邪悪な影響力に抵抗する強さ、正義をしつかりと守る強さを与えてくれます。

## 歴史的背景

「主に関すること」(2ニーファイ4:16)には、この世の初めから神聖な衣も含まれていたことを理解しておかなければ

なりません。古代の人々が特別な衣服を着用していたことについては聖文の随所にその記述を見つけることができます。アダムとエバはエデンの園を追放される前に、聖なる衣を着せられました。このように記されています。「主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。」(創世3:21)

二人は贖罪と犠牲、悔い改め、赦しについて教えを受けたときにこの衣を与えられました(モーセ5:5-8参照)。末日聖徒に与えられている神殿のガーメントも同じような状況の下であてがわれました。引き続き悔い改める必要があること、主の宮で交わした聖約の持つ拘束力を尊重する必要があること、約束された祝福を受けるために日常生活で徳を大切に、分かち合う必要があることを、着用する人に思い起こさせるためにガーメントは与えられます。

モーセはアロンとそのほかの人々に聖なるガーメントと祭服を渡して、彼らが幕屋で儀式を執行するための準備をさせるように主から命じられました。主はモーセにこのように命じておられます。「イスラエルの人々のうちから、あなたの兄弟アロンとその子たち、……とをあなたのもとにこさせ、……またあなたの兄弟アロンのために聖なる衣服を作<sup>うろわ</sup>って、彼に栄えと麗しきをもたせなければならぬ。……祭司としてわたしに仕えさせなければならぬ。」(出エジプト28:1-3)

旧約聖書の時代の選ばれた指導者たちが身に着けたアロンの衣服と祭服に

関しては、このほかにも「貴い衣」「栄光ある装い」「誉れある衣」「栄えある下服」「救いの衣」などの表現が用いられています。<sup>3</sup>これらの言葉は特に幕屋または神殿の儀式を執行する人々が着用した衣類を指していると思われませんが、「[神]の名によって自分自身を呼んで、……聖徒[になろう]と努めている者たち」(教義と聖約125:2)が日常生活で着用する神聖な衣を説明する際にも用いられています。神殿の中だけで着用する場合であっても、日常生活で通常の衣服の下に着用する場合であっても、神聖なガーメントはそれが作られている素材の価値をはるかに超えた誉れと栄光、貴い性質を持っています。「信仰の目」(アルマ5:15)によって見たときに初めて神殿のガーメントが持つ完全な価値と美しさを悟り、貴くまた栄光あふれるものであることに気がつくのです。

ブリガム・ヤング大学の古代聖典学名誉教授のヒュー・ニブレーはこのように記しています。「ガーメントはそれが示しているものが欠如しているとしたら、本来の意味を持ちません。……あなたが聖約に誠を尽くさず、忠実でなければ、それは守りとはなりません。それは、あなたがガーメントを汚さない程度だけの意味を持つにとどまってしまいます。あなたがガーメントを汚さず、あなたが清く、聖約に誠を尽くし、忠実であって初めて、ガーメントは意味を持つのです。」<sup>4</sup>

神権の儀式と神殿の儀式が人の子らの間で執行されていた時代の預言者、そして義にかなう聖徒たちは必ずガー

メントを着ていました。近代になって、教会が地上に回復されたとき、預言者ジョセフ・スミスは聖なる神殿に関連する神聖な神権の儀式について改めて啓示を受けました。預言者が受けた啓示にはガーメントに関する指示が含まれていました。

聖文にはガーメントと衣に関する記述が数多くあります。エノクはこのように宣言しました。「わたしは天が開くのを見て、栄光に包まれました(訳注:英語では“I was clothed upon with glory”で「栄光をまとう」という表現が用いられている)。(モーセ7:3)ヤコブは裁きの日についてこのように述べています。「わたしたちは、自分に罪があること、汚れていること、裸であることについて、すべて完全な知識を得る。また義人は、自分の喜びと自分の義について完全な知識を得、潔白を、まことに義の衣をまとう。」(2ニーファイ9:14)イザヤは喜びを表してこのように言いました。「主がわたしに救いの衣を着せ、義の上着をまとうせ」られた(イザヤ61:10)。アルマは「今清められていて染みのない、清くて白い衣を着ている……すべての聖なる預言者」(アルマ5:24)について述べています。以上をはじめとする預言者たちは、人の内の清さと純潔だけでなく、人がまとう染みのない衣についても示唆しています。染みのない衣とは、正しい生活と神への献身を表しています。

## 現代の預言者の教え

神殿のガーメントに結びついている守りと祝福の約束をあまりに多くの教会員

が深く考えることもなく安易に受け入れていることをわたしは心配しています。ある人々はガーマントを正しい方法で身に着けていません。周囲の状況に合わせてガーマントを脱ぐ人々もいます。このような人々は近代の預言者、聖見者、啓示者から与えられている指示を無視しており、霊的な守りを失う危機に自分自身を置いているのです。

1974年7月3日付けの手紙で、大管長会はガーマントの持つ神聖な性質について教会員に再確認しています。「ガーマントを着用している人々は、ガーマントが神聖であり最も大切なものであることを常に心に抱いていなければなりません。……たとえ、なにがしかの不都合を生じることがあっても、わたしたちが聖約を守ることによって与えられる祝福はそれを補って余りあるものです。聖約を破ることは、聖約に従順である者に約束された守りと祝福を失うことなのです。」<sup>5</sup>

大管長会はまた、神権指導者にあてた1988年10月10日付けの手紙で、ガーマントの着用方法について次のように大切な声明を行っています。

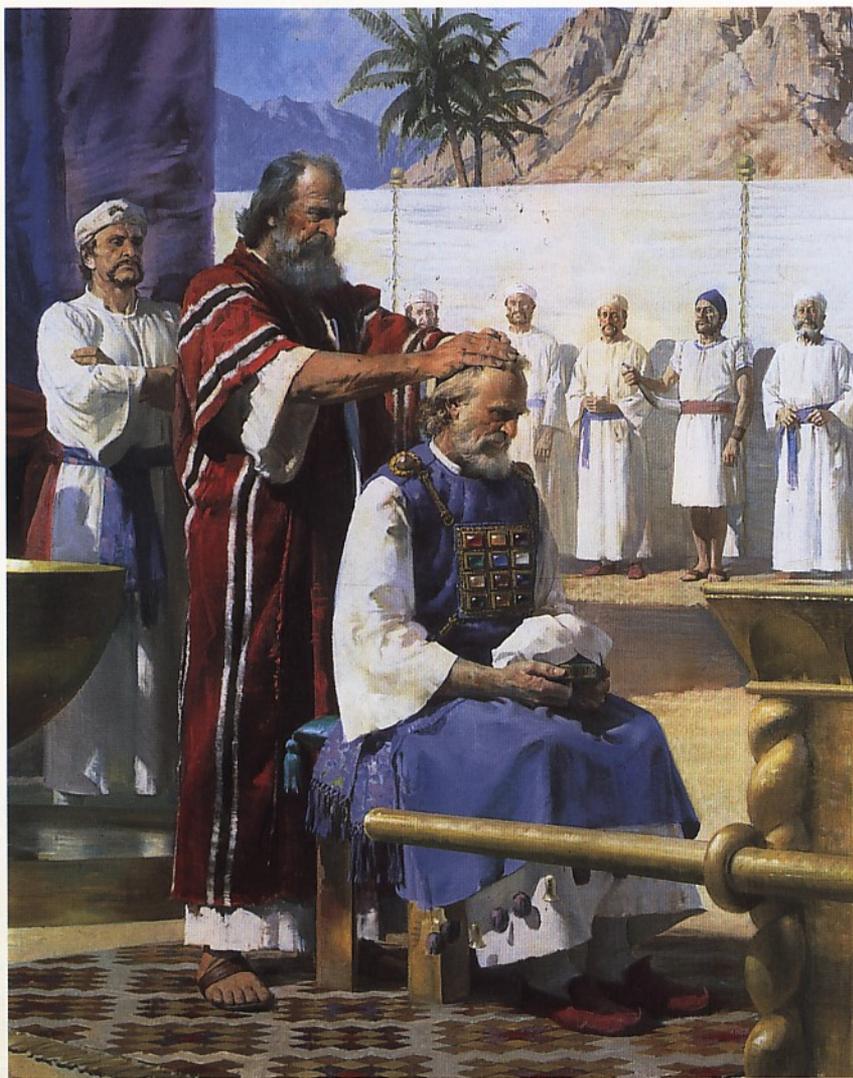
「神殿の中でガーマントを着用した教会員は、生涯それを身に着けるという聖約を交わしています。この聖約は、昼夜を問わずガーマントを肌着として身に着けるという意味に解釈されています。それは会員と主との間に交わされた神聖な聖約です。ガーマントの着用に関して個人的な疑問がある場合は、答えが得られるようにみずから聖霊の導きを求めなければなりません。……み



守りと祝福が与えられるという約束は、忠実にまたふさわしい態度で聖約を守る人々に与えられます。

基本原則は、ガーマントを常に身につけ、やむを得ない場合以外は脱がない、というものです。したがって、庭仕事をしたり、家庭で水着や慎しみのない服装でくつろいだりするために、ガーマントの一部または全部を脱ぐようなことをしてはなりません。また、通常の衣服の下にガーマントを正しく着用して行なうことのできる普通のレクリエーション活動に、わざわざガーマントを脱いで参加してはなりません。水泳のように、ガーマントを脱ぐ必要がある場合でも、終わり次第できるだけ早目に再び着用

「**主**なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。」(創世3:21)二人は贖罪と犠牲、悔い改め、赦しについて教えを受けたときにこの衣服を与えられた(モーセ5:5-8参照)。



**古**代の祭司の衣は「誉れある衣」や「救いの衣」と呼ばれている。これらの言葉は「〔神〕の名によって自分自身を呼んで、……聖徒〔になろう〕と努めている者たち」（教義と聖約125：2）が着用する神聖な衣をも指している。

してください。

この聖約の中には身体を適度に覆うという慎みの原則が含まれており、身に着ける衣服はすべてこの標準に合ったものでなければなりません。神殿で聖約を交わした会員は、主と交わした神聖な聖約のしるしとして、また、誘惑と悪から身を守る物としてガーマントを身に着けています。ガーマントをどのように着用するかにより、各自がどれほど強く救い主に従いたいという気持ちを持っているかが分かります。』<sup>6</sup>

ジョセフ・F・スミス大管長はガーマントを正しく着用することについて断固とした意見を持っていました。スミス大管長はこのように述べています。「主はわ

たしたちに聖なる神権のガーマントをお与えになりました。あなたがたはそれがどのような意味を持つかを知っているはずです。けれども、世の愚かで、むなしく、そして（このような表現を許していただきたい）下品な習わしに迎合するために、ガーマントを意味のないものにしてしまっている人々がわたしたちの中にいます。彼らは流行を取り入れるために、この世のあらゆるものの中で最も神聖であり、徳の次に大切な、かつ清い生活の次に大切なものを、ためらうことなく捨ててしまっているのです。彼らは神がお与えになったこれらのものを神聖に保ち、神がお与えになったとおりの形を変えようとしてはならないのです。流行というささやき、特に、わたしたちに聖約を破らせ、悲しむべき罪を犯させようとする流行に立ち向かう勇気を持つようではありませんか。』<sup>7</sup>

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老はその著書『聖なる神殿』の中で、ガーマントを正しく着用することがなぜ大切なかを簡潔に説明しています。

「ガーマントは神聖な聖約を受けたしるしです。また、ガーマントを着る者に慎みを教え、盾となり守りとなります。

ガーマントを着たからといって、世の人々が普通に着ているような流行の服が着られないというわけではありません。ただ、ガーマントを着ると、慎みのない極端な服装はできなくなります。』<sup>8</sup>

ガーマントや、その着用方法および扱い方についてこれ以上の言葉が必要でしょうか。原則ははっきりと述べられています。その原則に従うかどうかは

着用する人に、またその分別にゆだねられているのです。信仰を持つ人々はあらゆることについて命じられる必要はありません。なぜなら、彼らはどんなささいな事柄についても、またはモーセの時代のような行動規範のない事柄についても、自分の言動の言い訳をあえてしようとしなからずです。彼らはむしろ、神の正義と憐れみと寛容が彼らの心の中で存分に力を振るえるようにし、神と神の預言者が命じるままに自分たちの服装と行動を律しています(アルマ42:29-30参照)。

### 思い起こさせるものを持ち帰る

わたしたちが神殿を後にするとき、神殿の一部を持ち帰ることができるようにして下さった主の方法が、ガーメントであるとわたしは考えています。確かにわたしたちは靈感あふれる教えと神聖な聖約を、思いと心に刻み込んで主の宮から持ち帰ります。しかしながら、わたしたちが世の中へ持ち帰ることのできる一つの有形の記念がガーメントなのです。わたしたちはいつも神殿の中にいることはできませんが、その一部は常にわたしたちとともにあってわたしたちの生活に祝福をもたらしてくれます。

ガーメントという言葉は聖文の中で象徴的に用いられており、以下のような言葉に特別な意味を添えていることを忘れてはなりません。すなわち、白い、清い、義にかなう、慎み深い、覆う、儀式、聖なる、神権、美しい、完成、救い、汚れない、ふさわしい、白い衣、盾、守り、染みのない、非難の余地のない、武具、

聖約、約束、祝福、尊敬、永遠の命、などです。これらすべての言葉は、聖徒になることを心から求めている人々にとって、彼らの語彙の中で特別な位置を占めているのです。

信者の中でも特に選ばれたグループを指して、このように記されています。「サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。

勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。」(黙示3:4-5)

すべての教会員が白い衣を着て神とともに歩み、サルデスの聖徒たちとともに数えられるとしたら、それはどれほどすばらしいことでしょうか。

象徴的に言えば、わたしたちの救いはまさに、ガーメントの扱いにかかっています。預言者アルマは当時の教会員に対して、彼らの衣が象徴的にイエス・キリストの血によって洗われ、清められ、白くされなければ、彼らは救われないと告げました。アルマはこのように教えています。

「だれも衣を白く洗い清められないかぎり、救いを得られないからである。まことに、人の衣は、わたしたちの先祖がこれまで語ってきた御方の血によって、すべての汚れがきれいになるまで清められなければならない。その御方は、御自分の民を罪から贖うために必

ず来られる。

あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、心の中で自分は十分にへりくだっていると考えるであろうか。また、自分の衣は、将来御自分の民を罪から贖うために来られるキリストの血によって清められ、白くされていると言えるであろうか。」(アルマ5:21, 27)

わたしたちのガーメントがキリストの血によって清められ、わたしたちが思いと心で「シオンは美しさと聖さを増し、……その美しい衣を着なければならぬ」(教義と聖約82:14)という宣言を再認識することができるよう祈っています。□

### 注

1. As quoted by John Taylor, "The Organization of the Church," Millennial Star, 15 November 1851, 339.
2. Evelyn T. Marshall, "Garments," in Encyclopedia of Mormonism, edited by Daniel H. Ludlow, 5 volumes (1992), 2: 534.
3. Encyclopedia of Mormonism, 2: 534-5.
4. "Sacred Vestments: A Preliminary Report," Foundation for Ancient Research and Mormon Studies [1986], 13.
5. 1974年7月3日付けの大管長会からの手紙
6. 1988年10月10日付けの大管長会からの手紙
7. "Fashion and the Violation of Covenants and Duty," Improvement Era, August 1906, 813.
8. 『聖なる神殿』, 15, 17

# オールド・デゼ



# レト・ビレッジ

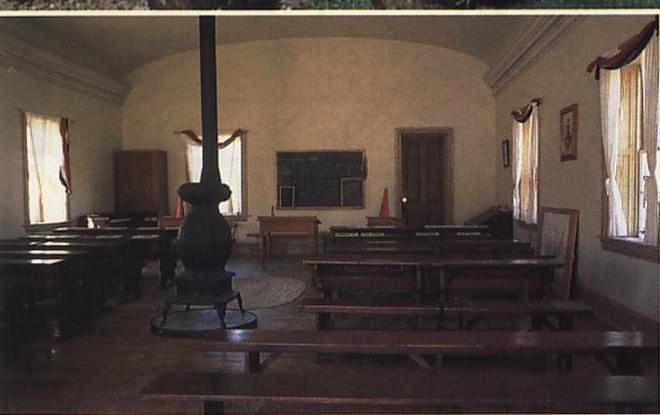
牛、畑、衣装をまとったボランティアの人々、  
そして歴史的意義のある建物。

ソルトレーク・シティーのオールド・デゼレト・  
ビレッジは、昔の開拓者について知る  
かけがえのない機会を提供しています。

**オ**ールド・デゼレト・ビレッジは、開拓者のソルトレーク盆地入植を記念して建てられた「デイス・イズ・ザ・プレース記念碑」の近くに位置しています。復元された家屋または、現存する1847年から69年当時の家屋や建物で構成されたこのオールド・デゼレト・ビレッジは過ぎ去った歴史を現代によみがえらせています。開拓者時代の衣装をまとったボランティアの人々が各建物を案内してくれます。また、いろいろな家畜が囲いや小屋の中に住み、畑は花や野菜であふれています。

ここに掲載された何枚かの写真を見れば、ほこりっぽいオールド・デゼレト・ビレッジの街路を歩いた気分を味わえるでしょう。そこに立つと、かじ屋かなづちの金槌の音が聞こえてくるかもしれませんし、牛の巨大さに驚くかもしれません。また丸太小屋1軒に何人の人が住んでいたのだろうかと思ひ巡らすかもしれません。そして教会歴史における献身的な開拓者に、より強いつながりを感じることでしょう。□

背景——メアリー・フィールディング・スミス(ハイラム・スミス夫人)の家。典型的な初期の西部開拓者の家屋。日干しれんがで造られている。左上(挿入)——この写真のような仮の住居としての丸太小屋は、初期の開拓者の町に多く見られた。左下——開拓者の衣装を身にまとったボランティアの人々が、忠実に再現されたオールド・デゼレト・ビレッジの雰囲気さをさらに盛り上げている。右下(挿入)——復元されたヒーパー東ワード学舎。1865年に建てられ、学校兼ワード集会所として使用された。



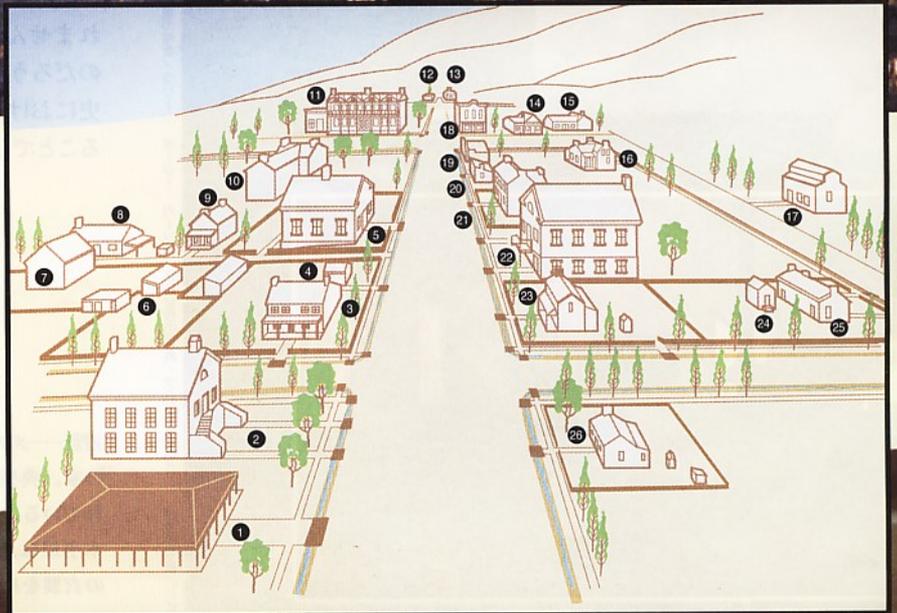
家屋および丸太小屋の写真／ラリン・ポター・ガント・若い女性の写真／タム・ハンブリン...校舎の写真／デビッド・ガント



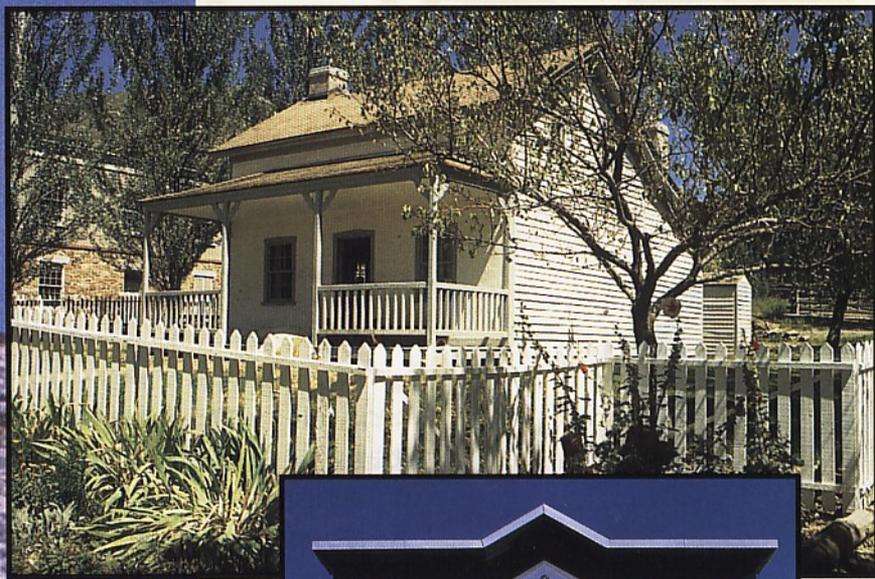
写真/タムラ・ハンフリン

### オールド・デゼルト・ビレッジの地図

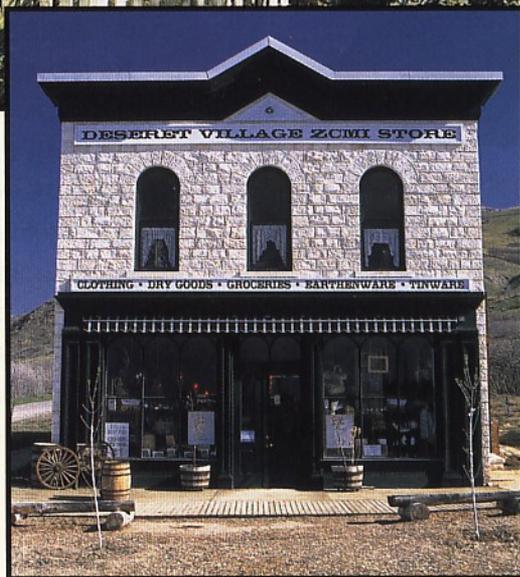
- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1. 休憩用のあすまや            | 14. ドラッグストアー        |
| 2. バインバレー教会堂           | 15. 家具屋             |
| 3. マイロ・アンドラス宅          | 16. ニールス・O・アンダーソン宅  |
| 4. エンス小屋               | 17. マンタイフォート製粉所     |
| 5. ヒーバー東ワード学会          | 18. 雑貨屋             |
| 6. 動物小屋                | 19. 銀行              |
| 7. サベージ馬小屋             | 20. 床屋              |
| 8. かじ屋                 | 21. ジョン・F・フェアバンクス宅  |
| 9. 公衆トイレ               | 22. 公民館             |
| 10. デゼルトニュース新聞社        | 23. サムエル・ジュークス宅     |
| 11. ハンツマンホテル           | 24. 穀物倉庫            |
| 12. 開拓者の丸木小屋           | 25. チャールズ・C・リッチ宅    |
| 13. メアリー・フィールディング・スミス宅 | 26. ジョン・W・ガーティナーの小屋 |



写真/デビッド・ガーン



写真/タムラ・ハンズリン



写真/デビッド・ガント

左上——1854年マンタイのシティークリーク  
溪谷の入り口に建てられた製粉所のレプリカ。  
製粉所は1857年にマンタイフォートのとりで  
内に移された。左——家具屋で旋盤の使い  
方を実演するボランティアの人。右——ルー  
サー・T・タトルがマンタイに1850年ごろ  
建てた雑貨屋のレプリカ。右上——イギ  
リスからの移民サムエル・ジュクスが、  
重いパイン材きくきと木釘でこの木造家屋を建てた。

# チャレンジを



回復のメッセージを  
宣べ伝えることは、  
実に素晴らしい特権です。  
皆さんは  
主に仕える備えが  
できているでしょうか。

十二使徒定員会  
L・トム・ペリー

**ア**ダム、エノク、ノア、アブラハム、モーセ、イエスキリスト、ジョセフ・スミスなどは、それぞれに新しい福音の神権時代を開いてきました。福音の神権時代とは、権能を与えられた、聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人、主が地上に置かれる時代を言います。主は一つの神権時代を起こされる時、その時代の人々が救いの計画を知るに当たって過去の神権時代に頼る必要がないように、新たに福音を啓示されます。ジョセフ・スミスによって始められた神権時代は「時満ちる神権時代」(教義と聖約112:30)と呼ばれています。

この神権時代は、預言者ジョセフ・スミスに権能の鍵が回復されてからキリストの再臨まで続きます。人類の父祖アダムがすべての神権時代の鍵を持っているにもかかわらず、ジョセフ・スミスは、これまでのすべての神権時代の鍵、力、栄光を集大成する「時満ちる神権時代」の頭に立っています。

時満ちる神権時代の重要性を物語る教義にふれるとき、特別な思いを感じます。わたしたちが生を受ける特権にあずかったこの最後の神権時代にこそ、主であり救い主である御方の再臨に備えてすべてのことが成就するのです。自分自身はこの神の計画のどこに位置するのだろうかと考えると、興味は尽きません。

教会において過ぎ去りし、また来るべき時代に目を向けて、わたしたちは、絶えず手を差し伸べるといふ教会の使

命を担わなければなりません。生ける預言者の指示に従うべく、今こそ主の言葉を世の人々へ、かつてない大胆さと勇氣をもって宣べ伝える時ではないでしょうか。わたしたちには教義的な基盤があり、組織があります。霊的に強い人々の多くいる所から指導者が養成されていき、やがて優秀な指導者が世界中で活躍するようになりました。ゴードン・B・シンクレイ大管長は、1995年10月の総大会における説教で、この時満ちる神権時代の次の偉大な時期へと向かうわたしたちすべてに、以下のような嘆願とも言える呼びかけをしました。

「わたしたちの周りには、この業の将来に無関心な人、冷淡な人、限界を口にする人、恐れを表す人が非常に多くいます。また、自分の思い込みだけで、まったく無意味なあら探しをし、それを公表することに時間を費やしている人がたくさんいます。過去への疑いを持つ人に、未来へのビジョンは開けません。

……福音を悲観的なものとしてしか受け取れない人々は、この業を理解することができません。福音はよき知らせです。これは勝利のメッセージです。熱い思いをもって受け入れるべき大義です。

主は問題が一つもないとは決して言われませんでした。教会員はこの業に反対する人々によって引き起こされる様々な苦難を体験してきました。しかしそれらすべての悲しみの中にあっても、信仰が表されてきました。この業は開始以来、常に前進を続け、後退したこ

# 受け入れる



とがありません。……

この偉大な業は過去においても栄光に満ちていました。それは、英雄的な行為と勇気と大胆さに満たされた時代でした。そして、主の僕のメッセージに耳を傾けようとしている全世界の人々に祝福をもたらすために前進しているわたしたちの時代も実にすばらしいも



この神権時代は預言者ジョセフ・スミスに権能の鍵が回復されたことによって始まりました。この時代に生を受けたことは、皆さんがこれまでの世代にも増して大きな力と影響力をもって、この回復のメッセージを宣べ伝える絶好の機会なのです。

# 受ける人々

のです。全能者が押し進めておられるこの輝かしい業の行く末は、何とすばらしいものになることでしょうか。神はこの業を通して、福音を受け入れ、実践しようとするすべての人を感化し、世の贖い主への愛で心を満たしている人々の無私の働きにより、あらゆる世代の神の息子娘のために備えられた永遠の祝福をも得させようとしておられるのです。……

皆さんにお勧めします。この教会の会員はどこにしようとも、力強く自分の足で立ち、心に歌を忘れずに前進し、福音に生き、主を愛し、王国の建設に励んでください。」(ゴードン・B・ヒンクレー「この道を歩み続け、信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号、76-78)

皆さんはこの特別な世代の一人なのです。主の業の歴史において、この重要なときに生を受けたことは決して偶然ではありません。それは絶好の機会なのです。皆さんはこの回復のメッセージを、これまでの世代にも増して大きな力と影響力をもって宣べ伝えることができます。皆さんは、天に最後までとどめおかれて、この時期に地上に来るよう備えられていたのです。主の偉大な軍勢の一員となり、また天父の子どもたちにわたしたちの主、救い主の福音を宣べ伝え、この時代を人類の歴史上最も胸躍るすばらしいものとするためです。この務めを果たすため、皆さんはかつて地上に生を受けたいかなる世代よりも高い教育と訓練を受けています。

力と影響力をもって福音を宣べ伝えるためには、言葉に行動が伴わなければなりません。主は、祝福を受けるために守らなければならない標準や価値観をお定めになりました。しかしながら、今日の世の人々は、主の標準に従って生きることによってどのような恩恵が受けられるかを理解できないでいます。

わたしたちが、従わなければならない道について、できるかぎりすべての事柄を学び、永遠の命を得るためにその道を進み始めたなら、今度はほかの人々、すなわち助けを必要としている天父のほかの子どもたちのために尽力する義務が生じます。それと同時にわたしたちは、神の計画に対する知識を得ると、様々な恩恵を受けます。何よりも大きな祝福は、この世を造られたイエ

ス・キリストへの深い恩を感じるようになることでしょう。救いの計画は救い主の必要性を強調しています。そしてイエス・キリストがこの役割を果たされ、わたしたちの罪を贖ってくださったのです。イザヤやペテロの言葉によると、「その打たれた傷によって、われわれはいやされた」(イザヤ53:5。1ペテロ2:24も参照)のです。

使徒パウロもこの恩を深く感じ、ローマ人へ次のように書き送っています。「兄弟たちよ、そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ12:1)

わたしは皆さんが力と熱意を奮い起





こし、わたしたちに与えられたこのすばらしい機会を捕らえて前進するようにチャレンジしたいと思います。預言者ジョセフ・スミスの言葉にもう一度耳を傾けましょう。「わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。……勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。心を喜び樂しませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。死者は、王なるインマヌエルに向かって永遠の賛美の歌を語り出しなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。」(教義と聖約 128:22)

わたしたちは世界各国の指導者たちが靈感を受けて、自国で福音が宣べ伝

えられることを許可して下さるようにと祈ってきました。その結果、何世代もの間閉ざされていた扉が文字どおり開かれるのを見てきました。この教会のメッセージは喜びと救いであり、地上のすべての人々にもたらされなければならないのです。ジョセフ・スミスがニューヨーク州北部で隣人たちに語ったと同じ証が、様々な言葉で伝えられなければならない。すなわち、神が生きておられ、イエスがキリストであられ、主イエスが昔説かれたと同じ福音が回復され、すべての人々が再びイエス・キリストの教会に集うことができるようになったということです。この偉大な時代にわたしたちに与えられたチャレンジを受け入れることができますように。□

(本記事は、1996年5月5日に開かれた教会教育システム主催のファイヤサイドでの説教を基に書かれました。)

**神の計画に対する知識を得ることによって、この世を造られたイエス・キリストへの深い恩を感じるようになります。わたしは皆さんが力と熱意を奮い起こし、わたしたちに与えられたこのすばらしい機会を捕らえて前進するようにチャレンジしたいと思います。**



# 御 霊 に よ り 高 め ら れ る

エバニール・カルドソ

**イ**ンスティテュート教師としてのわたしの最初の経験は、散々なものでした。丸1週間かけてレッスンの準備をしたものの、クラスが始まる前に言いたかったことの多くを忘れてしまい、1時間の予定のレッスンは30分で終わってしまったのです。

ブラジル・ジョインビルステークのファティマ支部で、支部長からインスティテュート教師の召しを受けたとき、わたしは自分の力に自信がありませんでした。それでも、この奉仕の召しを断りたくなかったので、聖文を勉強し、新しい責任を果たすに当たっての助けを求めて天の御父に祈り、準備したのです。しかし最初のレッスンを終えてみて、自分がインスティテュートの教師としてふさわしいかどうか分からなくなりました。

失望を感じていたにもかかわらず、心の中で「あきらめてはいけない」と強く促す声がありました。そこでわたしはもう一度、自分の力量不足を克服するために、聖文の研究に没頭し、断食し、助けを求めて祈りました。

2度目のレッスンの時間になっても、教えることへの不安はなくなっていませんでした。なぜ心に安らぎをもたらす聖霊の導きを感じられないのだろうかと思いました。わたしは生徒たちを歓迎し、全員で開会の賛美歌を歌いました。賛美歌を歌っている間、心の中では激しい葛藤かつとうがありました。「教師としての務めをちゃんと果たせるだろうか。」「主はわたしの能力を引き出してくださるだろうか。」「生徒たちは御霊によって高められるだろうか。」

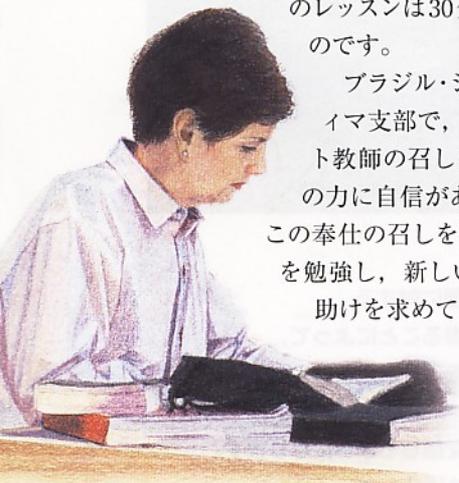


不安が頂点に達したとき、わたしは心の中で叫びました。「ああ、神様、どこにおられるのですか。わたしにはあなたの助けが必要なのです。」

一人の生徒が祈りをささげてくれ、わたしはレッスンを始めるために立ち上がりました。話をしているうちに御霊を感じ、すぐに自分の中である変化が起こりました。もはや緊張感はなく、声は冷静になり、話すべき言葉が次々と出てきました。こうして、準備したことを全部思い出すことができました。

やがてレッスンが終わりました。レッスンがうまくいったことがうれしくて、助けてくださった天の御父に心から感謝しました。感謝せずにはいられませんでした。

御霊が注がればクラス全員が高められることを、わたしは学びました。召しを引き受け、困難に屈せずにやり遂げようと努めるとき、わたしたちは一人ではないのです。□





「神殿における足の不自由な人の癒し」ジェームズ・シャーク・ジョセフ・テイソ画  
イエスは、神殿の「屋敷」の美しい床に人々を呼び出し、また同族人の首を、ほどを赤き糸の襪をはきつけた。後、  
「盲人や足なすがびを癒した」に在るため、彼らを癒しやりに行った。」(マタイ21: 12、14)



「**す**ると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。

ところがイエス自身は、<sup>とも</sup>船の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおほれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。

イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。

イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。』」(マルコ4:37-40)



## ヒンクレー大管長、チリの聖徒たちに語る



チリの全末日聖徒の10パーセント以上がゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教を聞くために集まった。

**ゴ**ードン・B・ヒンクレー大管長は最近、チリのサンチアゴで、現代の教会の歴史上、アメリカ合衆国以外では最大の会員数と考えられる聴衆を前に説教した。4月26日、新たに建設されたコロンビア・ボゴタ神殿の数回にわたる奉獻式の間、大管長は飛行機でサンチアゴ入りし、そこで約5万7,000人の聴衆を前に説教したのである。この聴衆の数はチリの全教会員数の10パーセント以上に当たる数字である。

ヒンクレー大管長は、次のように語った。「わたしは、このチリで知り得た偉大で善良ですばらしい謙遜な人々に対して、いつも心の中に愛を満たしていくつもりです。この偉大な町サンチアゴの人々や南のコンセプションの人々。はるか南方の風の吹き荒れる地から、ここアントファガスタの間の北に続く大砂漠地帯やアリカの地に至るまで、この国土に住む人々への愛です。」

ヒンクレー大管長は、初めてチリを訪問したころの思い出を交えながら、次のように語った。「ロドルフォ・アケベード兄弟のお話を伺っていて、1969年にここを訪れたときのことを思い出しました。そのとき、わたしはアルゼンチンのメンドーサから飛行機で山々を越えてやってまいりました。

山々は乾燥していました。当時、チリは大変なかんばつに見舞われていました。長い間、雨が一滴も降らなかったのです。わたしがチリを訪れた目的は、ラシステルナの教会堂を奉獻するためでした。奉獻の祈りの中で、わたしは主に雨を降らせてくださるよう、お願いしました。」この後で、ヒンクレー大管長はロバート・バートン兄弟の言葉を引用して語った。バートン兄弟は、1969年当時、チリで伝道部長を務めていた人物である。「ヒンクレー長老の訪問の翌日、チリ南部で雨が降り始めました。その雨雲は次第に北へ移動し、国土全体に待望の雨をもたらしたのです。」

ヒンクレー大管長はさらに説教を続け、次のように話した。「それはわたしがしたことではありません。わたしたちの永遠の父なる神が、この地の人々のためになされた御業なのです。わたしはその雨が末日聖徒の信仰と祈りに対する答えだったと信じています。当時、末日聖徒の数はほんの一握りでしたが、その末日聖徒がいたことと彼らの信仰が全国土に祝福をもたらすに至ったのです。」

神殿については、ヒンクレー大管長は次のように語っている。「さて、今朝わたしは、兄弟姉妹の皆さんや幼くかわいらしい子供たち、美しい少年

少女のお顔を見えています。そのかわいらしいお子さんたちは、皆さんのお子さんとなっていますでしょうか。皆さんに結び固められていますでしょうか。たとえ死が手出しをしようとも、永遠に皆さんのお子さんとなっていますでしょうか。この世においても永遠にわたっても、皆さんのお子さんとなっていますでしょうか。わたしの兄弟姉妹の皆様、まだ神

の宮にお入りになっていない皆さんに、わたしは今朝、力の限りを尽くしてお願ひします。

過去を悔い改めることを、今日、始めてください。神の宮へ行って、皆さんの最も愛する人々を、皆さんにとって最もかけがえない人々を、皆さんに結び固めることができるよう、生活を整えてください。」□



チリ、サンチアゴの記念スタジアムでの地区大会開会を雨の中で待つ教会員たち。

## 急速に進められる教会堂建設

**ゴ**ードン・B・ヒンクレ大管長は、新たな集会所建設の必要性について触れ、次のように語った。「わたしたちは、教会に加わる人々のために集会所を提供しなければなりません。」ヒンクレ大管長のこの言葉は、1998年11月6日にブリガム・ヤング大学において行われた説教の中で語られた。「教会は改宗者と自然増加の人数を合わせると、年間約40万人の割合で成長を遂げています。これは2,500人の会員を擁する新しいステークが、毎年、160誕生しているのと同じです。わたしたちは現在、毎年350から400の新しい建物を建設して

ますが、まだ不十分です。わたしたちはもっと努力しなければなりませんし、努力するつもりです。」

全世界における集会所や神殿の建設に加え、大規模な建設プロジェクトがソルトレーク・シティーの教会本部で推し進められている。テンプルスクウェアの北側にある通りの向かい側に2万1,000人を収容できる集会所が1年以内に竣工予定である。5月になると、メインストリートのノーステンプル通りとサウステンプル通りの間は永久に閉鎖され、テンプルスクウェアと教会本部ビルおよびその他の施設を含む区画を結ぶ歩行者

広場の建設が開始される。6月には、教会の中央配送センターにおける自動保管・配送施設の工事が始まった。

1999年5月現在における世界の教会建築物

- アメリカおよびカナダの集会所  
—5,400以上
- アメリカおよびカナダ以外の集会所  
—6,600以上
- 現在儀式が執り行われている神殿  
—57
- 宣教師訓練センター —18
- セミナー施設 —434
- インスティテュート施設 —313

## 女性の大会 家庭の本質

ジェリー・ドックスター

**十**二使徒定員会会員のL・トム・ベリー長老は、4月29日にブリガム・ヤング大学で行われた1999年度女性の大会のファイヤサイドで話し、その中で「来るべき新たな世紀と新たな1千年は、忘れられない時代となるでしょう」と語った。

「これまで過去100年にわたって見てきた驚くべき変化をともに喜びましょう」とL・トム・ベリー長老は続けた。「これらの変化は生活に祝福をもたらし、健康と福利を増し加え、苦悩と悲慘を減少させました。ただ、忘れることなく、失われてしまった価値あるもの、非常事態

の原因となる兆候、悲しみを招く可能性のある状況を見抜く知恵を持ちましょう。これらを記憶にとどめることから恩恵を受けられるのです。ただしそのためには、神と神の戒めからわたしたちを引き離すような誘惑に近づかないと決心しなければなりません。」

ベリー長老は、4月29日から4月30日までの2日間にわたってブリガム・ヤング大学で開かれた年次大会で、一般部会の話者を務めた。同部会では全部で4人の話者が話した。2万人近くの女性が、総数109に及ぶ発表を聞くために一堂に会した。さらに、10部門に関しては衛星放送で視聴した人々が百万人近くいたものと思われる。また、ウィルキンソンセンターの多くの会場では、発表者と訪問者の双方による人道主義のにっとなつた奉仕活動が実施された。これは、ブ

リガム・ヤング大学女性の大会の歴史上、初めての試みとなった。

発表者の話のテーマは、家庭、結婚、什分の一、キリストの弟子となること、運動と多岐にわたった。中でもいちばん人気のあった発表は、「経験を通して得られる力と知恵」と題し、大管長会の3人の夫人、すなわちマージョリー・P・ヒンクレ、フランシス・J・モンソン、ルース・W・ファウストと娘のキャサリン・ヒンクレ・バーンズ、アン・モンソン・デイブ、ジャナ・ファウスト・クームズの各姉妹によって行われた発表だった。

ベリー長老は、ファイヤサイドにおける説教の中で、(1)技術の進歩、(2)教会の発展、(3)家庭にもたらされた変化という20世紀に特徴的な3つの傾向に焦点を当てて話した。技術の進歩については、交通手段や伝達手段の高度化、

またメディアの発達について述べた。教会の発展については、全世界に回復された福音を広めるに当たり、歴代大管長がどのような貢献をしたかについてその概要を説いた。

家族については、過去1世紀の間に「失われた」ものが幾つかあることに触れた。「失われた大切なものの一つ、それは家族全員で取る食事です。今世紀の始めは、家族はすべての食事をともに取ることと決まっていた。」家族が失ったものの中でとりわけ大切なものは、家族の祈りそして家族がともに働くことだとペリー長老は語った。また時間と労力を省く現代の便利な発明についても言及したが、彼は続けてこう語った。「わたしたちは余分な時間を遊びやほかの活動、すなわち家族を社会の基本的単位として強化するのに役立つ活動にばかり使っていないでしょうか。昔はほんとうに大切だった家族や家庭生活の基本を守る有意義な家族の時間を持つことに、優先順位を置き計画する必要があります。」

### 「そろそろ見直す時期です」

4月29日に行われた女性の大会で、

「女性の影響がほかのものでは代用できない場所が幾つかあります。家庭はそのような場所の一つです」と中央扶助協会第一副会長のバージニア・U・ジェンセン姉妹は語った。

ジェンセン姉妹の発表「家族—そろそろ見直す時期です」の中でジェンセン姉妹は次のように語った。「日の栄えの家族を作るには時間がかかります。わたしたちは自分たちの時間を一体どのように使おうとしているのでしょうか。様々な理由で、時間が不足しているこの末日の世ほどこの質問に対する回答が大切な意味を持つてくる時代はありません。時間の過ぎ去るのは早く、貯蔵することはできません。買うこともできません。できるのは賢く用いることだけです。わたしたちは時間という神聖で高価なものに対する適切な価値観を持たなければなりません。」

「皆さんの人生は価値あるものです。なぜなら皆さんは皆さんの子供たちや、家族のほかの一員にとって価値ある存在だからです」とジェンセン姉妹は続けた。「家族の中でだれも皆さんの務めを代行することはできません。ほんとうに熱心に働き、家庭の中であって正しい環境を

築こうとしている皆さんは、今お金では買えない奉仕をしているのです。皆さんはこの働きの結果として、甘く貴い実を得ることでしょ。」

ジェンセン姉妹は母親たちに次のように勧めた。「皆さんの家族の必要と性格を考慮に入れてください。置かれている状況に応じて皆さんの仕事に優先順位を付けてください。そして自分に与えられた時間の中でできるかぎりそれらの必要に目を向けることです。もし正直に全力を尽くしたならば、罪悪感を覚える必要はありません。自分の家族やその中で仕え、養い、楽しみ、教えることのできる機会を天の御父に感謝することです」と忠告した。

これに続けて、ジェンセン姉妹は以下のように語った。「女性がすべて結婚するわけではありません。女性がすべて子供を産むわけではありません。まず忘れないようにしてほしいのは、だれもが一つの家族に属しているということです。第2に、母親としての仕事は、おば、姉妹、いとこといった人たちにもできるし、またしなければならぬということです。母親でなくても、家族を強めることができます。」□

## 子供たちが教会に活発であり続けるために

1999年2月、全教会員を対象にした以下の手紙が大管長会から送付され、「聖餐会で読み上げるとともに、ホームティーチャーが担当家族の家庭で読んでください」との指示があった。

「わたしたちの周囲には、青少年を傷つけることを意図した破壊的な要素が満ちています。わたしたちは、自らの選びにより主の道と教会のプログラムに添った生き方をしている教会の若人を心からたたえたいと思います。青少年の間に信仰が増し加わっていることを知るにつけ、とても喜んでます。

しかし、残念なことにサタンの仕掛けたわなに陥り、教会に活発でなくなったり、トラブルに巻き込まれたりしている人々がいます。わたしたちはそのような若人たちのことを非常に憂慮しています。

親である皆さんに、子供たちを福音の原則の中で教え育てることに全力を尽くして下さるようお願いいたします。そのことによって子供たちは教会に活発であり続けるでしょう。家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、神から与えられたこの責任を遂行するうえでの大切な役割を果たしてはくれません。

わたしたちは親の皆さんと子供たちに、家族の祈り、家庭の夕べ、福音の研究と指導、そして健全な家族活動を最優先するようお勧めします。必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけが全うできる天与の義務に取って代えられるものでは

決してありません。

監督およびほかの教会役員の皆さんは、親を支援するためにできる限りのことをして下さるよう切にお願いします。子供たちを主の道にかなった方法で養い育てるに当たり、必要なときはいつでも指導者が時間を割き助けてくれるのだと、親たちが感じられるようにしてください。どの地域でも可能なかぎり、親が子供たちとともにいられるように、日曜日の諸集会、すなわち3時間プログラムや、日曜日早朝の評議会、夕方遅くのファイヤサイド以外の集会は避けてください。わたしたちが家族を強めることによって、教会全体が強められることになるでしょう。」□

# 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1999年9月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』9月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」2-3ページ「わたしたちは、イエス・キリストとふくいんについてあかしすることができます」を参照する。

1.わたしたちは五感から多くを学んでいるが、霊的な事柄を学ぶには、それ以上のものが必要であることを子供たちに伝える。5人の子供に、ほかの子供たちと向かい合っているに座らせる。最初の子供に「クラスの1列目に座っている子は何人いますか」と尋ねる（または目に見えるものに関するほかの質問をする）。2番目の子供の後ろに立ち、その子供から見えないように、口笛を吹くか、ベルを鳴らす。その子供に対し、何が聞こえたか、そしてなぜその音であると思ったかを尋ねる。3番目の子供に目隠しをし、紙やすりか石けんを触らせる。触ったものが何であるか尋ねる。4番目の子供にしっかりと目をつぶらせ、レモンか、または分かりやすいにおいのものをかがせ、それが何であるか当てるように言う。5番目の子供に目を閉じるか目隠しをさせ、甘いものか塩辛いものを味見させて、それが何であるか尋ねる。五感はその中の物に関する情報を集めるために重要な道具であることを説明する。物事を知るために重要な方法がほかにある。自分が家族から愛されていると信じている人がいるかどうか尋ねる。どうしてそうであると分かるのだろうか。個人または家族でモルモン書を読むときに良い気持ちを感じる人がいるかどうか尋ねる。モルモン書の

中の物語を読んだり、聞いたりするのが好きな人は何人いるか。このような良い気持ちはモルモン書が真実であるという証の始まりである。ほかにも、何か物事を知る方法として、聖霊の力を通して学ぶ方法がある。モロナイ10：5を子供たちと読む。聖霊がわたしたちに証をされるときは、五感に頼るとき以上に、真理をより確かに知ることができる。祈り、戒めを守り、福音の中で絶えず成長するとき、聖霊がわたしたちに証される重要な事柄の例を挙げるよう尋ねる。次の言葉を書いた紙を子供たちにはらせる。「天のお父様は生きておられます」「イエス・キリストは救い主です」「ジョセフ・スミスは預言者です」「モルモン書は神様の御言葉です」「現代には生ける預言者がいます」これらのことが真実であり、天父とイエス・キリストは子供たちを愛しておられ、子供たちが自分自身の証を得られるよう助けてくださるという自分の証をする。

2.教会は世界中に新しい神殿を建設している。わたしたちは神殿に参入し、そこで聖約を交わすための備えができるように、信仰を築いていくことが大切である。神殿の写真を大きく引き伸ばし、厚紙にはりつける。それを5つに切り、パズルを作る。そのうちの1つは土台である。各々のパズルピースのために、単語を書いた紙と「手がかりカード」（以下参照）を作る。「証を得たり、築いたりするために、主がわたしたちに行うように期待されていることを、次の聖句から一つ探さない：（聖句挿入）。それを行うよう勧めている初等協会の歌を選びなさい。」パズルのピースと手がかりカードを各クラスに配る。各クラスに聖句を読ませ、証を得たり、築いたりするために

何ができるか決めさせる。クラスの代表にパズルのピースを適所に置かせ、適切な言葉を書いた紙をはらせる。そしてそのクラスが選んだ曲を歌うとき、そのクラスに指揮をさせる。言葉を書いた紙および参照聖句——祈り／マタイ7：7；マタイ14：23；アルマ5：46；教義と聖約88：126；聖文を学ぶ／マルコ12：24；マタイ4：4；ヨハネ5：39；戒めを守る／マタイ5：19；ヨハネ14：15；モーサヤ2：22；教義と聖約93：20；生ける預言者に従う／エレミヤ1：7；アモス3：7；教義と聖約124：45；イエス・キリストを証される聖霊に耳を傾ける／ヨハネ15：26；2ニーファイ31：18；モルモン書ヤコブ7：10-12；モーセ1：24

3.証を分かち合う方法は数多くある。その一つの方法は音楽を通してである。この分かち合いのためには、音楽指導者と協力する。ピアニストが最初の音を少し弾くか、自分で最初の小節をハミングし、子供たちにその初等協会の歌を当てさせる。その歌を何であるか当てた子供は、証をするかのように前に来させ、ほかの初等協会の子供たちとともに歌わせる。特に長い歌のときは、一度に二人以上の子供を前に来させる必要があるかもしれない。各々の歌で何を証しているか子供たちが理解できるよう、質問を1、2問行う。

4.そのほかの参考資料として、「フレンド」または『リアホナ』の大会号から中央幹部の言葉を探す。指導者は個人的な経験を話すことで、福音の証を述べるのがしばしばある。また、「イエス・キリストをあかしする人たち」『リアホナ』1999年9月号フレンド、8；「証」『リアホナ』1999年9月号フレンド、13；「ミミの証」『リアホナ』1999年9月号フレンド、14も参照する。□

# ケント・デリカット兄弟を招き、小松市で英語スピーチコンテストを開催

全国規模・恒例化への皮切りとして、全国に先駆けて行われる

去る7月17日、石川県小松市で、「家族」をテーマに英語スピーチコンテストとケント・デリカット兄弟の講演会が開催され、多くの市民が詰めかけた。

この催しは小松における末日聖徒イエス・キリスト教会と英会話の50周年を記念し、金沢地方部小松支部の50周年記念事業実行委員会により企画されたもの。対外的にはHOME運動協議会小松支部が主催し、小松市・小松市教育委員会・テレビ金沢・北國新聞社・読売新聞社・ラジオこまつ・エフエム石川の後援を受け、広く一般の認知を得て開催された。前日の7月16日には地域会長会のL・エドワード・ブラウン長老が小松入りし、教会を代表して、おもな後援者である小松市の西村 徹市長と北國新聞社を表彰訪問した。

HOME運動とは、大管長会による『家族——世界への宣言』の主旨に従い、「家庭の夕べ」プログラムを広く紹介して家族のきずなを強めるよう呼びかけ、地域社会の安定と発展に貢献しようとする運動で、日本では教会広報部が中心となって推進している。(『リアホナ』1999年2月号、チャーチ・ニュース、9参照)

催し当日、第1部のスピーチコンテストでは中学生部門5人、高校生部門9人、



表彰を受けるスピーチコンテストの参加者たち。

一般部門6人の計20人が出場し、末日聖徒の出場者4人も一般の応募者に交じって健闘した。審査員はケント・デリカット兄弟、小松イングリッシュ・アカデミー代表の玉置和子姉妹、そして後援の小松市から国際交流員のマドリン・サトクリフさんが務めた。壇上では中学2年生から65歳まで、学生、主婦、会社員など様々な立場の人々が熱のこもったスピーチを披露した。離婚した家庭のお母さんが子供たちに注ぐ視線、病に倒れた父親を巡って強められた家族のきずな、幼い息子へ寄せる思い、ほほえましい家族の日常、父親の役割……。子として、親として、異なった年齢層とそ

れぞれの視点から「家族」への思いが語られ、聴衆の共感を呼んだ。開会前の記者会見で選考基準について尋ねられた玉置姉妹は、英語能力もさることながら、話の内容を含めて聴き手の心に訴えかける力、総合的なコミュニケーション能力を重視すると語った。そうした意図から、会場入口で渡されたプログラムには各出場者の話の要約が日本語で添えられ、観客がよりスピーチを楽しめるように配慮されていた。

出場者のスピーチが終わると、ブラウン長老が壇上に立ち、主催者と末日聖徒イエス・キリスト教会を代表してあいさつを述べた。また第2部ではケント・デリカット兄弟の講演会が行われた。終了後、コンテスト各部門の成績発表と表彰式が行われ、ケント兄弟が入賞者にトロフィーと賞状を授与した。

なお、ここ小松市を皮切りに、今後同様のコンテストが各地で行われる予定。この秋(11月27日・家族の日)には全国大会として「第1回ブリガム・ヤング大学学長杯英語スピーチコンテスト」が開催される。各地から選抜された高校生を招待し、優勝者にはブリガム・ヤング大学サマースクールへの学費と旅費がBYU日本奨学金基金から贈られる。この日、高校生部門で優勝した谷野美和子さん(金沢市、北陸学院高校3年生)

## 自信と勇氣は親の愛から



家族のきずな、家庭の大切さについて語るケント・デリカットさん＝小松市公会堂

ケント・デリカットさんの講演(小松)から

「家族はかけがえのない宝物」  
ケント・デリカットさんは、子ども時代に、真実、が広がって、学校ではおぼろげに、はたはなして、家庭の大切さを学んだ。そして、その経験が、今、この瞬間に、小松市で開かれた「家族の日」に、ケント・デリカットさんの講演会に、英語スピーチコンテスト(HOME運動協議会小松支部主催、北國新聞社共催)でも、家族の大切さ、親の愛、子供の重要性が語られた。

「お金で買えない大切なもの」  
HOME運動のOMEは、家庭の大切さを、子どもたちに、教える。ケント・デリカットさんは、お金の大切さを、子どもたちに、教える。お金の大切さを、子どもたちに、教える。お金の大切さを、子どもたちに、教える。

「ファミリオン」  
ケント・デリカットさんは、ファミリオンという、お金の大切さを、子どもたちに、教える。お金の大切さを、子どもたちに、教える。お金の大切さを、子どもたちに、教える。お金の大切さを、子どもたちに、教える。

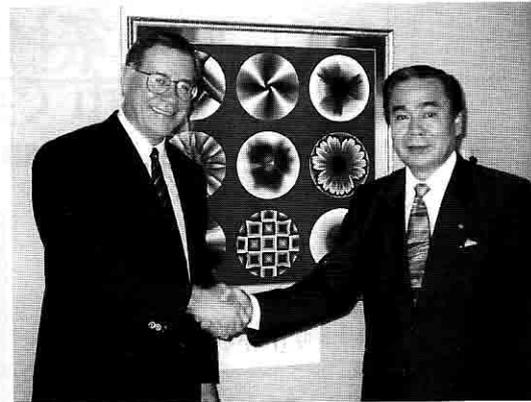


は全国大会への出場権を手にした。来  
年以降は小松市ほか全国主要都市8地  
区(福岡, 広島, 大阪, 名古屋, 東京  
南, 東京北, 仙台, 札幌)で地区予選  
が開催され, 各地の優勝者が全国大会  
に出場することになる。

当日, 会場となった小松市公会堂に

はスタッフ・観客合わせて約400人の人々  
が訪れた。そのうち約3分の2は教会員  
以外の方々に, 北國新聞, 読売新聞,  
NHKなど合計7社にも上るメディアの取  
材も行われ, 大きな反響を呼んだ。□

小松市の西村 徹市長を表敬訪問した  
ブラウン長老。



## 英語教室 半世紀続け

小松 末日聖徒イエス・キリスト教会



英語のレッスンを進める西村 徹市長  
-小松市丸の内、町末日イエス・キリスト教会

北國新聞  
1998年  
2月22日付

**国際交流の輪 広がる**  
小松市丸の内、町末日イエス・キリスト教会の英語教室が、今年で半世紀を記念して、2月22日(日)に「英語教室 半世紀続け」という見出しで、北國新聞に掲載された。この教室は、1949年8月に、石川県小松市に、初めて宣教師がやって来た。当時の日記によると、到着翌日に市長を表敬訪問し、その2、3日後にはもう地元  
の学校で英会話を教え始めたという。以来、小松支部歴代の宣教師たちは50年の長きにわたり、連綿と無料英会話という社会奉仕を続け、多くの人々が教会を知るきっかけともなった。  
その息の長い取り組みが、この日一つの節目を迎えた。小松支部と英会話の歩みを記念し、またHOME運動の一環として英語スピーチコンテストとケント・デリカット兄弟の講演会が開かれたのである。その模様は催しの前後を通じてテレビ・ラジオ・新聞などで報道され、ことに金沢地方部の広報ディレクターを務める玉置和子姉妹は2度にわたってFM・ラジオこまつの60分番組に出演、HOME運動についてじっくりと語る機会を得た。『家族——世界への宣言』に述べられているとおり、家族の大切さを市民へ広く呼びかけることができたのである。すばらしい成果を収めた活動であったが、ここに至るまでには1年半にわた

# 心をつなげて

## ●小松発 メディアを通して教会を知らせる

### 金沢地方部小松支部の足跡

る地道な積み重ねがあった。

最初のきっかけは新聞に掲載された1本の記事だった。1998年2月、北國新聞に「英語教室 半世紀続け」という見出しで小松支部の英会話が紹介された。そのとき新聞社に働きかけたのは、今回のスピーチコンテストを発案した小松支部の玉置姉妹だった。以下、これまでの小松支部の歩みを、玉置姉妹に代表して語ってもらった。

「あのときわたしは地方部宣教師でした。当時は英会話の出席が非常に少なかったんですね。そのころは金沢支部の記事がよく新聞に載っていました。そこで、小松の英会話も紹介できないだろうか」と伝道調整集会で話し合っ、じゃあわたしが新聞社に連絡してみますよ、と約束したんです。」

その後の小松支部の動きは目覚ましい。教会の「無料英会話教室」に新聞社の後援を取り付け、複数の新聞社や市の広報紙に英会話の案内が掲載されるよう手配した。その後も継続して働きかけを続け、新聞をはじめとするメディアの担当者との良い関係を築いていく。新聞で紹介されるまでは平均5、6人の出席者しかいなかった英会話は、一躍、常時20人以上の人々にぎわうようになった。

スピーチコンテストの構想が

浮上したのはこのころだった。

「2月に最初の記事が載って、3月には支部長会が、小松支部50周年記念事業実行委員会を発足させました。そこでまず小松の教会歴史を調べると、この支部が発展してきた基には英会話という奉仕があったことが分かり、じゃあ英語のスピーチコンテストをやりましょうということになったんですね。」

### 身近な人への影響力

さらに歴史を調べていくうち、46年前の支部草創期に小松で伝道したジェームズ・コードン・ホーガン長老が、そのとき夫婦宣教師として来日中であることが分かった。そこで支部長会は1998年4

## 米宣教師 46年ぶり小松へ

末日イエス・キリスト教会小松支部 会員が招く



小松市丸の内、町末日イエス・キリスト教会の歴史を振り返る。この教会は、1949年8月に、石川県小松市に、初めて宣教師がやって来た。当時の日記によると、到着翌日に市長を表敬訪問し、その2、3日後にはもう地元  
の学校で英会話を教え始めたという。以来、小松支部歴代の宣教師たちは50年の長きにわたり、連綿と無料英会話という社会奉仕を続け、多くの人々が教会を知るきっかけともなった。  
その息の長い取り組みが、この日一つの節目を迎えた。小松支部と英会話の歩みを記念し、またHOME運動の一環として英語スピーチコンテストとケント・デリカット兄弟の講演会が開かれたのである。その模様は催しの前後を通じてテレビ・ラジオ・新聞などで報道され、ことに金沢地方部の広報ディレクターを務める玉置和子姉妹は2度にわたってFM・ラジオこまつの60分番組に出演、HOME運動についてじっくりと語る機会を得た。『家族——世界への宣言』に述べられているとおり、家族の大切さを市民へ広く呼びかけることができたのである。すばらしい成果を収めた活動であったが、ここに至るまでには1年半にわた

ホーガンさん  
ホーガン長老は、1952年に小松に到着し、翌年から「無料英会話教室」の開設に尽力された。その後も、教会の発展のために、多くの献金や労力を注ぎ、教会の発展に大きく貢献された。今年、46年ぶりに小松に到着し、再び「無料英会話教室」の開設に尽力される。その模様は、2月22日(日)に開催される「英語教室 半世紀続け」のイベントで、詳しく紹介される。

「英語教室 半世紀続け」のイベントは、小松市丸の内、町末日イエス・キリスト教会で開催される。このイベントは、教会の歴史を振り返るだけでなく、英語スピーチコンテストとケント・デリカット兄弟の講演会も開催される。ぜひ、この機会に教会の歴史を学び、英語の力を身につけよう。

2月22日(日) 小松市丸の内、町末日イエス・キリスト教会

## 下宿先の娘らと対面

月、任地の名古屋伝道部からホーガンご夫妻を小松に招いた。ホーガン長老は当時世話になった会員たちを訪ね、亡くなった会員の墓参をした。その様子は、支部からの情報提供によって地元の新聞に大きく採り上げられた。

「教会の記事が新聞に出ると、どこにいちばん影響があるかという、教会員の家族なんですね。特に反対しているお父さんお母さんとか、兄弟、友人などに影響力が強いです。これは家族に反対されていた3人の独身の姉妹から聞いた話です。ホーガン長老の記事が出たときに、朝、忙しい時間にもかかわらずお父さんに呼び止められて、『おまえの教会が新聞に出てるよ』って言われたり、切り抜いてくれたりしたそうです。その3人のお父さんはいつもは反対していたのね。

また職場の同僚から『出ていたね』と言われた人もいますし、ある方はお孫さんを通して『おばあちゃんの教会の記事が載ってたってお父さんが言ってたよ』と告げられたりしました。

教会員の周りにいる身近な人は、その人が教会員であることを知っています。でも改宗してある程度長い期間がたっていると、身近な人に向かって、あえて『今度こんなプログラムがあるよ』とは、特に反対されていたら言いにくいですよ。でも、それとは逆にメディアを通して、娘や息子が行っている教会のことが好意的に紹介されると、ご両親はたぶん、すごく安心されるんじゃないかと思えます。『あ、こんなことをやっているのか』『変な教会じゃないんだ』というふうに。そうやって教会に対するイメージが築かれていくのです。」

その後6月にも、支部設立50周年に向けて小松の教会歴史を記念誌にまとめている活動が紹介された。また3月、6月、10月と定期的に無料英会話の案内も掲載され、英会話からの求道者が増え、うち数人は聖餐会にも出席するようになった。「小松で英会話に来られて、1か月以内にバプテスマを受けた姉妹が二人いらっしゃるんですね。それもほんとうにすばらしいことだと思うんです。広報活動の影響力の大きさがよく分かり

ます。」

### 信仰がありますか？

今でこそ複数の新聞社やテレビ局、ラジオ局と良い関係を築いている玉置姉妹だが、最初は大変に勇気が要ったという。

「いちばん最初の、英会話の記事を載せてもらったときです。新聞社に連絡します、と宣教師たちには言ったものの、そのときわたしにはほんとうに何の経験もなかったんです。わたしは20歳で学生結婚して家庭に入りましたから会社勤めの経験が一度もありません。まったくの素人なんです。ですから、その伝道調整集会の翌日に車を運転しながら、ああ連絡すると約束したから連絡しないといけないな、と思いましたが、気後れしてなかなか腰が上がりません。

そのときです。「成功しますか、失敗しますか、信仰がありますか」という声を心の中に強く感じたのです。

……主に対する信仰がありますか、と問われたら、それはやっぱりあります。それならば、宣教師が望むように、たくさんの人に英会話へ来てもらうために、信仰をもって行動しないとイケない。信仰があるから、じゃあやりましょう！と思いました。その思いがすごく励みになりました。」

今回の催しにおいて、小松支部や金沢地方部の会員たちはすばらしい働きをした。ちらしを駅の掲示板にはり出せるよう何件もお願いし、自分の住んでいる市町村の教育委員会を回り、また市内の町内会長さんのお宅を一軒一軒訪ねて回覧板に入れてもらった。町内有線放送に流してくれるようお願いした所もあった。

「今回小松の会員たちが行ってくれたことは、大変勇気の要ることなんです。わたしも今回のことで、いろいろな所で市長さん、局長さんといったすごい肩書きのある人たちとお話ししたり、打ち合わせをしたり、ラジオに出演したりしましたけれど、やっぱり最初は非常に勇気が要りました。出て来て対応して下さる方にはいろいろな人がいらっしゃいますから。時には『ああ、やりにくいなあ』という人も……。そんなとき、『成功しま



英会話を通じて改宗された姉妹たち。  
左—写真中央：中田啓子姉妹。1998年12月のバプテスマ。  
下—写真左から2人目：村永可奈子姉妹。1998年11月のバプテスマ。



すか、失敗しますか、信仰がありますか』と心に繰り返します。成功か、失敗か、それを決めるのはやっぱり信仰だと思わうんですね。ほんとうに、主は足りないところを必ず助けてくださるんです。強くそう思いますね。」

### 一致が鍵でした

「広報の仕事は、訓練を受けたこともなく、まったく初めてでした。でも、折にふれてこれをしないとイケないな、としばしば強く感じ、そのとおりにやっていくとうまく事が運んでいきました。ただ、教会の内部でお互い批判が強かったり一致がなかったりしたときには、記事の掲載を親しい新聞社の人とどれだけ約束してあっても、なかなか掲載されませんでした。『じゃあ、そろそろ書くね』って全部話がまとまっていて、でも1週間たっても2週間たっても記事にならなかったんです。毎日毎日今日かな、今日かな、と新聞を見ていたんですけれど。

長い準備期間を通して、皆が一致すると事が動き、ちょっともめるとまた止まる。そういうことがほんとうに何回もあったので、主は、その業を進めるときに、どんなに悲しいことがあっても、一致がないときには決して祝福を下さらないんだな、と感じました。

それから、主がヤレドの兄弟に『わたしに何をしてもらいたいか』と尋ねられたとき(エテル2:25)、彼は一生懸命考え、16個の石を溶かし出して来て光らせてくださるようお願いしましたね。……わたしたちも、ただ単に闇雲に、成功させてくださいと願うのではなく、自分でできることを一生懸命考えて工夫して、

教会がチームとしてみんなが一致して働いたときに、すばらしい祝福が来ると思っています。

ほんとうに主は、わたしたちが一致したときに、教会員以外の影響力を持っ

ている人を動かしてくださる。一致させればそれができるんです。」

実際、この日の催しを運営した小松支部の会員たちはすばらしいチームワークを見せていた。「そうして今日、たく

さんのメディアの方が取材に来られました。それが載ったらまたたくさんの方の反響があって、自然と教会に人が集まって、また大きくなる。そういういいサイクルになってほしいと思いますね。」□

## ブラウン長老、小松で家族の大切さを呼びかける

以下のお話は7月17日、小松のスピーチコンテスト会場で地域会長会のブラウン長老が聴衆に語ったものです。

**わ**たしの国の言葉でスピーチをしてくださった皆さんに心から感謝を申し上げます。心に深く感じるともすばらしいスピーチでした。今日話されたすべてのスピーチに共通していることは、わたしたちが幸福に生活するうえで、家族は基本の単位であるということです。もちろん、時に応じて家族にはいろいろと難しい問題が起こります。……父親の死亡や、離婚、時には障害を持った子が生まれるかもしれません。しかしこうしたことはすべて乗り越えられるものです。そしてたいていの母親は子供を立派に育て上げるのです。こういった女性たちを心から尊敬したいと思います。

今はほんとうに難しい時代、特に家族という価値観が攻撃にさらされている時代です。家族とは、もう時節に合わない古い考え方だという意見が広まっています。しかし、それではどうやって子供を育てるのでしょうか。政府が子供を育ててくれるのでしょうか。学校の先生たちが子供を育ててくれるのでしょうか。一体、だれが子供たちを育てるのでしょうか。馬でも牛でも、あるいは鳥でもだれかが育てます。しかしわたしたちは家畜ではありません。たとえ赤ん坊であろうと、人類であるかぎり動物とは違います。愛を必要とし、助けを必要としています。彼らをほんとうに大切に育ててくれる人が必要です。義務で働く雇われ人ではなく、進んで子供たちを世話してくれる人を必要としているのです。そうしたことを行えるのは家庭の中でだけです。

わたしたち末日聖徒の信条では、すべての人は神様の子供です。その子供たちが地上にやって来るとき、両親は、彼らを大切に育てよう神様から信頼されているのです。このことを心に深く考えていただきたいと思います。母親は子

供を出産するため病院へ行きます。子供を産むことには非常に苦痛を伴います。そうして小さなわが子を抱きます。そのとき母親はどう感じるのでしょうか。わたしは男性ですのでよく分かりません。ただ、想像することはできます。心からすべてをこの子にさげたいと感じているに違いないのです。この地上のどこを探しても、この子を彼女以上に愛せる人はいないのです。そういうわけで神様は、御自分の子供を、ほかのだれでもないこの母親の手に預けられたのです。

この場で何人かの方がお話しされましたように、子供が生まれて来ると時間を取られ場所を取られ、物質的にも様々な必要を伴います。それはしかし家族を一つにしてくれるものでもあります。わたしたちは子供のために自己を忘れて奉仕することができるのです。それは自然な行為です。でもわたしたち夫には時々難しいこともあります。男性は奉仕することをそこで学び始めます。家庭にやって来た小さな“怪獣”を妻と一緒に分かち合って世話をします。結婚によるストレスは難しい問題です。しかしわたしたちはここから大切なことを学ぶのです。

今日は非常に忙しい時代です。テレビのコマーシャルには“簡単に早く治す”頭痛薬や胃腸薬が登場します。すべての問題に対しての即効薬があるのです。あるいは子供がビデオゲームをします。ゲームに負けると、リセットボタンを押してすぐに元に戻すことができます。問題を解決することなく、ただ、簡単に治す……元に戻すのです。

しかし結婚にはリセットボタンはありません。それを子供たちもまた親も学ばなければなりません。わたしはこのことを確かに知っていますが、だれかのため

に、特に家庭の中で、犠牲を払って奉仕すればするほど、わたしたちには力がわいてきます。人格が成長します。そしてわたしたちはより善い市民または学生となり、わが子へのより良い教師となることができるのです。家族に代え得るものは何もありません。

そういうわけで、HOME運動は、次のことを提案したいと思います。今や家庭に帰るときだということです。家族のために時間を作る必要があります。それには良く計画しなければなりません。家族の時間は自動的にやって来ないからです。テレビを消し、あるいは家族全員で朝少し早く起きて、またテーブルを囲んで家族と一緒に食事を取る時間が必要です。とにかくまず計画をしなければなりません。

最後に一つお話ししたいと思います。建国間もないアメリカでのことです。初期のある大統領には若い息子がいました。息子はお父さんと釣りに行きたかったのです。しかしお父さんはほんとうに忙しすぎました。忙しい生活というものはどんどん時間が過ぎていきます。わたしたちはいつも忙しいのです。しかし気をつけなければなりません。忙しさにかまけているうちに子供は成長していき、ともに時間を過ごす機会は永久に失われてしまいます。

ついに息子はお父さんと一緒に釣りに行きたいと言いました。お父さんは釣りに行ってからそのことを日記に書きました。「息子と釣りに行った。一日無駄に過ごした。」息子もそのことを日記に書きました。「お父さんと釣りに行った。人生で最高の日だった。」

父親は自分ではなく子供の視線によって見なければならぬのです。□

# 名古屋大学祭でモルモンパビリオン

冬季オリンピックをきっかけに、2日間で400人にソルトレーク・シティと教会を紹介

「名古屋でも大学祭伝道したいね。」そんなことをインスティテュートの後など、関東で大学祭伝道の経験がある教師の兄弟方とよく話していました。一方、昨年、名古屋大学に在籍する教会員がわたしを含めて5人になり、名東の独身会員も25人を超えました。彼らを中心とし、ワード、ステーキ、インスティテュートの後援を受けて、有志による名大祭の準備が始まりました。

2002年冬季オリンピック、ソルトレークの見所、開拓者の経験を交えたソルトレークの歴史という3つの柱で展示を計画しました。ソルトレークや教会についてたくさんの人に正しく知ってもらい、彼らが次に宣教師たちに会ったときの備えにしたいと思ったのです。準備の間、インターネットで調べたり、ユタに留学中の友人にオリンピックグッズやユタの観光地のポスターを送ってもらったりしました。ソルトレークの歴史に関しては、今年ちょうどインスティテュートで教会歴史を学んでいたことが非常に役立ちました。また教師の兄弟たちから様々な視覚教材も貸していただけました。

本番の前日、会場設営をしている時、近くの大学に通っているというアメリカ人の留学生が来て「ユタから来ているわたしの友達が、名古屋大学でこのような展示するのを知ってほんとうに感動しています」と言ってくれ、それを聞いたメンバーも非常に励まされました。

そして迎えた初日の6月12日、祈り会で始めた10時の開場後、どんどん人が増えていきました。中高生のグループ、家族連れ、大学生、大学の先生など様々な人が来てくれました。

「冬季オリンピックのことをやっています、見ていきませんか？」と誘うと、「じゃあちょっと見ていこうか」と気軽に入ってくれます。そこで「長野に続いて今度ユタ州ソルトレークで冬季オリンピックが開かれます」とオリンピック種目やソルトレークの競技場の図を簡単に説明し、次にユタ州やソルトレークの見所とし



会場風景

みんなで協力して作成した畳3枚分の看板。「学生食堂の前に神殿を描いた看板が掲げられているのを見るのは大きな喜びでした」とスタッフは語る。



て、国立公園やテンプルスクエアなどを紹介します。そこでソルトレーク神殿の写真を見てもらい、ソルトレークは教会員の開拓者によってつくられたことや神殿の目的、教会は家族を大切にしていることを説明し、モルモン書を紹介しました。そして最後に開拓者の道のりを説明し、マーティン手車隊を助けた3人の18歳の青年のこと、かもめの奇跡の話など、開拓者が示した愛の行い、信仰、犠牲を紹介しました。

初め、気軽に入って来た人たちが、説明や証<sup>あかし</sup>をしていくうちに真剣に聞き入って、だんだん表情が変わっていくのがよく分かりました。多くの人は神殿の目的や建設の歴史の説明を聞いて、「すごい」「すばらしい」と言ってくれました。中には「神殿で結婚したい」と言い、モルモン書を喜んでもらった短大生の女の子たちもいました。会場に来てくれた人たちも、まだ福音を知らないだけで、皆、神様の子供であり、正しいことと神聖なことを分る力が備えられていると強く感じました。

会場が4階の教室だったにもかかわらず、結局2日間で400人以上に教会のことを紹介することができました。また、アンケートには350人以上の人が記入していただき、200人から住所をもらいました。オリンピック会場、国立公園、神殿のどこに興味があるかという問いに「神殿」と答えた人が150人もいたのはうれしい驚きでした。ソルトレーク神殿の絵葉

書も好評でした。アンケートのコメントも「ソルトレークに行ってみたくなった」「ユタ州のイメージがすごく神秘的な場所になった」「神殿がきれいで行ってみたいと思った」というものが多く、正しく理解していただけたことが分かりました。

先日、名古屋インスティテュートの教育デーでこの大学祭の報告をさせてもらいましたが、その日来てくださっていた地域会長会のブラウン長老が、この報告後のお話でこのように言われました。

「教会はただの仲良しクラブではなく…福音を伝えなくてはならない。そのためにはこの大学祭のように、効果的に教会のことを広報活動で伝えていく必要がある。専任宣教師の戸別訪問だけでは、主はなかなか来てはくたさらないだろう。」

教室の入口から出口まで説明にかかった時間は約15分であり、結果的に2日間の計13時間ほどで400人に神殿の目的やモルモン書の紹介ができたこの企画は、専任宣教師時代の経験からすれば、非常に効果的な広報、伝道活動になったと思います。

愛する仲間とみんなで一つのことを一緒にできれば、という思いがきっかけで始めた活動でしたが、主は天候も含めて様々な祝福を下さいました。いつかどこかの教会で「わたしが初めて教会を知ったのは、大学祭でした」という人が一人でも多く生まれるように心から願っています。(レポーター：藤田早苗 日曜学校独身会員クラス教師)

## 日々の恵み

### 「もうあなたたちとはつきあえない」

おおいしなな 大石奈央姉妹／東京東ステーキ鎌ヶ谷ワード

中学3年生の大石奈央姉妹にとって、これ以上勇気を必要とする言葉はなかった。小学生のときからミニバスケットボールを始め、中学校に進学した後もバスケットボール部に所属した奈央姉妹は、1年生のときからレギュラーとして活躍してきた。練習中に蹴られることもあり、肉体的にも精神的にもかなり厳しい練習が続いたが、3年間の充実したクラブ活動を通じてチームメートとの友情も育てることができた。3年生の夏が過ぎ、中学校生活でのバスケットボールに打ち込んだ時期も終わりを告げた。それまではバスケットボール部の仲間とのつきあいが多かったが、2学期からはほかの友達とのつきあいも増えるようになってきた。厳しい練習に汗を流したチームメートとは違って、校則に違反するような友達とのつき合いも増え、自分では悩みながらも断ることができず、誘われるままの生活がしばらく続くこととなった。「帰宅時間も遅くなり、母からも何度か注意を受けましたが、つきあいを断ると友達が怒るので、何も言えませんでした。」当時の友達との関係を奈央姉妹はこのように語る。

毎日、そのような友達と行動を共にしながらも、自分がどのような行いをしなければならぬのかも知っていた。しかし、それには勇気が必要だったので言葉で伝えることがなかなかできなかった。悩みながらも、隠れて悪いことをする友達にはっきりと伝えなくてはならないという気持ちが、奈央姉妹の心の中に強くなってきた。

「もうあなたたちとはつきあえない。」

この言葉を伝えるのはとても恐く、勇気の要ることだった。その言葉に驚いた表情の友達は、やがて奈央姉妹を嘲笑するような態度でなじり、その友達とのつきあいは終わることとなった。しかし、奈央姉妹に対する嫌がらせはそこから始まった。あらぬうわさを立てられ、学校では廊下で擦れ違う度に辛辣な言葉が投げかけられ、次々と友達が去って行った。一緒に3年間汗を流し、バスケットボールに打ち込んできた仲間までが、うわさ話を信じ、奈央姉妹から遠ざかって行った。「親友と思っていた人たちまでが離れ、無視されることで、人を信じることができなくなりました。」悲しみに打ちひしがれた奈央姉妹は毎日、神様に祈り続けたが、状況が劇的に変わることはなかった。その結果、登校拒否という道を選びそうになったが、「ここで休んだら負ける」という母親の言葉に励まされ、自分と闘いながら通学する決心を固めた。「どんなに頑張っても祈っても、嫌がらせは終ることなく、卒業するまで続きました。」祈りがこたえられないと感じていた彼女は、人間不信に陥り、教会へ行くことにもためらいを感じるようになり始めていた。「そんなときに、兄からユースカンファレンスへ行くことを勧められました。それまではバスケットボールがあったので参加できなかったのですが、何となく教会の人たちとの活動に参加してみようと思い始めました。」

彼女はユースカンファレンスで同じ世代の兄弟姉妹の証に触れ、改めて教会に集っている人たちの優しさや愛に感動したという。そして彼女も心を開いて、自分の悩みを打ち明けるようになった。真剣に彼女の話を耳を傾けてくれる友達は、一緒に彼女の悩みについても考えてくれた。「また、『砂の上の足跡』(原題:Footprints)の詩を聞いたとき、つらいときや苦しいときに、イエス様が自分と同じ思いをしてくださっていたことを知り、今までにはなかった感謝の気持ちで満たされました。」「砂の上の足跡」の詩の中で、人生を象徴する砂浜の上にはいつも自分と主の足跡が残されている。主はいつでも自分に沿うように歩いてくださっていた。しかし、人生でいち



大石奈央姉妹

ばん苦しかった場所には、一つの足跡しか残されていなかった。いちばん主を必要としたときに、なぜ、自分を見捨て、一人で歩かせられたのかと主に尋ねる。すると主は、苦しみや試みのときに、足跡が一つだったのは、御自分が背負って歩かれていたからだと言われた。奈央姉妹は、その詩に触れて、イエス・キリストの深い愛を感じたこと、自分が主に対して同じように誤解をしていたことを語ってくれた。

付属の高校に進学してからも奈央姉妹に対する嫌がらせは続き、大勢から罵声を浴びせられたこともあったという。「相手の悪口を言ったら自分に負ける」と思い続けた彼女は、事実無根のうわさを流し続け、嫌がらせをする人たちの悪口さえも、最後まで口にすることはなかった。そのような環境の中で耐えている奈央姉妹の姿を見て、高校生活では新しい仲間も増え、うわさを流していた人たちへの不信感も加わり、次第に奈央姉妹への誤解は解けていった。「同じような状況にある青少年の人たちもいると思います。つらいと思いますし、耐えるしかないと感じていると思います。でも、必ずだれかが理解してくれるはずですよ。そのような環境の中でも決して、人の悪口を言わない方がいいと思います。わたしは親や教会の友人に相談しました。そしてアドバイスを実行しました。そして堂々とした態度を持ち続けました。」つらい中、いつも助けてくれた家族への感謝の気持ちは忘れることができないと奈央姉妹は言う。教会の教えのすばらしさを感じ、真実の教えであるとの確信を深めた奈央姉妹は、現在、若い女性のローレルのクラス会長の責任を果たしている。「これからもいろいろと苦しいことはあるかもしれませんが、乗り越えられる



教会の友達と楽しく  
ガールズキャンプの計画をする奈央姉妹。

1950年代当時の教会員たちと宣教師。  
いちばん左が柳田兄弟。右から3番目が山口姉妹。

と思います。なぜなら、わたしは一人ではありませんから。」夏休みに行われるガールズキャンプの準備に追われる中、「砂の上の足跡」の詩を紹介しながら笑顔で語ってくれた。□

## 「どこかで聞いたことのある声だわ」

やなぎたしこ  
柳田聡子姉妹／横浜ステーキ都築ワード

人 生の中には思いも寄らない出来事がある。ほとんどの場合は「偶然」という言葉で片付けられてしまうが、柳田聡子姉妹が経験した出来事については、彼女は「神様の導きだった」と断言している。

「どこかで聞いたことのある声だわ。」

マンションの管理組合の総会で前方の座席で質問している女性の声になっていた山口さかえ姉妹は、自分の記憶をたどりながら、すぐに一人の女性の名前を思いついた。「柳田姉妹に違いない。」後ろ姿しか見えなかったが、絶対に間違いないと思った。しばらくしてから、柳田姉妹の席の隣に座った彼女は確信に満ちあふれて話しかけた。それに対して柳田姉妹は「どちら様ですか？」と尋ねた。

山口(旧姓・武井)さかえ姉妹と柳田姉妹との出会いは約50年ほど前にさかのぼる。「当時は、名古屋の杉山学園という所をお借りして教会の集会をしていました。山口姉妹とお会いしたのは彼女がまだ中学3年生のころで、高校1年生のとき、1950年



にバプテスマを受けられました。そのころの教会員の数は少なく、教会の建物がないころには、主人とわたしともう一人の会員の3人で集会を行っていました」と柳田姉妹は当時を回想する。「わたしがアロン神権を授かって、初めてバプテスマを行ったときの一人が山口姉妹だったんです。バプテスマフォントもなかったのです、木曾川でバプテスマの儀式を行いました」と柳田兄弟は振り返る。

「名古屋で最初の扶助協会の集会が持たれたときに、当時中学生でありながら、山口姉妹は集会に出席していましたから、生き証人ですよ。」まだ教会の組織が十分に整っておらず、年齢に関係なく集会に参加していたので、山口姉妹も柳田姉妹も一緒に集会に出席していたとのことだった。

バプテスマを受けてからしばらくすると、山口姉妹は母親の反対を受けて、教会から少しづつ遠ざかってしまった。柳田姉妹は何度か彼女の転居先を訪ねようとしたが、結局見つけることができなかったという。山口姉妹はその後結婚し、母親となり、東京の八王子に住むこととなった。「八王子に住んでいるときに、何度か宣教師を見かけたので、近くに教会があることも知っていました。実際、何度か教会の場所を探したのですが見つけることができませんでした。」山口姉妹の気持ちの中には青少年のころに培った信仰の火が消えてはいなかったもので、時々、教会のことが思い出された。教会からは遠ざかっていたが、ボランティア活動などには積極的に参加して、多くの人の助けとなってきた。そんな山口姉妹にも試練の時が訪れた。義理の母、そして夫が亡くなるとともに、知人からの嫌がらせが始まり、精神的な苦痛を感じ始めた。言われのないうさや嫌がらせは、彼女に恐怖感さえも与えるほどであった。慣れ親しみ、家族の思い出が詰まった家を去ることは悲しいことではあったが、精神的に苦痛を感じる環境から逃げるように、心機一転して1997年3月に現在のマンションに転居することに決めた。翌年の夏には柳田兄弟姉妹も棟は違うが、同じ公団のマンションに転居することとなった。

柳田ご夫妻(左)と山口姉妹(右)。



「今の人たちはいいですね」と柳田姉妹は言う。当時の教会員は仏教のお葬式などにも出席できなかったもので、前の日の夜にこっそりと出かけていって、親族を亡くした教会員を慰めることもあったらしい。山口姉妹も教会から遠ざかって45年になるが、当時の教えの影響か、家族を仏教の葬儀で送り出したことなど、教会員としてのふさわしさはないように感じていたとのことだ。しかしながら、青少年のころの楽しい教会での活動は彼女の心の中からは簡単に消え去るものではなかった。「長い間教会には来ていませんでしたが、信仰に反するような生活は送っていなかったという自信とプライドはありました。息子がアメリカへ旅行したときにも、ソルトレークを代わりに見てきてほしいと頼んだほどです。」

教会へ戻ることにためらいを感じていた山口姉妹に、柳田姉妹は「小さなことは気にしない方がいい」とアドバイスを送った。「わたしは50年も教会に来ていますが、いつも楽しいことだけに目を向けて信仰生活を送ってきましたから」とも言う。45年ぶりに再会し、87歳の柳田兄弟、80歳の柳田姉妹、64歳の山口姉妹は、再び3人で信仰の道を歩み始めた。

「絶対に、絶対に、神様の導きです」と柳田姉妹は満面に笑みを浮かべて山口姉妹と語り合う。「よく、50年近くにもなるのにわたしが分かりましたね。」マンションの管理組合の総会で山口姉妹が声をかけてきたときのことを柳田姉妹が思い出す。「すぐに分かりますよ。だって、少しも変わっていませんから」と山口姉妹は笑顔で答えた。□



## 来世での働きに召された兄弟

福岡ステーキ久留米ワード・故三牧敏行兄弟

わたしは1995年の12月に職場の定期健康診断を受けました。その結果、胃の通しでくばみがあるようなので二次検査の必要があると言われました。以前にも二次検査を受けて問題がなかったのです。心配もせず、翌年1996年2月に胃カメラ検査を受けました。ところがそこに悪性腫瘍すなわち胃癌が見つかったのです。すぐに入院し、胃の全摘手術を受けました。当時は支部長の責任を頂いていたので、急な入院で皆さんにご迷惑をかけました。しかし手術と抗癌剤の治療を終えて、5月の連休明けには退院することができました。教会にも集えるようになり、6月には職場にも復帰できました。これはステーキ会長会の方々の信仰篤い癒しの祝福と、ステーキ内はもちろん日本中の至る所で、またはるか海のかなたでお祈りしてくださった兄弟姉妹の信仰のおかげでした。

退院してからというもの順調に快復し、教会でも責任を果たせるようになりました。まず初等協会のCTRクラス教師に召されました。この責任はわたしにとってとても新鮮でやりがいのあるすばらしいものでした。改めて子供たちとイエス様の愛について考えるとき、それがいかに大きく偉大なものであるかが身にしみて感じられました。

翌1997年4月、早朝セミナーの教師に召されました。新約聖書コースでした。この召しこそわたしにとって新たな改宗の機会でした。レッスンの準備をするとき、また生徒たちに教えるとき、イエス様の気持ちをいつも感じることができました。そうしていろいろなことに直面したとき、イエス様ならこのように思い、行動されただろうと考えることができるようになりました。

しかし年が明けて1998年の3月、癌が腹部に再発しました。この年もセミナーの教師の召しを続けて受けたばかりでした。それも今回はモルモン書コース

です。これは今から23年前、わたしが高校3年生のときに唯一受けることができたセミナーのコースでした。これを受けてわたしは証を得、バプテスマを受けることができたのです。ぜひ教えたかったのですが、わたしはすぐに入院しなければなりません。しかし教育部の兄弟の計らいでそのまま教師として登録を受けることができました。

3月6日に入院して数日がたったときです。主治医の先生から、わたしの癌は進行が早くて、あと6か月しかもたないという言葉が聞かされました。しかしそのときは、そんなことはない、と思いました。なぜならわたしは、祝福師の祝福文の中で、「神様に任された子供たちを愛する姉妹とともに神様のもとに送り返すという神聖な務めを果たす喜びにあずかる」という祝福を頂いていたからです。癒しの儀式も受けました。たくさんの兄弟姉妹がわたしのために祈ってくださいました。それなのになぜ……。

それは消灯時間が過ぎた病院のベッドの上でした。わたしは信じられない気持ちで神様に祈りました。「神様、わたしは死ぬのですか……。」

ところが主の答えは自分の予想と違っていました。「そのとおりです」とおっしゃったのです。わたしはすぐに聞き返しました。「わたしが来世に必要なのですか。」主はまたはっきりと「そのとおりです」と答えられました。

「わたしは、お父様から預かった子供たちを立派に育て上げる責任がまだ残っています。彼らは受ける権利がある祝福を受けられなくなります。それよりも大切なことなのですか。」答えは同じ「そのとおりです」でした。

「わたしは、メルキゼデク神権を持つ者として、主の御心をこの現世で行い、もっと人々に奉仕の業を行う心構えを持っているつもりですし、そのようにしたいと思っています。わたしが現世で働くより、来世で働く方が重要なのです

か。」主は「そのとおりです」と答えられました。

「わたしは、まだまだ未熟な者で、現世でもっといろいろな経験をしたり学んだりしながら人格形成を行って、少しでもお父様に近づきたいしそうする必要があります。この学びの場を受けず、このような未熟なわたしが、霊界に必要なのですか。」主は「そのとおりです」と答えられました。

「わたしには、将来わたしの助けを必要とする両親と義理の母がいます。まだわたしは彼らに対してさしたる援助も模範も示せず、彼らにとって今わたしが逝くことは大きな落胆となってしまいます。それよりも重要なのですか。」主は「そのとおりです」と答えられました。

「神様、最後にもう一つだけ尋ねさせてください。あなたの愛する一人の娘であり、わたしの永遠の伴侶である姉妹は、わたしを失うことにより労力、苦悩、苦痛、心痛、不安、貧困などあらゆる試練を受けることになります。わたしはそれらのことを考えるだけで心が痛み、つらくて我慢できないほどです。わたしがこの最愛の姉妹にこのような大きな試練を与え、わたし一人だけが霊界に召されることが姉妹にとってそんなにも必要であり、重要なことなのでしょうか。」主は今までも増してはっきりと「そのとおりです」と答えられました。わたしはそれ以上何も言えず、幾らかの時間が過ぎ、気付いたときにはたくさんの涙を流していました。

やがて5月10日、抗癌剤の治療を終えたわたしは恵まれて退院し、その後は通院で治療を受けることになりました。早速セミナーの教師の責任を果たすことになりました。体調も良く、セミナーも順調に進んで行くにつれ、神様はわたしの病気を癒されたのではないかと希望的観測を持つようになりました。

三牧ご家族。1998年12月、三女の絵里ちゃんのパプテスマ会にて。長男の義也君がバプテスマを施し、ホスピスから外出して敏行兄弟が確認の儀式を行った。



ホスピスの祈りの部屋で  
点滴を受けながら  
セミナーの授業を行う三牧兄弟。



そんなとき、7月22日の外来治療でそのまま緊急入院するよう告げられました。腸に影響が出始め、大腸が3か所詰まり始めたとのことでした。抗癌剤治療の効果がでていなかったのです。病状告知では、大腸はこのまま快復することはなく、最終的には完全に詰まって食事が取れなくなってしまう、また体内の機能も働かなくなるとのことでした。現状ではこれに対する治療方法はないと言われ、わたしは完全に希望を打ち砕かれ絶望に身を沈めてしまいました。

そのとき、イエス様のこの世での最後の時を思い出しました。イエス様が苦痛と戦っておられるとき、天のお父様がじっと見守っておられる姿を思い描いたとき、この絶望はわたしがこの世で受ける試練だと受け取ることができるようになりました。そして3月に入院したとき、聖霊を通して主がささやかれたことを思い出しました。わたしが霊界に召される必要があること、わたしがこの地上でなすことよりも、霊界で働くことの方が重要であると言われた主の言葉を。

わたしは主を信じる決心をしました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約82:10)わたし

は後に残された家族のことだけが心配で、それがいちばんの苦痛でしたが、主のその言葉を信じることにしました。

そして主治医の先生と話し合い、ホスピスに転院することにしました。ホスピスが、これから神様に召されるまでの準備をいちばん整えやすい所だと思ったからです。これまで久留米にはホスピスはありませんでしたが、昨年初めてできたそうで、遠い地に行かずに済み、それだけでもわたしにとって祝福でした。わたしは職場に長期療養休暇の申請を行い、1998年8月20日に、これまでお世話になった久留米第一病院から聖母ホスピスに転院しました。

わたしは兄弟姉妹に心から証したいと思います。お父様は、イエス様と聖霊とともにわたしたちをいつも見守ってくださいます。お父様はすべてをご存じであり、全能の、完全な御方です。愛するわたしたちにいちばん大切なものを与えてくださいます。またお父様は、わたしたちすべての人類に自分と同じ永遠の命を受けてもらいたいと願い、これまでたくさんの働きをしてこられ、これからも続けて行かれます。わたしたちが神様の御心を心から受け入れること、それを信じて行うことが神様のもとに帰るいちばんの近道であることより証いたします。(みまき・としゆき)

編集室注—三牧敏行兄弟は去る1999年3月21日に亡くなられました。

## 神様は一人一人の必要とすべて御存じです 三牧桂子

ホスピスでの日々は祝福だったと思います。毎日病院へ行きいろいろなことを話しました。主人は最初わたしを残していくことをとても心配していました。一つ一つの小さなことについて、ちゃんとできるだろうか。でも結局は「神様の御心だから何も心配しなくていいよ、きっと守ってくださるから」と言っていました。わたしもそう思いました。主人に神様からの答えがあったので、わたしも冷静に受け止めることができたのです。子供の学校や勉強のことを話していたとき、「子供が教会に行き

セミナーをちゃんとすれば、それでよしというこ

とにしよう。いちばん大切なのは神様に従うことだから」と言いました。その言葉を必要ときに思い出し、子供を育てるうえでの指針にしようと思っています。

8月20日にホスピスに転院してから、ホスピスの祈りの部屋でセミナーを行いました。夏休み終了後は、日曜日に集会が終わってから行いました、時には具合が悪くて自習のときもありましたが、12月にセミナーが修了するまで続けられました。主人は、セミナーがとても大切だと言って、この責任をほんとうに喜んでいました。6人の子供たちに残した手紙の中にも、セミナーは必ず卒業するように書いていました。

ホスピスにいる間、よく外出しました。思い出を残したいと、子供たちと食事に行ったり、カラオケに行ったり、旅行したりしたのです。また買い物にもよく行きました。子供たちに残しておきたい物、記念になる物、またお世話になった人にあげてくれと、ナイフやライター、ライ

トなど(野外活動が大好きだったので)を買いました。

子供たちにはホスピスに転院してから、主人自身がほんとうのことを話しました、「お父さんがいなくなっても決して惨めになってはいけないよ、また会えるからね。神様のもとでみんな一緒に住めるように頑張りなさい。お父さんは先に行って待っているから」と。

状態が悪くなって個室に移ってからの2週間は泊まり込み、ほんとうにかけがえのない時間を過ごせたと思います。痛み止めのせいなどで意識がはっきりせず、眠っているときも多かったのですが、子供のことを心配したり、(わたしが病院にいることを)ありがとうと言ってくれたりもしました。長男が学校帰りに寄ったときは「これからはもうおまえの時代だから……」といろいろ話していました。また、先生が来られたとき、「あとどれくらいですか、全部準備できたから、もういいです」とも言っていました。



# 『リアホナ』の

亡くなった後、パソコンをプリントアウトしてもらったら、教会の兄弟姉妹への手紙、わたしへの手紙、子供たち一人一人への手紙が残されていたのです。兄弟姉妹への手紙(編集室注一本誌チャーチ・ニュース12ページ掲載の証)は、偲ぶ会のときに読み上げました。告別式にはほんとうにたくさんの方が来てくださいました。後で近所の方に会ったとき、「あんなお葬式は初めてだった。でもとてもよかった。あれだったら死が怖いものじゃないように感じるね」と言われました。また息子の中学校の校長先生は、「いろいろ考えさせられました。今まで仕事第一でやってきたので、これからもっと家族の事を考えていこうと思いました」と言われました。とてもうれしかったです。会社の方や教会を知らない方にも、主人の生き方が、ささやかなりとも考える機会を与えてくれたことを主人も喜んでいると思います。

すべては、神様のご計画で、最初の手術から2年間という準備期間が与えられたのだと思います。主人も「痛でよかった、いろいろ準備できるから」と言っておりました。「あなたたちには悪いけど、霊界に行くと神様の為に働くのを考えると楽しみのような気もするよ」とも言っていました。

それまでいろいろな心の葛藤もあつたようですが、ホスピスへ行ってからは(病状が進み苦痛が増すことへの不安はあつたでしょうが)死としっかり向き合い、心穏やかに、ある意味では毎日をエンジョイしながら過ごせたと思います。主人は今、すべての苦痛から解放され、喜びと平安の中にいると思います。残されたわたしたちは、主人が望んだように、再び家族がともに過ごせるように、この世の務めを頑張らなければと思っています。神様は一人一人に必要なことをすべて御存じで、必ず助けてくださいます。わたしにとっても子供たちにとっても必要な経験だったのでしょう。その意味を考えながら、主に従いたいと思います。神様はわたしたち一人一人を愛していらっしゃることを証します。(みまき・けいこ 教師養成コーディネーター)



国際機関誌編集部。コンピューターを前に。



『エンサイン』編集部。壁に試し刷りが貼ってある。



日系人マネージャーのマイケル・カワサキ兄弟。



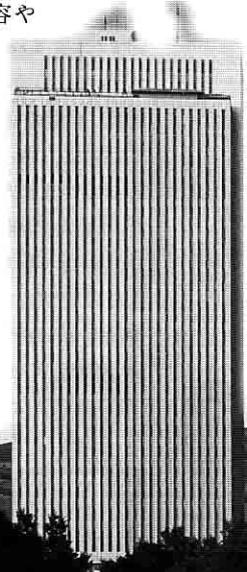
ソルトレーク配送センター。隣接して印刷センター、ブックセンターがある。

ソルトレーク・シティには地上28階建ての教会本部ビル(背景写真、ソルトレーク神殿の左隣の建物)があります。国際機関誌『リアホナ』の編集部はその25階に位置しています。ここで全世界32か国語に向けて機関誌が作られているのです。現在、誌面の編集・制作はすべてコンピューター画面で行われています(左写真)。

同じビルの中に英語で発行される教会の機関誌『エンサイン』(Ensign 一般向け)、『ニューエラ』(The New Era 青少年向け)、『フレンド』(The Friend 初等協会向け)の編集部もあります。『リアホナ』に掲載される記事はこれらの機関誌からの転載もありますが、独自に編集した記事もあります。また逆に『リアホナ』の記事が『エンサイン』などに転載されることもあります。

完成した『リアホナ』(英語版)は電子データの形でCD(右写真)に記録され、世界中に送られます。わたしたちの住んでいるアジア北地域では、日本と韓国でこのCDを受け取り、それぞれの言葉に翻訳して『リアホナ』を作ります。チャーチ・ニュースのページのほかは同じデータから作るのだから、言葉は違っても、記事の内容や写真の位置などは寸分違いません。

言語によってはソルトレークで印刷されてその国へ送られるものもあります。それらの印刷と全世界への配送を一手に担うのがソルトレーク印刷センターとソルトレーク配送センター



# 生まれる場所

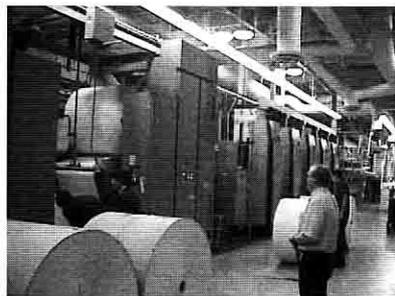
ーです(写真左)。広大な敷地の中に最新の印刷機器をそろえた近代的な工場(写真右)では、教会が発行する聖典、テキストや機関誌などあらゆる印刷物を、素早く大量に生産しています。完成した製品は巨大な体育館のような配送センター(写真下)にストックされ、発送ゲートからトラックに積まれて全世界へ送られるのです。ゲートの上には配送先の国旗



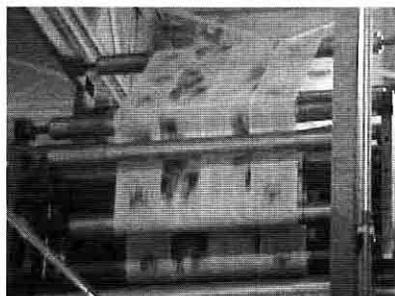
がさながらオリンピック会場の万国旗のように飾られています。

同じ建物の中にソルトレーク・ブックセンターがあります。日本の最大級の書店に匹敵する規模の教会書籍専門書店です。ここでは教会が発行する世界中の言語の本を目にすることができます。もちろん日本語の本のコーナーもちゃんとあります。

教会は大変な資材を投じて、聖典や機関誌をはじめ様々な書籍を作っています。それは人々を強め、神様の言葉に



5色オフセット印刷機



高速輪転印刷機



モルモン書の製本ライン

よって養いを与えるためです。その働きは1830年に最初のモルモン書が印刷されて以来、たゆまず続けられてきましたし、これからも続いていくことでしょう。こうして世界中の聖徒たちは各々自分の言語で福音のメッセージを聞くのです。□

## ワードで14冊を年間予約して活用

伝道や活発化の助けになるようにと『リアホナ』を14冊、年間予約しています。定員会や扶助協会を通して、新会員や経済的に余裕のない会員、さらに活発化の対象として働きかけている会員に提供しています。

『リアホナ』には、生ける預言者の教えや勧告、多くの教会員の経験や証が掲載されていますので、それを読むことで福音を实践するための様々な指針が得られます。絵や写真も多く、さらに子供たちのページもありますので、幅広い年齢層に喜んで読んでもらえます。提供を受けた会員たちも各自で注文し、継続して購読できるようになりました。ホームテイチングや家庭訪問でも『リアホナ』を携え、メッセージを分かち合っています。

首里ワードは二つに分割され、与那原ワードが誕生しました。御業は大きく発展しています。福音を携え、『リアホナ』をもっと効果的に活用することで、この業の進展を助けたいと願っています。(沖縄ステーキ与那原ワード監督・福山朝光)

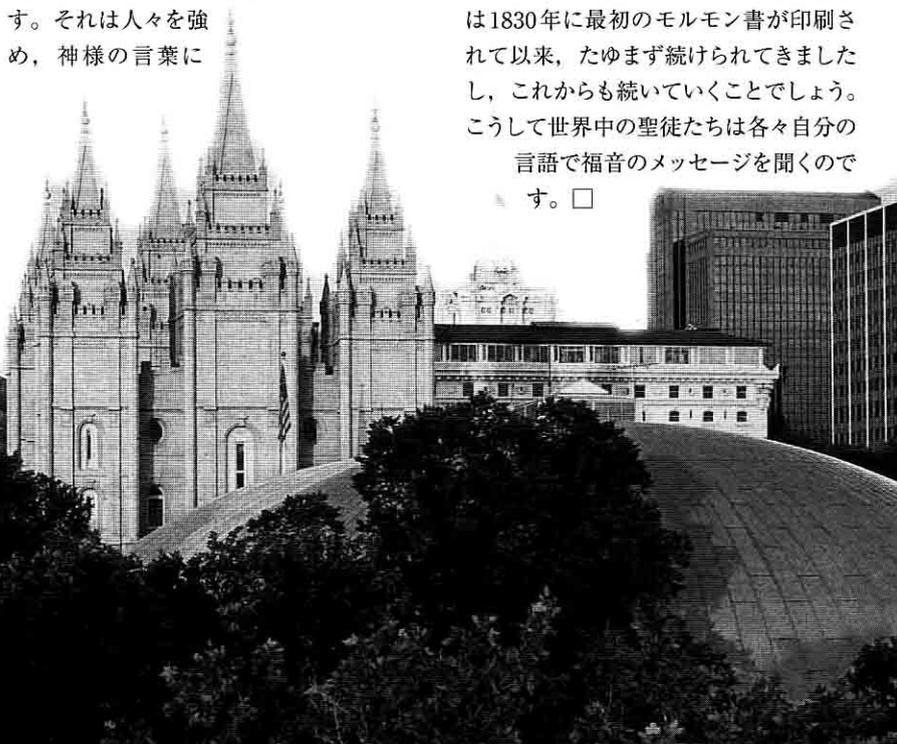
## 『リアホナ』をプレゼントする喜び

教会に今来られていない方々に、わたしたちが簡単にできて、それぞれの方々の救いに確実にプラスになるものは何かと考えると、『リアホナ』をプレゼントするのがいちばんいいとすぐに思いました。『リアホナ』は、たぶん聖典よりは親しみやすいし、あるときは聖文と同じように大きな祝福を受けられると思ったからです。

読んでほしい人を考えると、何人かの顔が思い浮かびました。お金の問題は、主人のボーナスの中から『リアホナ』用に貯金しておくようにしました。自然と無駄な出費は控えるようになり、その度にプレゼントしている人々について思い出すこともできました。

もちろん、うれしい結果がすぐに出るということは、あまりありませんでした。それでも真の教会に早く戻り、永遠の幸せを手に入れていただきたいとの思いから、毎年プレゼントを続けてきました。一時期、教会に来られなかったご家族が「プレゼントしていただいた『聖徒の道(当時)』がきっかけで、教会に戻って来ることができました」との連絡を頂いたとき、わたしたちはどれほどうれしかったことでしょうか。しばらくして「久しぶりに神殿に参入できました。ありがとう」との言葉に、お金では買えない贈り物を受けたような気持ちになりました。

教会に今、来られない方々には、それぞれの事情があるはずです。たくさんの祝福を頂き、活発に教会に集えるわたしたちが、愛するそれらの方々に、天からの恵みを伝えたいときにも『リアホナ』は、大きな祝福を人々に与えてくれるものであると証します。(長崎地方部佐世保支部・神澤万紀子 編集部注——神澤姉妹は、現在13人に年間予約のプレゼントをしている)



# 専任宣教師

1999年7月(238期生)8人 海外1人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



まりがやりようすけ  
**桐ヶ谷良輔**  
神戸伝道部  
東京北ステーク  
上尾ワード



てらもと  
**寺本とめ子**  
東京南伝道部  
ユタ・グラニッツステーク  
第1ワード



さくの あや  
**作野亜矢**  
福岡伝道部  
三重地方部  
伊勢支部



みやかわなおき  
**宮川直明**  
札幌伝道部  
東京西ステーク  
多摩ワード



ふくた  
**福田くみこ**  
東京南伝道部  
高松地方部  
徳島支部



ただ なおやす  
**多田真康**  
東京北伝道部  
高松地方部  
丸龜支部



たいら かね  
**平良 要**  
神戸伝道部  
福岡ステーク  
藤崎ワード



いしかわ さちよ  
**石川幸代**  
広島伝道部  
名古屋ステーク  
春日井ワード



とだ ゆうま  
**戸田祐真**  
ハワイ・ホノルル伝道部  
岡山ステーク  
福山支部

## 日本福岡神殿オープンハウスに招待したい方をご推薦ください。

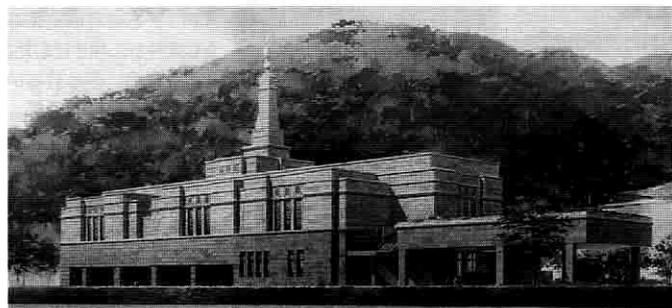
日本福岡神殿のための新神殿委員会では、2000年2月のオープンハウス(一般公開)に向けて、招待客のお名前を募集しています。地元以外の教会員の方で、福岡在住の友人、知人、ご家族にオープンハウスへ招待したい方がおられましたらご紹介ください。紹介いただいた方には招待状が発送されます。

**応募要項**●あなたの氏名、所属ワード/支部と、招待したい方の住所、氏名(必ずふりがなを付けてください)、郵便番号、あなたのご関係(例えば叔父、いとこ、親戚、仕事上の知り合い、学生時代の友人など)を明記して、以下まで郵便またはファクシミリでお寄せください。締め切りは**1999年11月末日**です。

**宛先**●〒150-0031 東京都渋谷区桜ヶ丘28-8 Fax: 03-3462-4890

教会広報部・日本福岡神殿オープンハウス係

**お問い合わせ**●Tel: 03-3496-7075 (教会広報部)



## 役員の変動

1999年7月10日から1999年8月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 宜野湾ステーク嘉手納支部  
支部長: 古堅 宗男
- 釧路地方部釧路支部  
支部長: 平田 篤人
- 名古屋ステーク中津川支部  
支部長: 神道 裕
- 三重地方部松坂支部  
支部長: 奥村 博和
- 青森地方部三沢支部  
支部長: 佐々木 正徳
- 札幌ステーク千歳恵庭支部  
支部長: 佐藤 弘己
- 長崎地方部長崎支部  
支部長: 宮川 尚孝

### 皆さんの原稿を募集しています

◎地域のニュース、あなたの証などを紹介ください。

◎ご投稿の際には連絡先、教会での責任、所属ユニット名を記入し、できれば写真を同封のうえお送りください。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、所属ステーク/地方部、ワード/支部MTC入所月、伝道部名を明記)

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『リアホナ』編集室  
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

### お詫びと訂正

- 『リアホナ』1999年8月号チャーチ・ニュース5頁の写真キャプションにおいて、「ニュース・ブロードキャスティング社の渡辺 潔社長」と「A-10アソシエイツ社の尾形 守社長」の位置が互いに逆に表記されていました。謹んでお詫びし、訂正いたします。